

**2025 大阪・関西万博を契機とした地方公共団体による
地域活性化に資するアフリカ地域との国際交流調査**

調査報告書

委託：内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

受託：東武トップツアーズ株式会社 官公庁事業部

目次

1. 調査の背景と目的.....	5
2. 実施内容	6
(1) 公募前における自治体からの申請促進のための情報発信・マッチング支援	6
(2) 調査対象自治体の選定	7
(3) 調査対象自治体の交流計画策定・取組への伴走業務	10
(4) 調査対象自治体の取り組み及び調査の成果の情報発信.....	11
(5) 万博国際交流プログラム登録自治体及び申請自治体に対する令和7年度国際交流需 要調査	11
3. 成果のとりまとめ	26
(1) 他の自治体への普及・展開方策について	26
① 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価	26
② 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制	26
③ 大阪・関西万博閉会後の事業継続性（相手国の関係性の評価）	27
(2) 成果の分析	29
① 調査対象自治体内への波及効果	29
② 実施により達成できた成果	30
③ 相手国への波及効果	31

④ 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与.....	32
4. 調査対象自治体ごとの実施報告書.....	35
(1) 北海道大空町.....	35
(2) 北海道浦幌町.....	40
(3) 宮城県利府町.....	49
(4) 秋田県にかほ市	53
(5) 山形県遊佐町.....	57
(6) 群馬県みなかみ町	63
(7) 神奈川県横浜市①	69
(8) 神奈川県横浜市②	73
(9) 神奈川県横浜市③	76
(10) 神奈川県横浜市④.....	79
(11) 神奈川県横浜市⑤.....	85
(12) 神奈川県大磯町	90
(13) 滋賀県近江八幡市.....	94
(14) 大阪府大阪市①	99
(15) 大阪府大阪市②	102
(16) 大阪府大阪市③	107

(1 7) 大阪府富田林市、大阪狭山市、藤井寺市、羽曳野市.....	112
(1 8) 大阪府河内長野市.....	116
(1 9) 大阪府松原市.....	121
(2 0) 大阪府和泉市.....	125
(2 1) 大阪府高石市.....	132
(2 2) 大阪府東大阪市.....	137
(2 3) 大阪府交野市.....	144
(2 4) 兵庫県南あわじ市.....	150
(2 5) 奈良県橿原市.....	158
(2 6) 広島県広島市.....	163
(2 7) 徳島県上勝町.....	168
(2 8) 徳島県松茂町.....	173
(2 9) 愛媛県.....	178
(3 0) 高知県本山町・土佐町.....	182
(3 1) 大分県杵築市.....	187
(3 2) 宮崎県えびの市.....	191
(3 3) 鹿児島県三島村.....	197
(3 4) 沖縄県宜野座村.....	203

1. 調査の背景と目的

2025 年国際博覧会は、20 年ぶりに我が国で開催される国際博覧会である。諸外国の関心も高く、現時点で 158 の国・地域の参加表明が得られている。

国際博覧会は、かつては、各国の産品や最新の科学技術の展示を目的とするものであったが、近年は、人類共通の社会的課題解決を目的とするものになり、各国の団体や人々が相互に意見交換を行う機会の創出等の参加型のイベントも開かれるようになった。自治体や地域住民にとっても、大阪・関西万博に参加し、各国と交流をすることを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などが期待できると考えられる。

予定を 1 年延期して 2021 年に開催された 2020 オリンピック・パラリンピック東京大会では、500 を超える自治体がホストタウンとなり、参加国・地域の事前合宿や選手と住民との交流等を計画した。新型コロナウイルスの拡大によって交流が行えなかった自治体が多いものの、住民の国際交流に対する関心は高まった。

ワクチン接種の広がり等から国を超えた移動に対する制約が縮小する中で、オリンピック・パラリンピックを契機とした交流が行えなかった自治体及び自治体の住民の間で国際交流に対する意欲はなお旺盛と聞いており、2025 年の大阪・関西万博は、こうした自治体が国際交流に取り組む格好の契機となる。

他方、大阪・関西万博の機会を活用した国際交流事業の在り方については、国及び自治体における知見の蓄積が十分でないために、令和 5 年に地域活性化に資する国際交流の取り組みにかかる調査を自治体に公募して実施した。しかし、申し込みがあった自治体の相手国は欧米やアジア地域が大部分であったため、万博を契機として①中東地域②アフリカ地域③大洋州島嶼国地域④中南米地域と自治体の交流を促進する仕組みを調査する必要があることが明らかになった。なお①～④の地域については、自治体との姉妹都市提携数も少なく、これらの交流実績が少ない地域との交流手法を調査する必要があることから、本事業においては、②との国際交流の取組事例を調査・分析し、地域活性化に資する国際交流施策に係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図る。

2. 実施内容

(1) 公募前における自治体からの申請促進のための情報発信・マッチング支援

万博首長連合やホストタウンアピール実行委員会の協力を得ながら、大阪・関西万博を契機とした国際交流を検討している自治体に対して本事業への応募を促すために直接本事業の説明を実施した。万博首長連合やホストタウンアピール実行委員会、自治体に精通した専門家の協力を得ながら、首長、首長レベルへ直接アプローチをすることで、申請が促進された。まだまだ交流実績が少ないアフリカ地域との交流を自治体に提案するにあたり、アフリカ地域に精通した専門家の力も借りながら、相手国の特徴を紹介することを意識して実施した。

(2) 調査対象自治体の選定

各自治体から提出のあった申請書を取りまとめ、選定委員会を実施。

内閣官房と選定委員 3 名のコメントをもとに、協議を行い 32 自治体 35 件の採択を決定。

調査対象自治体の交流実施概要

都道府県	自治体名	相手国	事業名
北海道	大空町	セーシェル	大空町「セーシェル共和国」教育交流事業
北海道	浦幌町	マリ共和国	A : 子ども交流イニシアティブ実証 B : 子どもスポーツ交流 C : 子ども音楽・文化交流
宮城県	利府町	ガーナ共和国	ガーナ共和国との文化・観光・産業・学生交流事業
秋田県	にかほ市	リベリア共和国	スポーツ・文化交流
山形県	遊佐町	マダガスカル	遊佐町・えびの市×マダガスカル共和国
群馬県	みなかみ町	コンゴ民主共和国	大阪・関西万博を契機としたコンゴ民主共和国との国際交流促進事業
神奈川県	横浜市 1 星槎高等学園	ウガンダ・コートジボワール・セネガル・ブルキナファソ・マラウイ・マリ	アフリカと日本の子どもたちの相互交流
神奈川県	横浜市 2 (学生会館)	エチオピア	鶴見区地域イベント「アフリカタイム」
神奈川県	横浜市 3 (南高校)	ガーナ共和国	アフリカと日本の子どもたちの相互交流
神奈川県	横浜市 4	タンザニア	タンザニアと日本の子どもたちの相互交流

神奈川県	横浜市 5 (商業高 校)	ケニア 共和国	横浜市立商業高校ケニア渡航
神奈川県	大磯町	ウガンダ共 和国	大磯こどもサミット
滋賀県	近江八幡 市	モザンビー ク共和国	大阪・関西万博国際交流推進事業
大阪府	大阪市 1 (天満 小)	ガーナ共 和国	大阪市立天満中学校の生徒を対象とした国際交流事業
大阪府	大阪市 2 (湯里 小)	ケニア共 和国	大阪市立湯里小学校の児童生徒を対象とした国際交流 事業
大阪府	大阪市 3 (大江 小)	ルワンダ共 和国	大阪市立大江小学校の児童生徒を対象とした国際交流 事業
大阪府	藤井寺市 羽曳野市 大阪狭山 市 富田林市	エジプト	エジプトと藤井寺市・羽曳野市・富田林市・大阪狭山市 の観光交流事業業務
大阪府	河内長野 市	ブルキナフ ァソ	2025 大阪・関西万博を契機としたブルキナファソとの国際 交流調査事業
大阪府	松原市	タンザニア	ティンガティンガ まつばら×タンザニア
大阪府	和泉市	セネガル 共和国	セネガル共和国との文化（スポーツ、音楽）を通じた交流 事業
大阪府	高石市	マダガスカル	高石市×マダガスカル マダガスカルフェア2024
大阪府	東大阪市	コートジボ ワール・タ ンザニア・ ベナン・ボ ツワナ	東大阪市万博国際交流プログラム

大阪府	交野市	エチオピア 連邦民主 共和国	交野エチオピア国際交流プログラム -アフターコロナ 100 年後に受け継がれる交野の郷土芸能 を目指して-
兵庫県	南あわじ 市	南アフリカ	子供たちが創る未来のチーズ文化～南アフリカ×南あわじ市 ～ワインとチーズと牛乳で大人も子供も乾杯！
奈良県	橿原市	ブルキナフ アソ	令和 6 年度内閣官房事業
広島県	広島市	カメルーン 共和国	広島発 バウムクーヘンが紡ぐ 世界に広がる笑顔の輪 ～広島市とカメルーン共和国都市をつなぐ交流事業～
徳島県	上勝町	ナイジェリ ア	町の次世代を担う子ども達につなぐ産業や人の行き来を 見据えたナイジェリア連邦共和国との交流事業
徳島県	松茂町	ガーナ共 和国	未来をつなぐ：松茂町とガーナの STEAM 教育とゴミアー ト交流プロジェクト
愛媛県		モザンビー ク共和国	愛媛・モザンビーク万博国際交流事業
高知県	本山町・ 土佐町	セーシェル	本山町・土佐町「セーシェル共和国」教育交流事業
大分県	杵築市	ジンバブエ 共和国・ ブルンジ共 和国	ジンバブエ・ブルンジと杵築市の万博国際交流事業
宮崎県	えびの市	マダガスカル	えびの市・遊佐町×マダガスカル共和国
鹿児島県	三島村	ギニア 共和国	大阪・関西万博を契機としたギニアとのジャンベ交流促進事 業
沖縄県	宜野座村	カメルーン 共和国	宜野座村とカメルーン・バカ族の異文化国際交流

（３）調査対象自治体の交流計画策定・取組への伴走業務

各自治体の計画書をとりまとめ、自治体が実際に取り組む事業の準備、実施、とりまとめにあたり、調査対象自治体に対し、打ち合わせ、アドバイス、関係団体への取り次ぎ、進捗管理や、ヒアリング等を実施。いくつかの自治体のイベントに当日参加し交流の観察と記録を行った。北海道大空町と高知県本山町・土佐町×セーシェル共和国の海外での交流事業にも同行し、イベントの観察と記録を行った。

各自治体で実施したイベントに参加した地域住民に対し、各自治体につき最低 1 回のアンケート調査を実施し、地域住民に対するイベントの波及効果についても分析を行った。

(4) 調査対象自治体の取り組み及び調査の成果の情報発信

◆ウォーカープラスへの掲載

株式会社 KADOKAWA が運営する月間 2 億 PV 超の日本最大級のお出かけメディアで、全国のお出かけスポット&イベント情報に加え、エンタメ、ビジネス、トレンド、ライフスタイル等の多彩なカテゴリを扱うニュースメディア・情報サイトに R6 年度事業の各自治体の実施レポートを作成。

大阪関西万博に関するイベント情報が多く掲載されている「関西満喫ウォーカー」に他地域の事業者と連携しながら情報発信を行った。

3 自治体ずつまとめて 8 本の記事を作成した。



記事 1 : 神奈川県横浜市・大阪府東大阪市・神奈川県大磯町

記事 2 : 大阪府松原市・秋田県にかほ市・兵庫県南あわじ市

記事 3 : 大阪府高石市・愛媛県・広島県広島市

記事 4 : 大阪府富田林市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市、奈良県橿原市、鹿児島県三島村

記事 5 : 山形県遊佐町・宮城県えびの市、北海道大空町・高知県本山町ならびに土佐町

記事 6 : 徳島県松茂町、大阪府和泉市、宮城県利府町

記事 7 : 北海道浦幌町、大阪府交野市、沖縄県宜野座村

記事 8 : 群馬県みなかみ町・徳島県上勝町

(5) 万博国際交流プログラム登録自治体及び申請自治体に対する令和 7 年度国際交流需

要調査

◆調査概要

令和 6 年度万博国際交流プログラムの採択自治体である 37 の自治体(43 件)に次年度の国際交流の予定について調査を行った。

調査年月：令和 6 年 9 月

調査方法：インターネット・調査表記入

調査対象：39 自治体（43 件）

回答件数：34 自治体（37 件）

調査対象自治体とその相手国 ↓

・所在地別採択自治体数

所在地域	件数
北海道	2
東北	2
関東	4
北陸	3
関西	11
中国	3
四国	5
九州	4
合計	34

・人口規模別採択自治体数

自治体規模等	件数
都道府県	5
1,000,000人以上	1
200,000~999,999人	3
100,000~199,999人	2
30,000~99,999人	8
5,000~29,999人	11
~4,999	4
合計	34

◆調査対象自治体一覧

都道府県	市町村	人口	採択件数	相手国	相手国地域	回答の有無
北海道	大空町	6,771	1	セーシェル	アフリカ地域	○
北海道	浦幌町	4,302	1	マリ	アフリカ地域	○
秋田県	にかほ市	23,047	1	リベリア	アフリカ地域	○
山形県	遊佐町	12,796	1	マダガスカル	アフリカ地域	○
群馬県	富岡市	46,427	1	ミクロネシア	太平洋島嶼国	○
群馬県	甘楽町	12,601	1	ミクロネシア	太平洋島嶼国	○
群馬県	みなかみ町	17,602	1	コンゴ	アフリカ地域	×
東京都	渋谷区	229,412	1	ペルー	中南米地域	○
神奈川県	大磯町	32,265	1	ウガンダ	アフリカ地域	○
富山県	南砺市	47,778	1	トリニダード・トバゴ	中南米地域	○
石川県	志賀町	18,747	1	アゼルバイジャン	中近東地域	○
福井県		759,777	1	ブラジル	中南米地域	○
滋賀県		1,413,989	1	ブラジル	中南米地域	○
滋賀県	近江八幡市	82,025	1	モザンビーク	アフリカ地域	○
京都府		2,501,269	1	チリ	中南米地域	×
大阪府	大阪市	2,741,587	7	ルワンダ・ケニア・ガーナ・ブラジル・ボリビア・ペルー・バブアニューギニア	アフリカ地域・中南米地域・太平洋島嶼国	○
大阪府	河内長野市	100,484	1	ブルキナファソ	アフリカ地域	×
大阪府	松原市	116,966	1	タンザニア	アフリカ地域	○
大阪府	和泉市	183,761	1	セネガル共和国	アフリカ地域	○
大阪府	高石市	56,992	1	マダガスカル	アフリカ地域	○
大阪府	藤井寺市・富田林市・羽曳野市・大阪狭山市	63,336	1	エジプト	アフリカ地域	○
大阪府	東大阪市	480,137	1	コートジボワール・タンザニア・ベナン・ボツワナ	アフリカ地域	○
大阪府	交野市	77,363	1	エチオピア連邦民主共和国	アフリカ地域	○
兵庫県	南あわじ市	45,193	1	南アフリカ	アフリカ地域	○
和歌山県	有田市	26,214	1	アラブ首長国連邦	中近東地域	○
鳥取県		546,558	1	ジャマイカ	中南米地域	○
広島県	広島市	1,184,731	1	カメルーン	アフリカ地域	○
広島県	北広島町	17,471	1	ドミニカ共和国	中南米地域	○
徳島県	上勝町	1,427	1	ナイジェリア	アフリカ地域	○
徳島県	松茂町	14,723	1	ガーナ	アフリカ地域	○
香川県	香川県	956,787	1	ブラジル	中南米地域	○
愛媛県		1,327,185	1	モザンビーク	アフリカ地域	○
高知県	本山町	3,299	1	セーシェル	アフリカ地域	○
大分県	竹田市	19,890	1	パラグアイ	中南米地域	○
大分県	杵築市	27,295	1	ジンバブエ共和国・ブルンジ共和国	アフリカ地域	○
宮崎県	えびの市	18,050	1	マダガスカル	アフリカ地域	○
鹿児島県	三島村	369	1	ギニア共和国	アフリカ地域	○

◆万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、パビリオンの準備・運営等に関わる者との

交流（概要列举）

- ・高校生を中心にパビリオンを訪問する。
 - ・ナショナルデーへの参加協力を交流相手国側から依頼されている。
 - ・パビリオンの準備・運営などに関わる相手国関係者およびウズビ・サコ氏と協働することを予定している。
 - ・相手国へ行った際に、日本の地域や万博の PR を行い、その際日本側の万博関係者とオンライン交流を実施し、万博への期待値を高める。
 - ・市関係者（国際交流協会等）が万博会場を訪問し、ナショナルデーイベント等に参加する。
 - ・ナショナルデーに相手国ブースを訪問し、関係者と交流を予定している。
 - ・夏季期間中あるいは相手国のナショナルデーの時期に合わせて、地域の子どもたちを万博会場へ招待・訪問することを検討している。
 - ・中南米全般の大使や万博担当者と調整し、交流相手国を中心に、中南米やアジア＋アフリカをフィーチャリングしたイベントを企画する。
- ナショナルデーのイベント参加、高校生によりホームステイ交流を行う。
- ・県民が相手国のパビリオンを訪ね、在京大使館職員の交流を介して同国の文化や歴史に触れるイベントの開催する。
 - ・大使館職員や万博関係者を招き、地域の史跡・名物などを紹介する。
 - ・地域と相手国の学生によるパビリオンでの学習発表会を行う。
 - ・相手国と交流のある地元高校生による吹奏楽の演奏、相手国の料理教室の開催、派遣された自治体職員による相手国の紹介などを行う。
 - ・相手国のナショナルデーのイベントに日本における交流都市として参加し、交流を進めていることを万博参加者に PR する。
 - ・地域の児童生徒が交流相手国パビリオンへ参加し、ナショナルデーのイベントに参加する。
 - ・交流相手国の万博参加者を自治体に招き、文化施設をはじめとする各地を案内する。

- ・交流相手国のメンバーとの個別打ち合わせを順次実施し、テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏や、本事業で連携する長坂真護氏（世界の電子機器の墓場と呼ばれるガーナのスラム街・アグボグブロシーなどを中心に廃棄物でのアート制作や現地人の雇用に取り組む）を中心に交流計画を検討している。
- ・県内大学生が相手国パビリオンを訪問し、パビリオン関係者と交流するとともに、SNS を活用して県民に情報発信する。
- ・ナショナルデー等での県民参加の交流イベントを行う。
- ・オンライン交流がメイン。地元の米を使用した交流を行う。（相手国の主食が米）

◆万博参加国・地域の関係者との交流（概要列举）

- ・相手国大使館と連携をとる。
- ・在日アフリカ人の団体との交流会の開催する。
- ・自治体内で開催される催しにて、アフリカ音楽 LIVE・ファッションショーなどのステージやフードマルシェなどアフリカ文化にふれるブース出展を行う。
- ・相手国の学校と自治体内の学校の間での「平和文化の振興」の重要性を学ぶなどの教育交流を行う。
- ・交流相手国を訪問する。
- ・交流相手国のナショナルデー終了後に、万博関係者が自治体を訪問して交流する。
- ・地元高校生と交流相手国とのホームステイ通した教育交流事業・学校訪問（出前授業）
- ・オンライン（ビデオレター）交流を行う。
- ・モザンビーク関係者を招いての地元住民も参加する交流イベント（文化・スポーツ等）を開催する。
- ・交流相手国の万博関係者を招き、地元の文化の体験ツアーを行う。
- ・地域住民が交流相手国のパビリオンを訪ね、相手国の在京大使館職員の交流を介して同国の文化や歴史に触れるイベントの開催する。
- ・首長をはじめとする使節団を相手国自治体に派遣し、公園の管理関係者や現地住民との交流の場を設ける。
- ・定期オンライン交流、オンラインによる学生イベントを実施する。
- ・姉妹提携を締結する相手国自治体の青少年を招聘し文化交流等を実施、在京相手国大使館と共催のジャマイカ料理教室やコーヒーセミナー等を開催する。
- ・交流相手国から青年を受入れ、地域住民や令和6年度大学生派遣の参加者等と交流する。
- ・在住する交流相手国の人々が学校又は学童等を訪問し、子どもたちと交流する。
- ・郷土の太鼓の演奏者が万博のステージで太鼓演奏を披露する。地元の学生が演奏会の運営を行う。

- ・現地の日本語教育を行う中等教育施設の生徒と日本の地域の高校生との交流を行う。
- ・万博訪問と併せて、地域での受入れも行い、地元高校での短期体験入学を実施する。
- ・日本側の高校生を交流相手国の学校へ派遣する。
- ・交流相手国の子どもたちとの、靴を届けるプロジェクト・子どもの思い実現プロジェクトを通じた交流を行う。
- ・万博のいのちパークにて、シグネチャーイベントとして、地域とその周辺に居住する市民を中心に、だんじりと西アフリカをフィーチャリングする形で、「世界いのち踊り」を開催したい。あわせて、他地域でも大きなイベントを開催し、日本中で太鼓・踊り・音楽を通じて子どもたちが地域の方や世界とつながることの醍醐味を伝え、未来の学び・遊び・探究につなげていきたい。

◆万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者との交流（概要列举）

- ・TEAM EXPO2025 プログラム参加団体・企業等に向けて取組内容を発信する。
- ・ウズビ・サコ万博副会長によるテーマウィークなどの取り組みの講演会の開催する。
- ・AFRICA EXPO に万博プロデューサーが参加予定。
- ・万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者を招き、自治体所有の宿泊施設「歓迎交流センター」に宿泊して同所にある戦争遺構の見学やバウムクーヘン作りを体験していただくほか、「平和文化の振興」の重要性を実感していただける場所を訪問する。
- ・自治体内での交流イベントの際に、オンライン・対面での参画を行う。
- ・オンラインを活用した学生向けセミナーを行う。
- ・学校訪問（出前授業）。相手国関係者の自治体訪問時に、小中学校又は保育の現場を訪問して子供たちと交流する。
- ・地域住民向けに万博の理念や事業を紹介するイベントを開催する。
- ・交流相手国万博関係者、日本側万博関係者と自治体関係者との協働の取組として、万博のサテライト観光施設のコーナーを設置し、交流相手国での万博の取組みを紹介する。
- ・万博関係者を自治体に招き、児童生徒に講演をする。
- ・博覧会協会の職員を招いて、万博の理念について学ぶ講習会を実施する。
- ・交流相手国へ渡航し、地域や万博のPRを行い、その際に日本側の万博関係者とオンライン交流を実施し、万博への期待値を高める
- ・万博関係者による児童生徒への講演（出前授業）を行う。
- ・令和6年度に実施予定のため、予定していない。
- ・予定していない。
- ・現段階は検討中。

◆相手国関係者との令和7年度中の交流事業についての調整状況について（概要抜粋）1

- ・ペルー共和国大使館は区内に設置されてるため随時連携事業を行っており、状況に応じてご協力いただける旨確認している。ペルー共和国ミラフローレス区とは、姉妹都市提携をしており、何かあれば協力し合える関係である。
- ・駐日ウガンダ大使館と調整を実施する予定している。
- ・パラグアイ共和国大使館 大使補佐官と調整を行っている。
- ・カメルーン共和国大使館と具体的な内容について調整中である。
- ・モザンビーク大使館と具体的な内容について調整中である。
- ・大使館や万博担当者と連絡を取り情報共有を行っている。
- ・一般社団法人在日アフリカ人ネットワーク ADNJ と調整中である。
- ・在京ミクロネシア連邦大使館の書記官と、万博ナショナルデー後の交流企画についての検討をしている。同じくミクロネシア連邦の受入を行う自治体と協働での実施を検討中である。
- ・令和7年度も本年度同様に交流を行う予定であるが、交流事業の詳細や調整状況については、令和6年12月4日、5日のGEMS アル・バルシャ・ナショナル・スクールに訪問する際、2025年大阪・関西万博でのUAEパビリオンの参画や交流内容等について協議を行う予定している。
- ・トリニダード・トバゴのレネゲイズからの招聘、いのちパークでのイベント開催についての各所調整（運営会社はじめ）、SSO（スキヤキ・スティールパン・オーケストラ）との調整などを開始している。
- ・在京ミクロネシア連邦大使館の書記官と、万博ナショナルデー後の交流企画についての検討している。同じくミクロネシア連邦の受入を行う自治体と協働での実施を検討中である。
- ・アゼルバイジャン・バクー市ハタイ地区との友好都市交流促進していく中で、両地域高校の友好校に向けた覚書締結及び学生交流事業に向け、関係校訪問を計画しており、在アゼルバイジャン日本大使館と協議を進めている。
- ・令和6年度の交流事業における各国の大使館やJICA等の連携先を通じて、令和7年度のパビリオン訪問やオンライン交流の実施について引き続き連携した取組ができるように依頼することを予定している。

- ・アフリカ開発協会を窓口に、相手国教育省、観光省、及び在セーシェル日本大使館と企画調整中である。
- ・ブラジル リオグランデ・ド・スール州とマダガスカルの国立高校 2 校（アンタナナリボ大学関係）を現地の交流地とするため窓口の教員と連絡を取っている。令和 6 年度に訪問し、万博開催時に招待をする流れをつくっている状況である。
- ・相手国との協議がまだできていない。
- ・ウェストモアランド県の青少年招聘に向け、カウンターパートである現地 NPO 法人を通じて調整中である（招聘状を送付）。
- ・駐日ジャマイカ大使館とナショナルデーにおけるコラボに向けて調整中である（コラボに向けて前向きに検討いただいている状況。）。
- ・ブラジルからの青年受入れについて、現地県人会会長に内容説明し、候補者の選定を依頼済みである。
- ・ブラジル館の関係者（APEX BRASIL(ブラジル貿易振興庁)）とは一度、知事が面会をしようと試みたが、日程が合わず叶わなかった。
- ・マダガスカルにおける日本語教育の第一人者に面会し、「現地日本語教育者や日本語学習者との交流をはかるプロジェクトを協働推進する」という方向での承認を得た。
- ・駐日ドミニカ共和国大使館 ・在ドミニカ共和国大使館 万博国際交流プログラムについて説明し、事業実施について検討している。
- ・令和 6 年度にウズビ・サコ大阪・関西万博副会長と ADNJ の皆さんと杵築市での交流を行うことができる予定であり、その関係を活用して、令和 7 年に地域の子供たちが大阪・関西万博を訪れた際に、交流できる状況ができています。
- ・セネガル大使館、万博担当者と既に交渉を開始している。また、今年度にセネガル訪問を行い、人間国宝ドゥドゥ・ンジャイ・ローズのファミリーとの連携なども行っており、来年どのようなイベントを開催するか、についても企画調整を開始している。
- ・今後、駐日ガーナ大使ジェネヴィーヴ・エドゥナ・アパルウ氏とのオンライン会議を実施する予定である。また、テーマ事業プロデューサー中島さち子氏、長坂真護氏とはオンライン会議を通じて、今後の連携についても継続して検討している。

- ・みんぱく（国立民俗学博物館）の川瀬慈氏と連携し、2026 年度以降や自治体内外の団体との交流にもつながる多面的な交流展開を模索している。
- ・アフリカ開発協会を窓口に、相手国教育省、観光省、及び在セーシェル日本大使館と企画調整中である。

◆「万博国際交流」を行う上での課題等（概要抜粋）

- ・町財政で、当該事業予算が確保できるかが大きな課題である。
- ・来年度の交流内容が未定である。
- ・4市で実施しているため、R6年度のように万博国際交流事務局による料金立て替え払いの制度にしていいただければと存じます。各市で予算を持つことが困難で、地方交付税措置では対応が難しいと感じる。
- ・自治体の希望で相手国を決められる仕組みのため、相手国との事前打ち合わせやマッチング時期などが必要と感じました。
- ・食文化交流や食事をしながらの交流も十分想定できるため、食糧費も対象費目としていただければと存じます。
- ・万博開催を契機として交流相手国との幅広いネットワークをいかに構築し、互恵的なものとして持続させるかが重要であることから、来年度において、予算の制約などによりこうしたことに資する活動が十分に行えないことのないようにしていただきたいです。
- ・費用的な問題さえクリアできれば、南砺市（田中市長が万博首長連合の会長代行であることもあり）が中心となって、日本各地の自治体の郷土芸能や祭り、文化を世界に対して発信し、世界との連携を深める流れを作っていくことができると考えています。一つの自治体 x 一つの国に縛られ過ぎず、より柔軟な展開ができると、南砺市やトリニダード・トバゴとの連携の意味合いがより深くなると考えており、そのあたりを柔軟に展開できたら素敵です。
- ・マダガスカルとの国際交流につきましては万博開催中、また閉幕後も継続していきたいと考えて、ぜひとも内閣官房国際交流プログラム事業を令和7年も継続実施していただきたい。
- ・マスコミがマイナス情報を流しすぎるため、住民の理解を得つつ機運を高めるためには万博推しすぎる企画は逆に反感をもたれるため、ひそやかにアピールするような地道な取り組みを行う必要がある。
- ・事業に係る経費負担が課題である。
- ・令和7年度以降へ交流事業を継続するための学校と交流先とのつながり作りが課題である。
- ・令和7年度の交流事業について調整を進めているところだが、財政がひっ迫する中、市予算から事業費を捻出することが極めて困難であるため、内閣官房事業の活用が不可欠となる。

・本町は過疎・高齢化地域であり、国際交流を進めるためには言語や外国文化の受け入れなど交流の地盤が不足している。地域での国際交流を進めるためには、まずグローバル感覚を持つ若い世代の交流が万博を契機に交流し地域に浸透させるのが本町では有効である。しかし、実際に国際交流が活発ではない地域であることから、自治体で多額となる予算を組むことは難しいため、今年度同様に国の予算による交流を進めたい。

・交流相手国との協議ができていないため、具体的な事業内容について、検討ができていない。

・万博で展示構想があるが、相手国との交渉窓口（チャンネル）が大使館のみであるため、綿密な情報交換や共有が難しく、相手国の状況が見えてこないことから、どのように取り組むべきか苦慮している。

・万博展示に関しては、他の国・地域も含めて事務局が、相手国・地域と自治体との調整に入っただけなどの支援を検討してほしい。

・万博の情報が欲しい。各国の担当者の連絡先（日本語で可能な方）など情報がほしい。

・大阪万博のPRも交流と同時に行う予定ですが、万博に[教育]や[地方]をキーワードに取り組んでいる団体や企業を探している。

・旅費が高額になるため、交流出来る人数に制限がある、朝夜が逆なので、オンライン交流が難しいため、可能な限り対面で行いたい。

・子供たちに大阪・関西万博を契機にして杵築市のすばらしさを教えてあげたい。そのために世界とつながる万博の機会を最大限生かしたいが、独自の財源では動けない。

・費用的な問題さえクリアできれば、西アフリカが中心となって、日本各地の自治体の太鼓・郷土芸能や祭り、文化を世界に対して発信し、世界との連携を深める流れを作っていくことができる。いのちパークでのイベントを万博国際交流事業のレガシーとして未来に残したい。他地域とも連携し、セネガル・マリは日本でも滞在者が多いため、彼らのコミュニティをフィーチャリングして進めると同時に、アフリカへの渡航者やビジネスを含めた交流も推進していきたい。まずは2025年度の費用がクリアできると、2026年度以降につなげていけると考えている（より恒常的な、国際文化交流基金に発展したら素敵だと思います）。

・来年度は、鼓童や秩父のお囃子も絡め、郷土芸能やこどもたち、エチオピア、テーマ事業プロデューサー中島さん率いる KURAGE BAND が一体となって、太鼓や踊りや音楽などを通じたグローバルな

国際文化交流を展開し、万博のレガシーとすると共に、2026 年度以降の社会・文化・教育（学び・遊び）の発展につながる活動をしていきたいと考えており、多額の費用の調達が課題となると考えている。今年度同様に国の予算による交流を希望したい。

◆令和7年度の「万博国際交流」で想定される経費についての金額の見込みとその内容※平均

データのみ分析補足予定

旅費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
29	3,976	13,667	4,979
会議費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
10	907	15,000	5,135
謝金を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
19	923	10,000	2,356
借料及び損料を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
19	467	10,000	1,972
消耗品費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
17	467	3,000	781
外注費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
28	4,363	8,000	4,753
印刷製本費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
15	426	2,000	740
補助人件費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
7	4,363	8,000	3,691
その他諸経費を想定している自治体数	想定あり自治体の平均金額(千円)/特定3自治体除く	特定3自治体の平均金額(千円)	想定あり自治体平均金額(千円)
9	491	4,000	1,661

3. 成果のとりまとめ

(1) 他の自治体への普及・展開方策について

① 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価

R6年度の万博国際交流プログラム登録自治体の交流計画策定に以下の観点に注意しながら、それぞれの登録自治体の特性にあった交流計画の策定、実施が有効である。

◆相手国との関係性

- ・ホストタウン交流の再開・継続なのか
- ・0からの交流なのか

◆そもそも自治体に国際交流のノウハウが十分にあるのか

◆自治体の規模

◆自治体の地域資源と特色

◆住民が参加しやすい交流であるか

② 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制

・ 相手国の公的機関（大使館等）/相手国現地の日本の公的機関（相手国の日本大使館等）の協力を得る。

事業をスムーズに、継続的に実施するため、やはり相手国の公的機関との関係を強化することが必要不可欠である。

また、R6年度事業では、多くの自治体から課題として「相手国の動きの鈍さ」「相手国の来日へのハードの高さ」が挙げられた。その課題に直面した複数の自治体では、現地の日本の公的機関から直接サポートをいただくことで交流計画の軌道を修正することが可能になった。

・ 登録自治体と相手国、双方に関わりの深いキーパーソンの重要性

0から交流をスタートした自治体は特に、言語や文化の違いからコミュニケーションの難しさを課題としてあげる自治体が複数存在した。双方の言語や文化を熟知した架け橋となれるようなキーパーソン

ンを巻き込むことで、市民も相手国をより身近に感じることができる。

・ 地域に根差した民間企業、NGO、地域団体等とパートナーシップを構築する

複数の自治体から課題としてあがったことは、R 6 年度万博国際交流プログラムのような政府の支援がなければ、自治体のマンパワー不足や金銭的負担の大きさから、国際交流を継続していくことは難しいということだった。

比較的規模の小さい自治体であっても継続的な交流が芽生えている自治体は、地域に根差した民間企業、NGO、地域団体とのパートナーシップが強固で官民連携で実施しているところが多い。今後、継続的な国際交流を目指すためには、官民一体となって取り組んでいくことが重要である。

・ 自治体同士の横連携も非常に重要である

R 6 年度事業では、複数の自治体が連携して交流事業を実施した例もあった。1 自治体だけでは実施することができない規模や内容の交流を行うことが可能である。

まだまだ交流事例が少ないアフリカ地域は特に、交流を実施している自治体の担当者レベルの交流会を実施し、それぞれの自治体が抱えている課題を相談しあえる機会が重要である。

③ **大阪・関西万博閉会後の事業継続性（相手国の関係性の評価）**

以下の 3 つの観点から万博閉会後の事業継続性が考えられる。また、2027 年の横浜国際園博覧会や 2030 年の SDGs ゴールに向けて継続的な国際交流の機会があり、国際交流を継続することで地域活性化、関係人口の創出に寄与することができる。

1. 地域資源の活用・テーマを絞った交流の実施：

地域の資源を活かし、地元の文化や伝統、産業、観光資源などを活用した交流プログラムを実施、地域の魅力を発信することで、市民にも交流事業の印象が市民や関係団体との事

業継続性を確保できる。

2. パートナーシップの構築と資金調達の多様化：

すでに国際交流が活発な欧米やアジア地域と異なり、交流希望に対しては非常に前向きな回答を得ることができる。しかし、相手国の国民にはまだまだ金銭的な余裕がない国が多いため、来日しての交流や継続的な交流はまだまだ難しい。

他自治体や国際機関、民間企業、NGO などとのパートナーシップを構築することで、資金調達の多様化を図ることが可能となり、事業の持続性を高めることができる。

3. 教育・啓発活動の強化：

アフリカ地域への関心は高まり、アフリカ地域との国際交流を行うことへのニーズは高まっているが、欧州やアジアの地域と比べて、まだまだ交流実績は乏しい。また言語や文化の違いから軋轢を生む可能性もある。

そのため持続的な交流を続けるためには、地域内で相手国と長く関係を築き上げてきた団体の協力や、アフリカ地域に精通した専門家からの助言が必要不可欠である。

グローバル社会での人材育成の観点からも、地域住民や関係者、若者への教育・啓発活動を強化することは重要であり、アフリカ地域との国際交流の重要性や価値を理解し、地域コミュニティに国際視野を持たせるための取り組みが必要である。アフリカ地域との国際交流継続のためには、他地域以上に学校や地域団体を巻き込んだ教育・啓発活動を通じて、国際交流の継続が次世代の人材育成に繋がることの理解を促すことが重要である。

(2) 成果の分析

① 調査対象自治体内への波及効果

・ 大阪・関西万博への訪問意欲の向上

各調査対象自治体が実施した各イベントにて、イベントのチラシ等広報ツールに万博やミyakumaのロゴをいれる、会場内での万博のポスター掲示、配布等の周知活動を実施し、イベントに参加する地域住民に対して、大阪・関西万博の認知度向上に努めた。

R6年度事業に参加した地域住民からは、大阪・関西万博に対する認知度の向上だけでなく、万博会場に訪問したいという声もあがるようになり、大阪・関西万博への訪問意欲も高めた。

・ 相手国への興味・関心の高まり

今回自治体として0からアフリカ地域と国際交流をスタートした自治体も複数あり、地域住民からは、ほとんど知らない国であったが、もっと知りたい、相手国の人と話してみたいという声が上がった。万博閉会後の国際交流を望む声もあがっており、地域住民の間では、相手国との国際交流が開始したという強い印象を残すことができた。

・ 国際交流への意識の高まり

今回のプログラムに参加した自治体の中には、そもそも国際交流自体に積極的に取り組んでいなかった自治体も複数あり、地域住民に対し、国際交流への関心・意欲を高めるきっかけを与えることができた。

すでに国際交流への取り組みが活発な自治体の中でも、大阪・関西万博のような世界の祭典を契機に国際交流を加速させることで、地域住民の間でさらなる高まりを見せることができた。

・ シビックプライドの高まり

地理・文化・経済・歴史・価値観が大きく異なるアフリカ地域を知ること、新たに自分の街の歴史、伝統、文化の独自性に気づき、自分たちが暮らしている町に誇りを持つようになり、「自分の街をもっと世界に知ってもらいたい」という意識が生まれた。

② 実施により達成できた成果

アフリカ地域との国際交流を開始・再開するにあたっての先駆的なモデルを開発

国際交流を開始・再開するにあたって自治体が抱える課題や、各自治体の状況に応じた国際交流の始め方、再開の方法を横展開できる先導的事例になる取組モデルができた。

事前に実施した万博国際交流需要調査アンケートの結果から見えてきた、自治体が万博国際交流に参加しない主な理由に対する解決策を提示できるような交流事例が見られた。

さらにまだまだ交流実績が少ないアフリカ地域との国際交流事例を積み上げることができ、これから開始しようとする自治体の特性に合わせた交流計画の策定に役立つことが期待される。

大阪・関西万博に参加することへの意識向上

万博国際交流プログラムに参加する前の地域住民からは、大阪・関西万博があることは知っているが、訪問は考えていないという声もあがっていた。一方で、R6年度事業に参加してからは、ほとんどの自治体で万博会場内での相手国との交流の継続があるのならば、万博に訪問したいという訪問意欲の向上もみられた。

地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養

アイデンティティの確立や、郷土愛

R6年度事業は、若者の交流を中心に交流を実施する自治体を重点的に支援したことで、「地域の未来を担う若者に対して相手国の文化を体験・理解する場を提供し、国際交流に興味を持たせるきっかけを与えることができた」ことを成果としてあげている自治体が複数ある。

地域社会の発展のために、若者の国際感覚の涵養を課題と考える自治体は多数存在し、そのような自治体に対し、万博国際交流プログラムでは、文化交流という身近な交流から始まった若者間の交流を、他の分野での国際交流、ひいては地域の若者の国際社会への参画まで発展できる可能性があると考えられる。

③ 相手国への波及効果

各調査対象自治体は、相手国を訪問した際に万博のポスター掲示、配布等の周知活動を実施し、交流相手国に対しても、大阪・関西万博の認知度向上に努めた。

相手国訪問時に、当日の万博会場でも本年度の交流を発展させて、何か一緒にイベントを実施したいと伝えると、前向きな回答を得られる場合が多く、本年度の万博国際交流プログラムは、相手国の万博参加への意欲の向上にも繋がった。

次年度以降は、相手国側からも交流自治体へ訪問してみたいという声上がり、相手国の交流自治体への訪問意欲醸成がみられた。万博当日も、万博会場での交流と、交流自治体をフィールドとした交流の可能性を感じることができた。

④ 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

内閣官房の万博国際交流プログラムは、大阪・関西万博を契機としたレガシーの創造において極めて重要な役割を果たしている。このプログラムは、万博期間中に国際的な交流を促進し、異文化間の理解と連携を深めることができ、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などを目的としている。また、今回アフリカ地域に限定して国際交流を促進する仕組みを調査したことで、アフリカ地域との国際交流が活性化するきっかけとなることも非常に重要である。そのレガシー創造への寄与は多岐にわたり、以下に詳細に説明する。

1. **新たな国際交流の芽生え：**内閣官房の万博国際交流プログラムでは、世界各国からの参加者が集結し、万博期間中にさまざまな文化や技術の交流が行われる場を提供する。これにより、国際社会がさらに結束し、共通の課題に対する解決策を模索する機会が増える。また、異なる国々や地域の人々が相互に理解を深めることで、国際的な平和と安定に寄与する。
世界各国の伝統や最新文化が集結し、多様な価値観が交わる機会である万博を契機として万博国際交流プログラムに取り組むことで、アフリカ地域とのこれまでにない協力関係を築き上げる第一歩となった。
2. **地域経済へのプラスの影響：**大阪・関西万博を契機とする国際交流プログラムは、地域に海外からの訪問者の流入をもたらす。これにより、地域のホテル、レストラン、交通機関などの観光関連産業が活況を呈し、地域経済にプラスの影響を与える。さらに、万博期間中に結ばれる新たなビジネス取引や産業連携は、地域経済の発展に寄与する。
3. **青少年の国際交流と教育の機会の拡大：**内閣官房の万博国際交流プログラムは、青少年向けの国際交流プログラムを積極的に推進する。これにより、青少年は他国の文化や社会システムに触れる機会を得ると同時に、異なる視点からの学びを得ることができる。また、万博期間中に開催される国際教育イベントやワークショップは、国際感覚の涵養や将来のリーダーの育成

に貢献する。

さらにアフリカ地域という地理・文化・経済・歴史・価値観が大きく異なる地域との国際交流を促進することで、子供たちの価値観やキャリアを広げることができる。

4. **持続可能な開発への貢献：**大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムでは、持続可能な開発目標（SDGs）の推進にも貢献する。万博開催に向けて行われる国際的なディスカッションやイベントは、万博のテーマや SDGs、環境保護などの重要な課題に焦点を当て、解決策の模索や共同プロジェクトの促進を通じて、地球規模の課題に取り組む。

アフリカ地域との国際交流を促進することで、アフリカの豊富な資源と日本の技術力を活かし、再生可能エネルギー、スマート農業、気候変動対策など、持続可能な未来を共に築く取り組みが進み、世界が抱える環境・エネルギー・食糧問題への共同アプローチが可能になる。

5. **多様な価値観を知ること、地域のアイデンティティを強化：**内閣官房の万博国際交流プログラムは、文化交流を通じて異なる文化の豊かさを称賛し、日本の自治体や、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化にも取り組む。万博期間中に実施される文化イベントや展示は、世界各地の文化を紹介し、国際的な理解と尊重を促進する。

地理・文化・経済・歴史・価値観が大きく異なるアフリカ地域を知ること、新たに自分の街の歴史、伝統、文化の独自性に気づき、自分たちが暮らしている町に誇りを持つようになり、「自分の街をもっと世界に知ってもらいたい」という意識が生まれる。その結果、地域の伝統・文化を大切にしながら、グローバルな視点を持ったまちづくりが促進される。

6. **地域の認知度向上と観光や地域産業の振興：**大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムは、地域の認知度を向上させ、観光や地域産業の振興に貢献します。万博期間中に地域の魅力や観光資源が国際的にアピールすることで、地域の観光産業が成長し、地域経済の発展に寄与する。

7. **次世代の架け橋となる人的ネットワークの形成：**大阪・関西万博を契機とした万博国際交

流プログラムは、世界各国との協力関係を強化し、草の根交流で作られる国際的なネットワークやパートナーシップは、将来の国際政治や経済の舞台での協力関係を築く基盤となる。

特に、今回こどもたちを軸として交流を行う自治体が多かったことで、異文化環境で活躍できるグローバル人材の育成に寄与したといえる。また、日本国内でも多様な価値観を受け入れる風土が醸成され、新たなリーダーやイノベーターを生み出し、未来の国際協力へ繋がっていく。

以上のように、内閣官房の万博国際交流プログラムは、大阪・関西万博を契機としたレガシーの創造において多大な寄与を果たしている。国際的な交流の促進、地域経済へのプラスの影響、若者の教育機会の拡大、持続可能な開発への貢献、文化交流の促進と文化の保護、国際的な協力と連携の強化、そして地域の認知度向上と地域産業の振興といった点で、多角的な側面から大阪・関西万博を契機としたレガシー創造へ貢献していると考えられる。

4. 調査対象自治体ごとの実施報告書

(1) 北海道大空町

実施概要

* 高知県本山町・土佐町と連携して実施

交流相手国：セーシェル共和国

事業名：大空町×本山町・土佐町「セーシェル共和国」教育交流事業

目的・目標：教育や人材育成をベースとした海外との交流を積極的に行うことで、地域の若年層にグローバル人材を育み、外国人が訪問しやすい地域体制の整備を進めるための教育交流を行うこと。セーシェル共和国と北海道・大空町と高知県本山町・土佐町はともに観光産業が盛んであり、訪問により観光業を中心とする現地の産業構造に関する調査等を目的とした交流を行い共通理解を深めるための交流を行うこと。

実施内容①： 現地視察・交流(学校訪問等)

実施日：令和7年 1月21日～1月26日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

上記の相手：現地教育省、Anse Royale Secondary school、English River Secondary School

参加人数：約70人

交流概要：現地教育省による紹介を通じ、公立中等教育学校2校（English River Secondary School / Anse Royale Secondary School ）を訪問した。また日本大使館協力の下、Inter National School を訪問、日本語教育を行う個人と面会し継続的な交流を見据えた意見交換を行った。



実施内容②：現地視察・交流（官庁訪問）

実施日：令和7年1月24日

交流種別：海外渡航

実施場所：各省庁オフィス

交流の種類：①

上記の相手：セーシェル共和国教育省並びに同観光庁

参加人数：約25人

交流概要：

上記団体を訪問し、大阪万博のPRを行った他、教育省においては日本の教育政策、大空高校・嶺北高校のPRを、観光庁においては北海道と高知県の持続可能な観光施策についての発表を行うとともに、同庁より同国の観光政策についての基本的なレクチャーを受け、意見交換を行った。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

【課題 1】

大空町では国際交流が進んでおらず、若い世代から国際交流の扉を開ける必要がある。

【目的 1】

海外との交流を積極的に行い、地域の若年層にグローバル人材を育成し、外国人が訪れやすい地域体制を整備すること。

●セーシェル教育省との意見交換により、日本の高校生がセーシールの教育政策担当者にプレゼンテーションを行い、関心を持ってもらった。**今後、セーシェルからの留学生受け入れを目指し、教育省を通じて交流を深める計画が進んでいる。**

【課題 2】コロナ禍で観光業が落ち込む中、地域資源を活かした観光産業振興が求められている。

【目的 2】セーシェル共和国と大空町は観光産業が盛んなため、観光業を中心とした産業構造に関する調査を行い、共通理解を深める交流を目指す。

●セーシェル観光庁への訪問では、同庁観光地計画・開発局長以下、観光政策担当者に向け、今万博のコンセプト、注目展示その他について日本の高校生からプレゼンテーションを通じた PR を行い、大いに関心をもっていただくことにつながった。会期中の同国ナショナルデー並びにパヴィリオン等への同国生徒の招待、また運営での何らかの協力等の提案についても同局長より好感を持って受け止めていただいている。また、万博のテーマ並びに同国パヴィリオンテーマに関連し、持続可能なツーリズムの考え方についての同庁の基本政策その他についてレクチャーいただき、その後の意見交換を通じて、派遣した高校生の万博に対するより体系的理解と学びにつながった。

【中高生の交流機会創出による効用】

今回渡航した学生は、セーシールの中高生 100 名以上と交流し、同国の文化芸術について深く学んだことで、異文化に対する興味・関心が高まった。同様に、セーシェル側の学生も日本の文化に対

する関心が高まり、多くの生徒が日本への渡航希望を表明し、今後の関係構築に期待が持てる結果となった。

【町内への波及効果】

セーシェルとの万博交流を開始するにあたり、経済産業省や国土交通省の支援を受け、学習会が実施され、国際理解が深まった。また、交流した生徒たちの報告が町の新聞に掲載され、国際交流報告会を開催することで町民への還元が行われた。また、交流した生徒たちが、首町への報告が新聞紙に掲載されたり、国際交流報告会を2回実施し、セーシェル共和国の紹介や、現地で学んできた海外の教育のことや、観光振興のことについて町民に還元することができ、国際交流を振興するうえで有効な機会となり、**町内の国際交流に関する興味・関心が高まった。**

【今後の課題】

訪問のみでの交流にとどまらず、セーシェルの中高生にも大空町を訪問してもらい、より広い年齢層の町民と交流を持つことが求められ、継続的な交流の取り組みが必要である。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

若い学生たちが異文化に触れる機会の提供、地方創生への新しい発想を生み出す一歩となった

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

1. 財源の確保

国際交流の継続には交流のための費用が必要となる。経費を抑えるために、オンラインでの意見交換は可能だが、実体験でしか得られないものこそ国際交流を通じて得られる真の価値であると考え。しかし、現段階では町で対面での国際交流を続けるための費用の捻出は難しいと感じる。

2. 相手国と交流するための窓口

交流を進めたいが、相手国のどういった方を通じて交流を進めるのが適切かが明確ではない。

3. 相手国の国際交流への理解

今回は、万博を契機に日本側からのアプローチによる交流となったが、今後継続して交流する際に、**相手国が日本の小さな自治体と継続的に交流を望むか**、費用の面も含めて継続の可能性がどの程度あるかが課題となる。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

ーR.7 年度

万博会期中に同国より中高生と関係者計 10 名程度を招聘し、万博会場の来訪はもとより、本山町・土佐町並びに、今回協働して事業を実施した大空町含め両自治体、両高校をめぐる交流企画を検討している。

先方教育省を通じ参加生徒の募集を図り、また観光庁の協力も得ながら万博での同国パビリオンでの何らかのプロジェクト実施も検討していく。

また、並行して R.7 年度中または、R.8 年度の短期留学受入についても、在セーシェル日本大使館、同国教育省、現地在住日本語指導者等との連携を図り模索していく。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

町として、国際交流のための予算を確保できるかは未定であるが、万博終了後、セーシールの高校生を短期留学生として受け入れを行いたいと考えている。

・国際交流の持続的展開のために今後実施予定の工夫や取り組み

国際交流が進んでいない大空町においては、セーシェル共和国だけではなく、様々な異文化を受け入れるための基盤の整備が必要であると考え。このために、外国語にも過剰に反応しない若い世代に交流の足掛かりと、異文化の魅力を町内に伝えてもらい、外国人と接することや、異文化を受け入れるための住民の心構えの醸成を目指す。

(2) 北海道浦幌町

実施概要

交流相手国：マリ共和国

事業名：A：子ども交流イニシアティブ実証

B：子どもスポーツ交流

C：子ども音楽・文化交流

目的・目標：

・マリ共和国とのイベントを通じて、**マリ共和国の子どもたち・関係者の方と浦幌地域住民・子どもとの間の文化交流をメインとした国際交流を図る。**

・子どもの想い実現プロジェクト・靴を届けるプロジェクトの実施や双方向の交流を通じて、**マリ共和国及び浦幌町の課題解決を図る。**

実施内容①： B 子どもスポーツ交流・靴を届ける交流事業（パブリックビューイング）

実施日： 2024 年 7 月 28 日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：浦幌町道の駅横レストラン URATIE

交流の類型： ①②③

参加人数：67

交流概要：2024 年 7 月 28 日、パリオリンピック 2024 の男子サッカー日本代表戦において、日本対マリ共和国の試合が行われた。浦幌町内のレストランでパブリックビューイングを開催し、在マリ日本大使館やウスビサコ氏とオンラインで接続しながら観戦することで、マリ共和国との交流を実施した。また、マリ共和国の子どもたちに送るための靴を収集し、国際支援活動・交流の一環として取り組んだ。



実施内容②：A 子ども交流イニシアティブ実証・マリ共和国での事前準備

B 子どもスポーツ交流・靴を届けるプロジェクトの実施

実施日：2024年8月10～24日

交流種別：海外渡航

交流の種類：①②③

参加人数：1027

交流概要：



マリ共和国現地を訪問し、万博関係者や関連施設への協力を依頼するとともに、万博実施に向けた関係構築を進めた。また、本事業の趣旨や目的を説明し、現地の理解を深める機会とした。同時に、現地の状況や実態を調査し、今後の事業展開に向けた基礎情報を収集した。さらに、浦幌での双方向交流の準備として、バマコ各地でマリの子どもたちに「将来の夢や想い」をテーマに絵を描いてもらい、作品を収集。これにより、異文化理解を促進し、今後の交流に活かす基盤を築いた。また、スポーツ交流の一環として、浦幌で集めた靴をマリ共和国の子どもたちに届けるプロジェクトを実施し、支援を通じて両国の子どもたちのつながりを深める機会とした。

実施内容③：C 子ども音楽・文化交流・みのり祭りおよび公民館でのワークショップ

実施日：2024年9月22～23日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：22日：うらほろ森林公園

23日：浦幌町中央公民館

交流の種類：①②③

参加人数：157

交流概要：



みのりまつりにおいて、マリ共和国の文化を紹介するためのブースを設けた。ブースでは、マリの音楽文化を体験できる機会として、ジェンベやバラフォンなどの楽器に触れるコーナーを設置した。また、地域の公民館でさらなるワークショップを実施した。このワークショップでは、ジェンベやバラフォンを使った

演奏体験の他、アートワークショップも行った。2 日間において、アジャンス・サコ・ジャポンの演奏家 2 名と協働し当日運営および準備を実施した。

実施内容④：C 子ども音楽・文化交流・町内文化祭での展示発表・文化体験

実施日：2024 年 10 月 26 日～27 日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：浦幌町中央公民館

交流の種類：①②③

参加人数：450

うち学生・生徒・児童：100

交流概要：

これまでのマリ共和国と浦幌町の関わり・交流についてのブース展示を実施した。マリ共和国の伝統文化と食文化に触れるブースでは、ジェンベやミニバラフォンの体験、伝統衣装・装飾品の試着体験、マリ共和国の国民的飲み物の試飲体験、さらにはマリ共和国の方とのトーク・対話セッションを行った。



実施内容⑤：A 子ども交流イニシアティブ実証・子ども交流（中学生）①

実施日：2024 年 12 月 19 日

交流種別：イベント・開催（催し）

実施場所：うらほろスタイル複合施設

“FUTABA”

交流の種類：①②③

参加人数：12

交流概要：

中学生の自主部活動である浦幌部において、事前に準備した将来の理想の夢や町の絵を、浦幌部部員よりマリ共和国関係者へ発表。その後、双方向の意見交換を実施した。



参加した中学生は異文化への理解を深め、交流国の未来や自分の将来について考えるきっかけを作った。

実施内容⑥： B 子どもスポーツ交流・靴を届ける交流事業（少年団への報告交流会）

実施日：2024年12月19日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：浦幌町総合スポーツセンター

交流の種類：①②③

交流概要：

浦幌町内のスポーツセンターで活動する少年団（サッカー部）に対し、8月に実施したマリ共和国での靴の譲渡について報告を行った。具体的には、7月28日に実施したサッカーパブリックビューイング企画において、町内で集めた靴をマリ共和国の子どもたちに無事に届けたことを少年団の子どもたちに伝えた。



実施内容⑦： A 子ども交流イニシアティブ実証・子ども交流（小学生）②

実施日：2024年12月20日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：学童のお遊戯室また、勉強部屋

交流の種類：②③

参加人数：1044

交流概要：

浦幌町立学童保育所にて、いくつかのワークショップを実施した。具体的には、マリ共和国の文化紹介とクイズ、アフリカの伝統楽器「ジャンベ」や「バラフォン」の体験、さらには衣装試着を行った。また、マリ共和国の子どもたちが描いた絵を参考にし、子どもたち自身が将来や未来をテーマに絵を描くワークショップも実施した。



実施内容⑧：A 子ども交流イニシアティブ実証・子ども交流（小中学生）③

B 子どもスポーツ交流・サッカー交流

実施日：2025年2月1～2日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：浦幌町立浦幌小学校

交流の類型：②③

参加人数：220

交流概要：



2月1日～2日実施の冬のイベントにて、子どもたちの想いを受け止める絵のワークショップと、マリ共和国の方とのスポーツ交流（雪中でのサッカー）を実施した。また、マリ共和国の食文化体験ブースも設置した。これらの活動を通じて、両国間の国際交流を推進した。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

・子どもたちの国際交流に触れる機会の創造

中学生やサッカー少年団の子どもたちが積極的に関わる機会を作り、子どもたちが、マリ共和国の文化や生活について学ぶ機会を得た。特に、サッカーを通じた交流や靴の寄贈活動を通して、国際的な支援活動の重要性を実感することができた。

・新たな交流町内イベントの創出および既存イベントの活性化

みのりまつり・町内文化祭・しゃっこいフェス内など歴史ある町のイベントでの国際交流企画（サッカー、飲み物の提供、絵を描くワークショップ）を実施し、地域住民が異文化に触れる機会を創出した。**既存のイベントに国際的な要素を取り入れることで、イベントの魅力が向上し、地域全体の関心が高まった。**また、従来は大人の参加が多かった既存のイベントの中で、子どもたちが積極的に関わる機会を作り、浦幌町内での世代を超えた交流を促進した。（浦幌町内における子ども交流が促進した。）

・「うらほろスタイル」の価値発信

全国的に注目を集めはじめている官民協働による持続可能な地域づくり「うらほろスタイル」の実践例として、万博国際交流プログラムを活用した国際交流事業が位置づけられた。**官民協働の枠組みを活かした持続可能な地域づくりの一環として、全国へ向けた価値発信の機会**となった。

（マリ共和国での波及効果および成果）

・マリ共和国にないまちづくりや次世代人材育成の教育スタイルの知見を新たに獲得

「うらほろスタイル」の一つのテーマである子どもたちの想いを受け止める活動を通じて、次世代を軸としたまちづくりの実現に寄与した。また、教育・スポーツを通じた交流が、次世代人材の育成に貢献した。

・現地の子どもたちの生活向上への寄与

靴の寄贈活動が現地の子どもたちの生活向上に直接的な影響を与えた。（例：裸足で生活する子どもたちが靴を履いて生活を送れるようになった、等）

・新しい交流や取り組みの仕組みの構築

また、マリ共和国現地で事業を進める中で、もっと浦幌や日本と関わりたいという声がマリから上がり、マリにおける日本との国際交流の気運が高まった。その結果、浦幌とマリ共和国に拠点を置いた民間の法人が立ち上がることとなった。

〈事業の過程で明らかになった課題〉

・今後の交流での相手国（マリ共和国）への訪問の困難さ

交流を通じて、浦幌町の子どもたちの中から「現地を訪問したい」という声が上がった。しかし、マリ共和国は外務省の危険度レベル 4 に指定されており、安全上の理由から子どもたちの訪問が実現できない現状がある。

・マリ共和国での調査や環境および交流にかかる費用

マリ共和国との継続的な交流や調査を実施するためには、往来にかかる費用が大きな課題となる。オンライン交流の可能性を模索する必要があるが、現地では非常に電波状況が不安定で交流を円滑に行うことが困難な状況下にある。今後は、これらの課題に対する解決策を検討し、より持続的な交流の仕組みを構築していく必要がある。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

・本事業を通じて、万博のテーマである「未来社会のデザイン」に即した**持続可能な国際交流のモデル**を提示した。

・浦幌町における官民協働の取り組みが、地方都市における国際交流の先進事例として全国的に認識される契機となり、町内活動の発信機会を得た。

・子どもたちの国際理解の深化や相手国との継続的なつながりが、万博後も地域社会における国際的な視点の定着に寄与するレガシーとして残ることが期待される。

・浦幌町民への諸外国との交流の意義を広め、意識づけを行った。

・浦幌町における（特にアフリカ諸国との）国際交流の新たな歴史を創造した。これにより、米軍基地撤退後、あまり盛んに行われてこなかった国際交流活動が再活性化した。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

〈相手国（マリ共和国）との事業実施の課題〉

- ・言語の壁や意思疎通の方法の違いにより、情報伝達に難しさを感じる場面があった。
- ・時間感覚の違いにより、約束やスケジュール調整がスムーズに進まないことがあった。
- ・ZOOM の接続の悪さやネット環境の違いによるオンライン交流の困難が発生した。
- ・一度関係が築かれると協力的だが、それまではコミュニケーションをとって物事を時間通り進めることが困難であった。

〈課題の克服策と今後の展開〉

- ・通訳を活用しながら、相手国の文化的背景を理解し、柔軟な対応を心がける。
- ・事前に十分な時間を確保し、計画的にスケジュール調整を行うことで、予定の遅延を防ぐ。
- ・オンライン接続の不安定さに備え、事前に動画や絵などの別コンテンツを準備し、リアルタイムではなくてもコンテンツを通じた交流を実施する。

・相手国の特性を尊重しつつ、双方の期待や齟齬をすり合わせるためのミーティングを定期的に実施する。

・長期的な信頼関係を築くため、継続的な交流の機会を模索し、定期的なフォローアップを実施する。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

・万博ナショナルデー（マリ共和国は8月2日実施予定）でのマリ共和国との関わり：
マリ共和国のナショナルデーに合わせた音楽・子どもの想いを受け止める交流企画の実施を予定している。

・万博ナショナルデーに向けた町内での事前交流と本番（現地）での発表：
事前に浦幌町でマリ共和国との音楽ワークショップや絵やアートを通じた交流を行い、本番では子どもたちの成果発表（音楽演奏・絵の展示等）を実施する予定。
浦幌町のこれまでの国際交流の取り組みを万博会場で発信する。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

・継続的な国際交流の機会の創出

万博終了後も、マリ共和国との交流を終わらせるのではなく引き続き継続し、地域の国際交流の機会を促進する。

・町内のお祭りでのマリ要素の組み込み

今まで実施してきた地域のイベントにマリ共和国の文化的要素を取り入れ、異文化交流の場を拡充させる。

・まちづくり計画としての国際交流の取り組み

元々のまちづくり計画の中で国際交流を位置付けていなかったこと、そして、今の世代の子どもたちの初めての交流があまり馴染みのない西アフリカのマリ共和国であったため、町民全体への浸透を図る

のは難しかった。しかし、交流が増える中で子どもたちは次第に異文化に慣れ、自然と受け入れる様子が見られた。これにより、今回の事業を通じて、**町の総合振興計画に国際交流を位置づける気運が高まってきた。**

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

・民間の関わりを支援

浦幌とマリ共和国の関わりの中から新たに設立された法人等との連携を通じて、国際交流を入り口に町の課題解決を図るような取り組みを展開していく。

地域の企業や住民を巻き込んだ活動を広げ、万博で築いた国際的なパートナーシップを地域活性化に生かす。

・町内イベントに国際交流の要素を組み込んだ取り組み

地元文化や伝統を紹介する町のイベントに、マリ共和国をはじめとする他国の文化や食文化を紹介するブースやセッションを設ける。また、地域の学校や若者を対象にした国際交流プログラムを提供することを検討し、**次世代が国際的な視野を持つ機会を提供する。**これらの取り組みを通じて、浦幌町における万博の成果を地域社会に定着させ、持続的な国際交流の展開を実現する。

・「うらほろスタイル」の発信を通じたシティプロモーションの強化

関係人口の増加、新たな関係人口の拡充、さらに新たなまちづくり財源の獲得につなげていく。

(3) 宮城県利府町

実施概要

交流相手国：ガーナ共和国

事業名：ガーナ共和国との文化・観光・産業・学生交流事業

目的・目標：町民や子どもたちが異文化に触れることにより異文化に対する理解と認識を深め、相互の文化、産業、教育を学ぶ

実施内容①：ガーナ共和国へ訪問し、万博運営関係者及び大使館職員との交流

実施日：R7.2.17 海外渡航

交流種別：海外渡航

実施場所：ガーナ共和国アクラ市内ホテル

交流の種類：①②

参加人数：6

交流概要：

万博運営関係者と日本大使を交え、大阪・関西万博で子どもたちも含めた交流や相互の歴史、文化、教育等について、意見交換などを実施した。

実施内容②：ガーナ共和国へ訪問し、ガーナと日本の関りや歴史及び産業交流

実施日：R7.2.17

交流種別：海外渡航

実施場所：野口記念医学研究所、テマチョコレート工場

交流の種類：②

参加人数：60

交流概要：

利府町視察団がスエドゥル高校を訪問し、ガーナ共和国の文化、教育、産業などについて交流を図った。

実施内容③：

ガーナ共和国へ訪問し、ガーナスエドゥル高校と利府町視察団との文化、教育、産業交流

実施日： R7,2,18

交流種別：海外渡航

実施場所：現地のスエドゥル高校

交流の種類：②

参加人数：3100

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：3000



交流概要：利府町視察団がスエドゥル高校を訪問し、ガーナ共和国の文化、教育、産業などについて交流を図った。

実施内容④：ガーナ共和国へ訪問し、現地学校と本町中学生12人とのオンライン交流

実施日： R7,2,19

交流種別：海外渡航

実施場所：現地のスエドゥル高校と利府町役場会議室

交流の種類：②

参加人数：70

うち学生・生徒・児童：47

交流概要：現地のスエドゥル高校と本町の中学生（3中学校の代表）12人がオンラインにより相互の文化や教育、環境などを英語で交流を図った。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

ガーナ共和国へ訪問し、相互の文化・教育・産業を理解し、子供たちの国際理解教育の向上、そして町民全体の異文化理解を深めることを目的としております。具体的には、教育プログラムでは、ガーナの生徒や教育関係者との交流を通じて教育システムや方法を学び、語学交流プログラムの実施。また、文化芸術・産業交流プログラムでは、両国の歴史や文化、産業を学び、観光振興や人々の視野を広げることを目的としております。

特に本町で課題であった子どもたちの国際理解教育については、**オンライン交流において、両国の歴史や文化、教育プログラムについて英語による交流を行った。**

本町においては、**事前にガーナ共和国の歴史や教育プログラムの違いを勉強し、異文化に対する視野を広げることが出来た。**また、質問や受け答えについても英語でコミュニケーションを図ったことから、**英語力の大切や異文化への興味など大きな効果を得られた。**

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

ガーナ共和国へ訪問したことによる、相互の文化・教育・産業を理解し、**子供たちの国際理解教育の向上、そして町民全体の異文化理解を深めることを継続することが出来た。**これを契機に本町の国際交流をさらに発展・継続することにより両国の歴史と文化を未来の世代へ伝え、人々の視野を広げることが出来た。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

文化、産業、観光分野での交流について、相手国の政府関係者と調整を行っているが、大統領が交代したことから調整に難航している。今後も、在ガーナ大使館を通し粘り強く調整を行っていく。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

- 1 万博開催期間中に子ども達ともにガーナ共和国のパビリオンにおいて、相互の文化交流やSDG s の取組みを紹介するなど、子ども達との交流事業を実施する。（2泊3日予定）
- 2 スエドゥル高校と本町学校をつなぎ、相互の文化・芸術を学ぶワークショップを開催する。
- 3 ガーナ万博関係者を交流イベントに招き、相互文化交流事業を実施する。
- 4 ガーナ共和国やアフリカをより知ってもらうため、学校給食でガーナ料理又はアフリカ料理を提供する

・来年度以降の取組み・交流への展望

- 1 スエドゥル高校と本町学校をつなぎ、相互の文化・芸術を学ぶワークショップを開催する。
- 2 在宮城県へ留学しているアフリカ出身者との交流イベントの開催や子ども達向けの多言語教室などを実施する。
- 3 ガーナ共和国やアフリカをより知ってもらうため、学校給食でガーナ料理又はアフリカ料理を提供する。また、町民向けにアフリカ料理教室を開催する。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取組み

これまでは、外郭団体である利府町国際交流協会が担っていたが、今後は企業との連携を深めることで、事業の幅を広げ、持続性を高めていく。まずは、定期的な情報交換や意見交換の場を設けるなど、ネットワークを構築する。

（４）秋田県にかほ市

実施概要

交流相手国：リベリア共和国

事業名：スポーツ・文化交流

目的・目標：東京 2020 大会ホストタウンを契機にオンライン交流を継続的に実施してきたリベリア柔道連盟と陸上オリンピック選手等と万博を契機に対面での交流を実施する。**スポーツ国際交流を通じたスポーツ国際貢献、町内の多様性への理解促進を目指す。**

実施内容①：リベリア陸上オリンピック招聘交流

実施日：令和6年10月31日～11月3日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：にかほ市内

交流の種類：②

上記の相手：リベリア陸上オリンピック招聘

参加人数：220

うち学生・生徒・児童：159

うち相手国参加者：1

交流概要：リベリア陸上オリンピックを招き交流事業を実施する



実施内容②：駐日リベリア大使館関係者招聘交流

実施日：10月31日～11月3日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：にかほ市内

交流の種類：①

上記の相手：駐日リベリア大使館

参加人数：403



うち地域住民：219

うち学生・生徒・児童：178

うち相手国参加者：4

交流概要：駐日リベリア大使館関係者を招き交流事業を実施する

実施内容③：リベリア柔道連盟関係者招聘交流

実施日：1月16日～1月18日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：にかほ市金浦中学校武道館、東京講道館ほか

交流の種類：②

上記の相手：リベリア柔道連盟会長

参加人数：29

うち学生・生徒・児童：14

うち相手国参加者：1



交流概要：リベリア柔道連盟関係者を招き交流事業を実施する

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

リベリア共和国との関係を深めるため、駐日リベリア大使館関係者やリベリアのオリンピック選手、柔道連盟会長と初めて対面で交流を実施した。陸上競技オリンピックとの交流では、小学校訪問で子どもたちと心温まる時間を過ごし、柔道交流では、にかほ市柔道連盟とのオンライン交流や柔道着の寄贈を行った。文化祭や食の交流では、**市民や学生がリベリアの方々と気軽に交流し、文化理解と多様性の促進が図られた。**

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

万博に参加するリベリア共和国の大使から、万博を契機にしたリベリア共和国の文化紹介を高校生向けに講演していただくとともに、にかほ市民文化祭で市民とふれあい、にかほ市の文化活動を知っていただく機会となった。

大使のあいさつで、市長やダンススポーツ少年団へ万博ナショナルデーの招待の言葉があった。万博を通じた国際理解や学びを広げていくチャンスとなる。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

【柔道交流 リベリア共和国からの招聘について】

・アフリカを中心にエムボックス感染症が懸念される中、にかほ市では市民が安心して交流することを最優先にしたため、リベリア共和国本土からにかほ市に招待することが難しくなり、リベリア柔道連盟関係者には予定を変更したり長期間に渡り不安を与えてしまった。

・初めてのリベリア共和国からの招聘だったため、ビザ申請の書類や手順が分からず難儀した。最終的に、JICA の支援を受けて申請書類を揃えることができたが、年末年始をはさんだことや時差のため連絡調整が遅れ難航した。

・在ガーナ日本大使館へビザ申請のためにガーナに一週間滞在する必要があり、招聘にはお互いにかかなりの負担となる。

・ガーナの空港で搭乗拒否され、保証金を要求されて予定した航空機に搭乗できなかった。JICA ガーナの支援でホテルの用意と航空機予約変更をしてもらい、チェックイン当日は JICA ガーナ職員が付添をして理由を説明してもらい何とか搭乗できた。

・駐日リベリア大使館に難儀した旨を話したところ、次回招聘することがあれば支援できることがあるかもしれないので相談がほしいということであった。

【大使館関係者、陸上オリンピック（アメリカ在住）招聘について】

・にかほ市内での観光や交流について、盛沢山のスケジュールにしたため余裕がなく予定通りにこなすのが大変だった。外国の人の招聘スケジュールは余裕を持って計画した方がいい。

・スポーツ・文化交流を伝え大使および大使館関係者を招待したが、先方は市民交流に留まらず市としての深い交流を求めているようでありお互いの意識がずれている雰囲気を感じた。今後は、大使を招待する内容か考えて招待しなければならない。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

- ・大阪・関西万博のリベリアナショナルデーで、ダンス交流および仁賀保高校生との交流を実施。
(駐日リベリア大使館と協議を進める)
- ・世界陸上出場後の選手を当市に招聘し、学生や市民と交流を実施。(リベリア選手団と協議を進める)
- ・リベリア柔道連盟とオンライン交流を継続。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

オンラインスポーツ交流の継続（柔道、陸上、ダンス等）

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

- ・基本的にはオンラインでのスポーツ交流を継続していく。陸上競技のコーチを受けたり、柔道競技の指導をしたり、お互いのスキルを教え合う交流など、経費をかけずにできることを模索していきたい。

(5) 山形県遊佐町

実施概要

* 宮崎県えびの市と連携して実施

交流相手国：マダガスカル共和国

事業名：世界越境プログラム・みらいハイスクール構想

目的・目標：マダガスカル共和国の定期交流につなげ、短期的に地域の高校生のグローバル人材としての育成、現地の日本語教育レベルの把握、日本への関心度調査を行う。中長期的には遊佐町の来訪者増加、関係人口増加、留学生受け入れによる人材確保等を期待する。

実施内容①： 現地キーパーソンであるラクトマナナ先生と顔合わせ兼現地の高校生との交流についてオンライン打合せ

実施日：令和6年 11月12日（火）

交流概要：

えびの市・遊佐町の派遣チームがマダガスカル共和国に渡航するにあたり、プログラム概要の説明や現地の中等教育施設で訪問可能な場所はあるかを聞き取り。また、ラクトマナナ先生のこの事業に対するマダガスカル側の所見をいただく。

実施内容②：現地高校生との交流会議

実施日：令和6年 12月7日（土）

交流種別：その他

実施場所：オンライン

交流の種類：②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ナニサナ高校・ジュールフェリー高校

参加人数：50

交流概要：

マダガスカルに参加者：現地で交流する大学生、高校2校の生徒、担当教員

日本側参加者：飯野高校生 2 名、遊佐高校生 3 名、大人 5 名

交流前の顔合わせと交流内容の確認及び日本についての興味関心の聞き取りを行った。

実施内容③：遊佐高校生と飯野高校生の現地交流会準備

実施日：令和 6 年 12 月 9 日（月）－12 月 20 日（金）

交流種別：その他

上記の相手：宮崎県立飯野高等学校・山形県立遊佐高等学校

交流概要：

マダガスカル渡航に向けて、派遣チームの顔合わせ及び交流会で何をするかを確認する。

内容確定後、それぞれが担当する準備を分担。今後は高校生が中心となって活動していくことのマインドセットを行った。

実施内容④：マダガスカル渡航

実施日：令和 6 年 12 月 24 日（火）－12 月 31 日（火）

交流種別：海外渡航

実施場所：アンタナナリボ大学・ジュールフェリー高校

・ナニサナ高校・生徒自宅・ラクトマナナ先生自宅

交流の種類：①②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ジュールフェリー高校・ナニサナ高校

参加人数：40

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：30

交流概要：マダガスカル現地で現地の高校生や大学生との交流を行った。





実施内容⑤：マダガスカル交流の振り返り

実施日：令和6年1月22日

交流種別：その他

実施場所：オンライン

交流の種類：②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ナニサナ高校・ジュールフェリー高校

参加人数：45

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：35

交流概要：

マダガスカル交流の振り返りと万博への招待。万博会場で何をするかの議題投げかけなど

実施内容⑥：遊佐町長へ報告会

実施日：令和6年2月12日（水）

交流種別：その他

実施場所：遊佐町役場

参加人数：11

交流概要：

渡航を行なった生徒3名による報告会（プレゼンテーション）を遊佐町長・企画課へ行なった。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

今回の交流を通して、**生徒たちの価値観やキャリアの選択肢が広がった**と感じている。特にアフリカ諸国やマダガスカルならではの貴重な経験を得たと思う。彼らは異なる地域や文化での生活を実際に体感し、日本国内の都市との違いや、ショッキングでありながらもポジティブな発見をした。

さらに、マダガスカルの方々に受け入れられたことを通じて、「次は自分たちがマダガスカルの方々を歓迎する時、喜ばれる迎え方」を学んだ。この経験は、**海外のゲストに限らず、地域に訪れるゲストを迎える際にも役立つ「ファンになってもらう感覚」を掴むことができた**と感じている。

マダガスカルへの渡航は学校や自治体、市民にも良い影響を与えた。**遊佐高校では、海外からの教員受け入れに手を挙げるなど、国際的な交流に対する意欲が高まり、渡航できなかった生徒が他の国への渡航を決心したりと、前向きな影響が見られた。**さらに、遊佐町では、**大阪万博を世界の文化の祭典として認識し、「行きたい」という声が増えた。**

マダガスカルの日本語を学ぶ生徒や教員にとっても、日本の高校生との交流は刺激的であり、彼らは初めて若い日本人と出会う機会に喜びを感じていた。特に、「日本に行きたいですか？」という質問に対し、現地の高校生全員が「Yes」と答えるほど、日本との交流が大きな影響を与えたことがわかった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

青少年の国際交流と教育の機会の拡大

万博をきっかけに日本を知ってもらい、えびの市・遊佐町へ将来的な留学誘致に繋げていくことを目指した。高校生目線で日本を知ってほしいという思いを体現化できた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

「本プログラムで交流を行なった公立高校に通う生徒の中には経済的な支援がなく日本へ渡航したり、遊佐町やえびの市で留学ができる生徒は居ない。」という返答をラク先生からいただいた。

2025 年の万博に中高生を呼び、その生徒の中から日本の地域に越境するマダガスカル人を募りたかったが、経済環境を整えることが課題。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

【マダガスカルの中高生等を大阪万博へ招待】

2025 年 7 月 24 日～27 日のいずれかの日程で、大阪万博へマダガスカルから日本語を学び且つ日本に留学したいと考えている中学生・高校生・大学生・20 代教員・ラク先生・私立中学校校長を招待する予定。

【マダガスカルの中高生等を遊佐町・えびの市へ招待】

上記の大阪万博の開催の前後どちらかで、マダガスカルの渡航メンバーを 2 つに分け遊佐町とえびの市で留学体験ををしてもらう予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

- ①マダガスカルの中高校生の短期留学プログラムの実現
- ②マダガスカル私立中学校での日本語学習強化と派遣に関する各種手続きを進める
- ③大学生や日本語教員の 3～5 年のグローバルコーディネーターとして採用するための準備

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

日本のサブカルチャーや音楽が若者に広く浸透しているため、オンラインを中心にそのテーマで交流を続けることが可能であると考えている。オンライン交流を継続し、アンタナナリボ大学の学生との交流を通じて、日本での仕事や生活を選択肢として提案していく予定である。

将来的に、えびの市や遊佐町への短期・長期留学を実現するためには、高校の授業についていける語学力、留学資金（日本からの奨学金など）、留学後のキャリアイメージが重要だと考えている。学生間の交流を続け、現地のキーパーソンであるラクトマナナ先生や日本語レベルの高いアンタナリボ大学の Anny と連携し、日本への留学や就職について意見交換を行っていく。最初は、えびの市

や遊佐町で「こんなことができる」と憧れるような事例を作ることを目指している。

（６）群馬県みなかみ町

実施概要

交流相手国：コンゴ民主共和国

事業名：大阪・関西万博を契機としたコンゴ民主共和国との国際交流促進事業

目的・目標：3x3をはじめとするスポーツ交流を核とした地域活性化および関係人口の増加

実施内容①：みなかみ町×コンゴ民主共和国国際交流キックオフ及び 3x3 イベントを開催。

実施日：2024年9月28日(土)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：みなかみ町カルチャーセンター/月夜野北部体育館

交流の種類：②

参加人数：524

うち地域住民：500

うち学生・生徒・児童：300

うち相手国参加者：4

交流概要：

みなかみ町生涯学習フェスティバルにて、みなかみ町×コンゴ民主共和国国際交流キックオフ及び 3x3 イベントを開催



実施内容②：アドベンチャーフェスティバルにて、コンゴ民主共和国との国際交流宣言と共に、 3x3 イベントを開催。

実施日：2024年9月28日(土)イベント・催し(国内)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：水紀行館

交流の種類：②

参加人数：2022

うち地域住民：2000

うち学生・生徒・児童：1000

うち相手国参加者：4

交流概要：

アドベンチャーフェスティバルにて、コンゴ民主共和国との国際交流宣言と共に、3x3 のイベントを実施。

実施内容③： 3x3 UNITED MINAKAMI ROUND を開催し、同時に、コンゴ民主共和国ブースにて、国際交流の場所を設置。

実施日： 2024 年 10 月 13 日(日)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：みなかみ町月夜野総合体育館

交流の種類：②

参加人数：752

うち地域住民：700

うち学生・生徒・児童：500

うち相手国参加者：2

交流概要：

3x3 UNITED MINAKAMI ROUND を開催し、同時に、コンゴ民主共和国ブースを設置を行いました。プロのイベントは勿論、同時に 3x3 U12 大会も開催を行い、コンゴ民主共和国から参加して頂いた皆さま、3x3 UNITED 参加者、ファンの皆さまが融合する機会を提供。



実施内容④： 山本一太知事ふらっとギャザリングイベントにてみなかみ町×コンゴ民主共和国国際交流ブースを設置致。

実施日： 2024 年 10 月 29 日(火)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：群馬県庁 32 階 官民共創スペース NETSUGEN&31 階 GINGHAM

参加人数：330

うち地域住民：20

うち学生・生徒・児童：5

交流概要：

群馬県庁で行われた山本一太知事とのふらっとギャザリングにブース出展をし、みなかみ町×コンゴ民主共和国国際交流事業の告知及び宣伝。

実施内容⑤：古馬牧小学校及び月夜野北小学校にスティーブ選手帯同の元、学校訪問し、講演会及び 3x3 とバスケットボールによる交流開催。

実施日：2025 年 1 月 20 日(月)/2025 年 1 月 27 日(月)

交流種別：講演・出前授業

実施場所：古馬牧小学校 & 月夜野北小学校

交流の種類：②

参加人数：212

うち地域住民：200

うち学生・生徒・児童：181

うち相手国参加者：2

交流概要：



コンゴ民主共和国出身のプロ 3x3 選手スティーブ・クベマ選手を連れて、コンゴ民主共和国手前授業及び 3x3 バスケットボール交流を行いました。

実施内容⑥：コンゴこどもフェスティバルに向けて準備を行ってきたが、警報級の大雪及び交通網が麻痺してしまった影響で、イベント自体は中止。みなかみ町阿部町長、小林議長、森副議長、石坂議員にお越し頂き、コンゴ民主共和国からパトリック様、ミュージシャンの皆さまに来て頂きこれからに向けて、国際交流を実施。

実施日：2025 年 2 月 8 日(土)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：月夜野総合体育館

交流の種類：①②予定

上記の相手：コンゴ民主共和国

参加人数：46

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：6

うち相手国参加者：2

交流概要：

みなかみ町×コンゴ民主共和国こどもフェスティバルを開催し、コンゴ民主共和国大使、コンゴ民主共和国特産品、展示、みなかみ町スポーツアカデミー体験会を開催し、みなかみ町とコンゴ民主共和国の交流機会を作る予定であった。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

みなかみ町民にコンゴ民主共和国を知ってもらうため、イベントや授業を実施した。特に、古馬牧小学校や月夜野北小学校の児童は理解を深め、204cm のスティーブ選手の訪問は大人気であった。**交流の目的である「知るきっかけ」を提供でき、イベントもコンゴブースを設置したことにより盛り上がった。**

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

新たな国際交流の芽生え

大阪・関西万博を契機に、**みなかみ町としてコンゴ民主共和国について知るきっかけ**となった。将来的には、人口増加の著しい国々との関係構築が必要となる中で、観光地であるみなかみ町として、コンゴ民主共和国をはじめ、アフリカ地域や世界各国からの旅行者や移住者の受け入れを検討する契機ともなった。今後はさらに親密な関係を構築し、みなかみ町とコンゴ民主共和国が互いの強みを活かしながら共に発展できる関係を築いていきたい。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

災害級の大雪によるメインイベントの中止

R6年度事業の集大成であった「みなかみ町×コンゴ民主共和国こどもフェスティバル」は、近年にない災害級の大雪に見舞われ、新幹線の大幅遅延や高速道路の通行止めが重なったため、準備を進めていたものの中止を決定した。コンゴ民主共和国大使やエグゼクティブディレクター、各パフォーマーも来場できない状況となり、安全を最優先に考えた苦渋の決断であったが、中止の判断は適切なものであったと考えている。

当日は、コンゴ民主共和国のパトリック氏やミュージシャン、みなかみ町から阿部町長、小林議長、森副議長、石坂議員が来場し、今後の関係構築に向けた意見交換を行った。これは、みなかみ町とコンゴ民主共和国の国際交流において重要な機会となったと感じている。

今後の開催にあたっては、開催時期の選定が重要であり、冬季を避け、春から秋の間での実施を検討していく。また、コンゴ民主共和国からの人材派遣については、前日まで参加者が確定しない状況であったため、各担当者との密な連携を図り、早期にイベント企画へ反映できるよう準備を進めていく。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

みなかみ町×コンゴ民主共和国の交流をさらに深めるため、各種イベントを企画し、**より多くのコンゴ民主共和国の方々にみなかみ町を訪れてもらい、お互いの魅力を共有できる機会を創出**していく。また、**スポーツを通じた交流**の幅を広げ、現地に住むコンゴ民主共和国の方々とのネットワークを築くことで、プロ3x3選手の発掘や各種スポーツ選手との交流を促進し、**みなかみ町民がコンゴ民主共和国に興味を持つきっかけを提供**していきたい。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

コンゴ民主共和国の受け入れ態勢の構築を含めた、外国人人材の受入体制構築を目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

みなかみ町とコンゴ民主共和国の双方には、それぞれ良い点と課題があるが、互いの長所を主張

し、尊重し合うことが持続的な国際交流の鍵であるとする。

みなかみ町には、群馬県唯一の男子プロ 3x3 チーム“MINAKAMI TOWN.EXE”があり、この団体を活用し、3x3 やバスケットボールをはじめとする各種**スポーツ交流**を進めていきたい。

一方、コンゴ民主共和国には、**卓越した才能を持つ人材**が多数存在する。こうした人材をみなかみ町に受け入れることで、町民にとって貴重な機会となるだけでなく、世界レベルのプレーを間近で観ることができ、特に子どもたちに新たな可能性を提供できると感じている。

また、みなかみ町の強みである観光資源を活かし、コンゴ民主共和国や世界各国からの訪問者を受け入れられるよう、各種サポート体制の整備を進めていく考えである。

（７）神奈川県横浜市①

実施概要

交流相手国：ウガンダ・コートジボワール・セネガル・ブルキナファソ・マラウィ・マリ

事業名：アフリカと日本の子どもたちの相互交流

目的・目標：「全世界の共生社会」の実現を目指し、子どもたちだけでなく、多くの人々に対して、今後の社会の在り方を真剣に考える機会を提供する。

実施内容①： SEISA Africa Asia Bridge 2024

※国際交流フェスティバルの実施

実施日：令和6年11月9日(土)

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：星槎高等学校（神奈川県横浜市旭区若葉台 4-35-1）

交流の種類：②

上記の相手：ウガンダ・コートジボワール・セネガル・ブルキナファソ・マラウィ・マリ・エチオピア・ガーナ・タンザニア

参加人数：8401

うち学生・生徒・児童：2312

うち相手国参加者：22

交流概要：

共生社会の実現のため、アフリカ・アジアの国々の人々に関わり合い、繋がることを目的とした事業です。本事業を通して、様々な国々が抱える多くの問題にどのように行動することができるのかを国境・言語・宗教・文化・肌の色・性別を超え共に考え知って繋がる機会を継続的に作り、これからの未来を担う若者たちが考え、将来社会貢献に参加する心を育む種まきを行う。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

本校の取り組みは、生徒、保護者、教職員、一般参加者、そしてオンライン参加者にアフリカの課題への理解を深めてもらい、生徒独自の解決策やアイデアを提案することができた。特に **SDGs に関連するアフリカ・アジアの課題に対する解決策提案**が成果の一つである。

R6 年度は、大使館 18 カ国をはじめ、37 カ国の協力を得て、国際機関（アフリカ以外の地域も含む）ともオンラインでつながり、国境を越えた学びが実現した。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

若い世代がアフリカ・アジア諸国の伝統や文化について学び、国際交流の重要性を再認識する機会となり、「平和な世界共生」の実現を目指し、**アフリカ諸国との交流を通じて、現在の様々な国の情勢・課題・課題への解決策を未来を担う子どもたちと考え、世界と繋がり、世界平和の実現に向けた取り組みを国境・宗教・言語・文化を越え、深めることができた。**

SAAB は大阪・関西万博を契機とした国際交流の促進と、世界平和の実現に向けた重要な役割を果たしていると考ええる。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

・複数国と交流する横浜市ならではの課題

様々な歴史のあるアフリカ諸国をご招待して、オープニングセレモニーや生徒と大使館関係者が議論を行うサミットの際に、日本語・英語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語など様々な言語を使用した会話となった。AI での翻訳機・通訳担当の配置等準備をしたが、個人での会話は成り立つが、サミット形式で集団の議論になると言語での理解や各単語の意味等、通訳担当の理解やボキャブラリーによって違訳をしてしまう可能性も大いにあった。アフリカ諸国では隣接する国同士で紛争・分断がされている国もあり、国際問題にならないようにも意識する必要がある。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

来年度は、SAAB は 11 回大会となり実施方法やアフリカの各国との交流方法を大幅に変更することを検討中。実施主体の星槎グループ（連携企業）は全国で 40 拠点（学ぶ施設）があるため、その施設ごとに国際交流行事を同日に行い、オンラインで実施風景や交流内容を時間ごとに発表することを検討中。

万博会場内では、できれば本事業 SEISA Africa Asia Bridge の取り組みを凝縮した内容を発表するブース出展を目指し、今までの学びの集大成をさまざまな形で発表していきたい。また児童生徒学生に関しては、積極的に来場し学ぶよう促していく。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博終了後、万博で不必要になった掲示物や造形物を学校に掲示し、児童生徒学生に万博での学びを継続できるようにしていきたい。また万博参加国・万博参加団体と協力あるいはコンソーシアムを行い、次の世代に様々な文化を継承できるようプロジェクトを企画したい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

①子どもが主役となり、自ら発見し、調べ体験する共感理解教育の題材として、異なる文化・歴史・自然・資源等を取りあげ、その土地の人々に接し、どのような未来の地球を共に生きていくのか、どう生きるか考えるきっかけを意図的に大人が子どもに場面を作る。

②様々な団体が実施している国際交流フェスティバルに規模の大小関係なく積極的に参加し、「他との異なりは、それぞれの豊かさを表し、互いを区別するものではなく、理解し、認めることが大切である」ことを体験・理解し、共感理解と多様性を深める。

③欧米に比べて、アフリカ各国についての私たちの固定化された知識やイメージを、様々な団体が実施している国際交流フェスティバルに参加することやインターネットを駆使し、調べ、世界の国々を正しく理解をする。

④SEISA Africa Asia Bridge(国際交流フェスティバル)ような取り組みが、多くの学校に広がり、将来子どもたちが共に生きる社会において必ず役に立つ経験になると理解し、継続して取り組み、全世界の若者たちに規模の大きなボランタリ・アソシエーション（自発的繋がり）を作っていく。

（８）神奈川県横浜市②

交流相手国：エチオピア

事業名：鶴見区地域イベント「アフリカタイム」

目的・目標：2025 年に開催される TICAD 9 に向けて、これまで築いてきたアフリカとの友好関係を継続し「アフリカに一番近い都市」として、次世代を中心に市民の皆様がアフリカ各国と交流する機会を設けている。横浜市の学生の中でも特に国際交流への関心が高い若年層が集まる「横浜市国際学生会館（YISH）」を主体にエチオピアについての発信と、万博の機運醸成を行う。

実施内容①：エチオピア出身の留学生親子がアフリカ・エチオピアについて紹介するとともに、参加者との交流や万博情報を伝える。

実施日：令和 6 年 11 月 16 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：横浜市鶴見区 シークレイン 3 階音楽ホール

交流の種類：②

上記の相手：①エチオピア大使館

②横浜市国際学生会館・鶴見国際交流ラウンジ

参加人数：50

うち学生・生徒・児童：20

うち相手国参加者：4

交流概要：

①エチオピア紹介についての情報提供や動画・資料・冊子等の提供

②横浜市国際学生会館に居住するエチオピア出身留学生親子による国の紹介を行い、参加者との質疑応答等による交流を行う。



実施内容②：アフリカ・エチオピアについての動画やパネル展示を行い、アフリカ出身者と参加者が直接交流を行う。また、万博やアフリカ開発会議情報をパネルや冊子等で紹介していく。

実施日：令和 6 年 11 月 16 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：横浜市鶴見区 シークレイン 2 階

交流の種類：②

上記の相手：①エチオピア大使館 ②横浜市国際学生会館・鶴見国際交流ラウンジ

参加人数：60

うち地域住民：40

うち学生・生徒・児童：10

うち相手国参加者：4

交流概要：

- ①エチオピア・アフリカの情報を動画とパネル、冊子を使用しながら展示紹介。
- ②万博および、アフリカ開発会議に関する資料、パネル展示。
- ③アフリカ出身者と来場者が直接会話をしながらアフリカ・エチオピアについて交流。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 (地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

地元ToWorld中の留学生が 100 名以上住居している横浜市の施設で国際交流イベントを実施することで、地域との交流や相互理解を当事者とともに実感できる交流ができ、長期間印象に残る機会を創出ができた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

令和 7 年夏に TICAD を控える横浜市民にとって、アフリカおよびエチオピアをじっくり聞いて学ぶことで万博、TICAD 等への機運の高まりを促すことができた。横浜市が掲げる「アフリカに一番近い都市」としての在り方をさらに確固たるものにするような事業が実施できた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

エチオピア大使館からの出演やビデオメッセージ等予定をしていたが、準備期間が当初予測よりも短期間であるのと、大使館担当スタッフの変更等があり、動画や情報冊子等の提供とアドバイスで対応した。

ステージではアフリカ出身者とともにテーマソングを聞きながら紹介する等大阪・関西万博の全体概要情報をより詳しく紹介できた。一方で、エチオピアの万博関連情報がまだ未定な部分が多かったため、今後は万博におけるエチオピアの情報や展開したい。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

エチオピア大使館と連絡を密に取りながら、万博におけるエチオピアの役割等を紹介することで、万博への機運を高めていく。継続してエチオピア出身留学生の出演等による国紹介を行うとともに、万博での展開や体験報告等、よりリアルで機運醸成になる情報を提供する予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

横浜市国際学生会館に居住している多くのアフリカ出身者をはじめとした留学生とともに、地域との国際交流を深めていく。大阪・関西万博でのレガシーを園芸博覧会へつなげていく事業を構築することを目指す。留学生と地域住民との文化講座を定期的に行うとともに、地域活動へも積極的に留学生が入り込み、国際交流ができる機会を提供することを目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

今回は国際交流機関との連携が多かったが、**地域の自治会や区役所、NPO、学校等、様々な団体と連携し、より大きなムーブメントにしていく必要がある**と考える。文字だけの学びでなく、外国人留学生による直接対話の交流を増やしていき、印象に残る事業を作り上げていきたいと考える。

（９）神奈川県横浜市③

交流相手国：ガーナ共和国

事業名：アフリカと日本の子どもたちの相互交流

目的・目標：これまで築き上げてきたアフリカとの友好関係を継続し「アフリカに一番近い都市」として、次世代を中心に市民の皆様がアフリカ各国と交流する機会を設ける。横浜の次世代を担う高校生が、ガーナ共和国との交流を通じて**多文化共生や異文化に対する理解を深めることはもちろん、改めて自身の文化や環境を客観的に見つめる機会を提供し、アイデンティティの確立に寄与することを目指す。**

実施内容①：横浜市立南高校生とガーナ共和国の高校生等との学校体験、社会科見学、サッカー試合等による交流

実施日：令和６年 １１月 １４日（木）～１８日（月）

交流種別：その他

実施場所：横浜市立南高等学校

交流の種類：②

参加人数：１０００

うち学生・生徒・児童：１０００

うち相手国参加者：１３

交流概要：

○ガーナ共和国の高校生等を南高校に招き、一日学校体験・両者の交流に資する日本を代表するコンテンツを有する市内施設等への共同見学等を行い交流を二日間実施。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

実際に交流に参加した横浜とガーナの生徒は、確実にアフリカおよびガーナに深い印象を受け、今後の進路の検討や生き方を考える際、必ずや糧になったと思われる。

横浜市立南高校生にとっては、英語でアフリカの同世代のコミュニケーションし、議論し、交流して友人となれたことは、大きな自信になったと思われる。SNS やインスタの相互の紹介、交換もしていたので、継続して個人的な交流が続くことも見込まれる。次年度の横浜からガーナへの往訪が実現する場合は、今年度にして中身の濃い学習効果の高い交流が期待できる。ひいては、それぞれの人生において親友として**日本とガーナの架け橋になりうる人材を輩出していく原点のひとつとなった**と考える。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

次世代にアフリカを認識してもらい、横浜市での TICAD 開催の意義を単なる会議の開催にとどまらせることなく、次世代の育成につなげていくことが期待できる。**2 年後に開催が迫る園芸博に向けた国際的な大規模イベントを契機とした次世代育成の成功例の積み重ねにもつながる。**

将来ガーナの指導者となりうる高校生たちに横浜の印象を残すことができたことは、未来のガーナと我が国の発展に必ずや貢献するものと考え。横浜市及び我が国のガーナにおけるプレゼンス向上、ひいてはアフリカ社会、国際社会におけるプレゼンス向上にもつながったと考える。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

国費採択から事業実施まで 2 か月しかなく期間が限られていたため、ビザなど渡航を実現するための諸手続きが大変だった。しかし、在ガーナ日本大使館領事部に南高校の担当教諭の古くからの友人がいたことや、在京ガーナ大使館に全面的に協力していただき、ガーナの教育省・関係大臣に直接連絡を取り、国を挙げて手続きを早めてくれたことなど、関係者が何とかしてこのプロジェクトを実現しようと心を一つにしてすべての課題をクリアすることができた。

今回は奇跡が重なって何とか実現することができたが、今後の糧として、アフリカとの往来は、渡航費・途中の経由地及び特定区間のエアラインの売り切れなどの問題、加えて往訪の場合は、現地の安全衛生上の問題が絡むため、1 年程度前から準備しておくことが望ましい。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

南高校がガーナアチモタ高校への渡航することを検討中。

万博会場内での交流については、在京ガーナ大使館及び同国パビリオン運営事業者と協議しながら内容を詰めていく予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博をきっかけとしてつながった横浜市南高校とガーナアチモタ高校。閉会後も往来やオンライン交流などを通じて息の長い友好関係を維持増進し、わが国とガーナ、わが国とアフリカの交流に役立つ人材を輩出しつづける泉としての機能を果たしていきたい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

今後も世界的な万博をわが国で開くことを契機に世界の青少年たちに日本を知ってもらい、日本の青少年に世界を知ってもらい機会として、機運醸成の一環・レガシーづくりの一環として、万博国際交流プログラムのような制度が続いていくことを望む。

(10) 神奈川県横浜市④

交流相手国：タンザニア

事業名：タンザニアと日本の子どもたちの相互交流

目的・目標：経済・人口・環境問題等、さまざまな分野で世界的な影響力が高まる地域であるアフリカを次世代を担う若者に正しく伝えることで、横浜市内の子ども・若者の多文化理解・多様な価値観の醸成などを推進する。

実施内容①：在日タンザニア連合共和国大使館訪問

実施日：令和6年10月28日

交流種別：大使館訪問

交流の種類：①

参加人数：8

交流概要：本万博国際交流プログラムの内容報告及び、現地視察に先立っての現地関連機関との調整依頼。また、2/1のタンザニアイベント協力の打診。

実施内容②：タンザニア現地事前視察

(タンザニア甲子園関係者交流、タンザニア甲子園観戦)

実施日：令和6年11月28日～12月10日

交流種別：海外渡航

交流の種類：①②

参加人数：220人

うち地域住民：80人

相手国参加者：75人

うち学生・生徒・児童：50人

交流概要：タンザニア野球連盟への挨拶と関係性構築。野球チームのコーチ・選手への本プログラム通知。タンザニアの青少年の野球試合（タンザニア甲子園）観戦による交流。

実施内容③：タンザニア現地事前視察

（在タンザニア日本大使館、タンザニアスポーツ庁、タンザニア教育庁、タンザニア教育省、ザンジバル教育庁、JICA タンザニア訪問）

実施日：令和6年12月4日、5日、9日

交流種別：海外渡航

交流の種類：①

参加人数：34

交流概要：タンザニア各省や在タンザニア日本大使館、タンザニア JICA と横浜市の今後の交流を目的とした表敬訪問と、本交流プログラムの説明及び活動への協力要請。

実施内容④：タンザニア現地事前視察 文化交流（タンザニア本土、ザンジバル）

実施日：令和6年12月6日、8日、9日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

参加人数：16人

交流概要：民族博物館や有名な絵画、地域住民が生活するエリアを視察することで、タンザニアの歴史、文化、暮らしに関して知見を深める。本土（ダルエスサラーム）だけでなく、島嶼部（ザンジバル）も訪問し、二つの地域の相違点についても理解する。

実施内容⑤：タンザニア野球チームとの日本文化交流、日タン学生交流

実施日：令和6年12月10日～22日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

参加人数：77人

うち地域住民：30人

相手国参加者：20人

うち学生・生徒・児童：20人

交流概要：タンザニアの野球チーム（男子）、ソフトボールチーム（女子）に対して日本文化や万博、横浜市を紹介。同世代である横浜市の高校生とオンライン交流を行う。野球に触れたことのないザンジバルの小学生とのキャッチボールイベント実施。

実施内容⑥：AFRICA CULTURE & SPORTS EVENT

実施日：令和7年2月1日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：横浜市開港記念会館

（神奈川県横浜市中区本町1丁目6-6）

交流の種類：①②

参加人数：400人

うち地域住民：350人

相手国参加者：10人

うち学生・生徒・児童：120人

交流概要：横浜市民、特に中高大学生をターゲットとし、親近感と興味を持ってもらうため、タンザニアあるいはアフリカ関連の機関・事業・研究・活動の実施団体のブース出展と講演を開催。



実施内容③：生徒アフリカ現地体験

実施日：令和7年2月19日～26日

交流種別：海外渡航

交流の種類： ②

参加人数： 8

交流概要：横浜星槎学園の生徒がタンザニアに渡航、現地学校訪問等、現地の学生との交流を実施。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

①日本側関係者のタンザニア訪問では、**タンザニアの青少年の育成やスポーツを中心とした交流に関係するタンザニア主要関連機関との信頼と協力関係を築くことができた**。2025 年のタンザニア野球選手の訪日はもちろん、今後の横浜市とタンザニアの継続的な交流の一步目を踏み出した。また、タンザニア甲子園や選手の育成、キャッチボールイベントを通し、タンザニア青少年との交流や日本への興味関心を高めることができた。何より、現地の皆様と共に試合観戦したり、文化を体験したり、コミュニケーションを図ることで、現地でしか体験できない感動の共有や相互理解が深められ、かけがえのない絆を得ることができた。

②横浜市民に向けた「Africa Culture & Sports Event」では、2024 年プロ野球で横浜ベイスターズの優勝が記憶に新しいタイミングであったこと、またちょうど TICAD200 日前の開催イベントということもあり、「野球」「アフリカ」をキーワードに多くのメディアに掲載され広くアピールすることができた。当日は参加者来場者合わせて 400 人規模のイベントとなり、タンザニア大使のご来場とご挨拶を頂くなど、今後の横浜市とタンザニアとの繋がりを強くすることもできた。学生からのアンケート結果でもアフリカ・タンザニアへの興味関心が高まったとの声を多くもらった。

③アフリカについて私たちの固定化された知識やイメージを、生徒たちが実際に渡航することで変化させ、多様な価値観を与えることができた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

タンザニアと横浜市民、特に次世代の若者同士の交流の場が持てたこと、また、来期計画している実際に対面しての交流につながるきっかけとなった。また、横浜市民の皆様にはタンザニアを紹介するだけでなく、リアルな生声やタンザニアの方々との交流を提供したこと、要人を招聘したことで、**横浜市とタンザニア（イベントでは広くアフリカ全体もアピール）の強い絆を印象付けられ、国際都市横浜のイメージ向上に寄与した。**

生徒アフリカ現地体験では、地理・文化・経済・歴史・価値観が大きく異なるアフリカを自分たちの目で直接見て、体験することで、生徒たちの価値観やキャリアを広げる機会を提供し、**青少年の国際交流と教育の機会**の拡大に寄与した。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

本取り組みを本年だけの一過性のイベントで終わらせず、横浜市とタンザニアの中長期的な関係につなげていくことが狙い。そのため、**継続的な関係性を築くことに重点を置き、現地人脈に明るい関係者（Cattle, J -ABS）の協力を仰ぎながら、タンザニア現地の主要機関になるべく多く足を運び、本取り組みの目的や実施内容について、直接会話する機会を持った。**

横浜市民からすると未だアフリカ、タンザニアは馴染みの薄い地域であることから、イベントを企画する際に「野球」「スポーツ」「国際協力」「次世代の人材育成」といったキーワードからも興味を持ってもらいやすいようにした。たとえば、ブース出展団体の選定は横浜市を拠点とする企業、大学、行政、一般団体と取り組み内容に偏りが出ないように配慮。講演では、タンザニアの基礎知識を伝える内容を現地の生の声を取り入れた紹介にしたり、パネルディスカッションテーマを「野球×アフリカ×人づくり」としたことで、**アフリカに興味がある人だけでなく様々な関心からイベントに足を運んでもらえ、かつ理解に無理がないよう工夫した。**

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

2025 年においては、両国の友好関係の取り組みとしてタンザニアの野球チーム選手を横浜市に招聘し、横浜市中高生との野球試合や学生同士の意見交換などの交流を考えている。

また万博会期中にはパビリオンで R 6 年度のタンザニア訪問の様子やアフリカの球児たちの取り組みを紹介する映像を放映したいと考えている。来日するタンザニア野球チームの選手を万博会場に招待し、自分たちの取り組みや思いの発表の場を持つことや、日本をはじめとする各国の万博参加者との交流を企画していく。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

本年度の取り組みを通して築き上げたタンザニアの主要機関や要人との関係性を活かし、タンザニアと横浜の青少年の交流を続けていきたい。その一歩として本年度は**野球を切り口としたが、野球以外のスポーツや文化活動など幅広くその裾野を広げていきたいと考えている。**

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

一過性の取り組みで終わらせないために重要視している点は、タンザニアに関する具体的な取り組みを毎年恒例で実施し、メディア等で発信し続けることと考えている。取り組みとしては以下の 3 つ。

①**タンザニアと横浜市の学生のスポーツや文化を切り口とした交流を継続**していきたい。具体的には、年度ごとにテーマを設定し（例：野球、バスケットボール、ダンス、絵画など）選抜された両国の少年を双方の現地に派遣するリアルな人的交流プログラムを恒例化。並行して、派遣の前後でオンライン交流を行い、渡航が叶わない学生たちにも交流の機会を作りたい。

②在日タンザニア人やタンザニアからの留学生、タンザニアで事業を行なっている日本人を集めた**イベントの定期開催。**

③SNS やホームページ、市の広報誌などで定期的かつ細かなタンザニアレポートを掲載する。今後の世界情勢を考えるとアフリカ地域はさらにプレゼンスを発揮するエリアになりうる一方、**アフリカは日本からするとやはり物理的にも心理的に遠い国であるため、日常的にアフリカのニュースに触れる機会が少ないのが現状。**まずは、市民の皆様が興味を持ってもらいやすいように、生活や文化、経済、教育、あらゆる観点から現地の情報を知る機会を提供することで、興味関心を高める活動をしていきたい。

（１１）神奈川県横浜市⑤

交流相手国：ケニア共和国

事業名：横浜市立商業高校ケニア渡航

実施内容①：アーティストのムディボさんと対面

実施日：2025年2月12日

交流種別：海外渡航

参加人数：10

交流概要：

キベラスラムでアートスクールを所有し、子どもたちへ無償でレッスンを提供している

ムディボさんの生い立ち、近況を話してもらい、質問する。



実施内容②：在ケニア日本大使館訪問

実施日：2025年2月12日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

実施概要：在ケニア日本大使館への表敬訪問

実施内容③：アリアンス高校訪問

実施日：2025年2月13日

交流種別：海外渡航

交流概要：現地高校の生徒との交流、授業体験等



実施内容④：ナイロビ国立博物館

実施日：2025年2月14日

交流種別：海外渡航

交流概要：ケニアの歴史、文化、自然、現代アートについて学ぶ。

実施内容⑤：カライ小学校、孤児院訪問

実施日：2025 年 2 月 15 日

交流種別：海外渡航

交流概要：小学校 3 年生、4 年生との交流、職業訓練校の見学、孤児院の見学

実施内容⑥：カタンギ村訪問

実施日：2025 年 2 月 16 日

交流種別：海外渡航

交流概要：カタンギ村を訪問し、調理、コースター作り、家庭訪問を実施。

参加人数：2025 年 2 月 17 日

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

○ 大阪・関西万博を契機とした参加国との交流

今年 4 月から開催される大阪・関西万博の参加国との交流を通じ、大阪・関西万博への関心を高めるとともに、参加国との交流や万博会場での報告活動等を通じて異文化理解や本市の PR につなげるため、今回訪れたナイロビ国立博物館やナイロビ国立公園、Bomas of Kenya などケニアの歴史や自然、文化等について理解を深め、帰国後に広く知見を共有するとともに、大阪・関西万博の場などを活用し、ケニアと横浜の交流などを若い世代を中心に広く伝えていく礎となった。

○ 横浜商業高校が行っている取組の現地視察

今回ケニアに渡航した横浜商業高校は、TICAD 7 時に実施した Yokohama Student Forum での南アフリカ共和国大使館訪問や基調講演を通じ、差別廃絶のために何ができるかを

考えることからアフリカとの交流が始まり、以後講演などにより継続的にアフリカの現状を学んできた。これらの学びのもとに、2023 年からは生徒が考案した「ハギレプロジェクト」というプロジェクトがスタート。ケニアの貧困・飢餓といった課題解決に取り組んでいる「SHIKUJEMA」の商品を作る際に出るハギレから、コースターやランチョンマットといった製品を作成し販売、その収益をアフリカの子どもたちへの炊き出しや学用品の購入に使っていただく取組である。これらの活動を地域や他校に広げ継続的に行っていくために必要不可欠な生徒及び教員の現地訪問、コーディネーターとの関係を構築することができた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

- ①横浜の次世代を担う子どもや学生が、アフリカ諸国との交流を通じて多文化共生や異文化に対する理解を深める。
- ②自身の文化や環境を客観的に見つめ、アイデンティティの確立に寄与する。
- ③グローバルな視点を持ち国内外で広く世界で活躍できる人材の育成につなげ、「横浜で育ってよかった。」と思える市民が増える。
- ④将来を担う高校生が、多感な時期に現地を訪れ自ら体験することで、国際社会が抱える問題を自分事と捉え真の国際人になる素地をつくることができる。
- ⑤ソーシャルビジネスを行う大人に会い、その職場を体験することで自らの可能性を広げることができる。
- ⑥アフリカの現地の方々と交流する中で、培った英語力を試す場となるだけでなく、国際都市「横浜」を代表する次世代として言葉の力を体感し、語学学習のモチベーションとなることができる。
- ⑦TICAD9 及び大阪万博開催に向け、アフリカの国々を身近に感じ、開催時にボランティアや取り組みの発表団体として若者が参画することができる。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

- ①事業実施に向けた全体企画について

渡航プログラムを計画するにあたり、アフリカ・ケニア共和国という現地の状況を詳しく知る職員がいない中で、プログラムを考えるのが難しかったが、現地コーディネートを SIKUNJEMA に外注したことで、渡航経験のない教員でも現地プログラムを作成することができた。**今後継続的な交流のためには、現地コーディネートを担う協力者との調整が重要である**と考える。

②市民への還元、継続性について

今回、初めて本市の高校生が実際にアフリカに行き、アフリカの空気を肌で感じ、同世代の高校生と交流ができたことは大きな成果だったと考える。**その成果を参加した 6 名の生徒だけでなく、広く次世代をはじめとする横浜市民に還元していくことや、この交流を一回限りのものとせず今後も継続して行っていくためのやり方を考えていくことが課題**である。今後は企画の段階からそのような視点をもって、進めていくことが重要である。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

今回の渡航で得たことを学校内で広く共有し、参加できなかった生徒にも学びを共有するとともに、現地でつながった縁を活かし、今後の継続的な交流を目指す。また、大阪・関西万博を訪れ、会場内で今回の渡航で学んだケニアの現状や感じたことを報告するなど、多くの人に知ってもらえるような活動の実施を目指す。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

今まで通り過去のアフリカ開発会議（TICAD）の横浜開催をきっかけに続いている、次世代をはじめとするアフリカとの交流を続け、これまで築いてきたアフリカとの友好関係を継続し「アフリカに一番近い都市」として、次世代を中心に市民の皆様がアフリカ各国と交流する機会を創出し続けることを目指す。TICAD9 はもちろん、令和 9 年の GREEN×EXPO 2027 につなげるとともに、より国際的で多様性に富んだ都市を目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

TICAD 開催を契機にした次世代とアフリカ各国との交流のほか、姉妹都市交流や姉妹校交流など、これまで築いてきた本市の国際交流を礎として、その時々時代に応じた市民レベルでの具体的な交流を続けていく。

特に**横浜の次世代を担う子どもや学生が、アフリカ諸国との交流を通じて多文化共生や異文化に対する理解を深めると同時に、自身の文化や環境を客観的に見つめ、アイデンティティの確立に寄与する機会を創出する。**また、グローバルな視点を持ち国内外で広く世界で活躍できる人材の育成につなげ、「**横浜で育ってよかった**」というシビックプライドの醸成も目指す。

（１２）神奈川県大磯町

実施概要

交流相手国：ウガンダ共和国

事業名：大磯こどもサミット

目的・目標：こどもたちの意見を取り入れたまちづくりをめざしている大磯町で、取組みをさらに前へ進める大きな「きっかけ」の一つとして、楽しく学び、こどもたちが主体的に自身の意見を発信できる「大磯こどもサミット」の実施を目指す。万博というこどもたちが国際感覚に触れ、刺激を得る絶好の機会を活用し、国際的視野の広いグローバルな活躍ができる人財を大磯町から輩出することを目指す。

実施内容①：駐日ウガンダ大使館訪問

実施日：令和６年１０月１５日

交流の種類：①②

交流概要：ウガンダ共和国と大磯町との交流を深めること及び大磯こどもサミットに関する意見交換などのため、駐日ウガンダ共和国大使館を訪問した。

実施内容②：大磯町内の幼稚園及び小学校訪問交流

実施日：令和６年１２月２０日

実施場所：たかとり幼稚園、大磯幼稚園、国府小学校、町役場

交流の種類：②

参加人数：６７０

うち学生・生徒・児童：６６０

うち相手国参加者：１

交流概要：ウガンダ人が学校等を視察し母国への参考とするとともに、大磯町のこどもたちが、アフリカ・ウガンダ共和国を知る機会及びウガンダ人とのリアルな触れ合いを通じて、国際交流を身近に体感してもらう機会の一つとして実施した。

実施内容③：大磯こどもサミット

実施日：令和6年12月21日

交流種別：町内イベント

実施場所：大磯プリンスホテル

交流の種類：①②

参加人数：555

うち地域住民：500

うち学生・生徒・児童：183

うち相手国参加者：15

交流概要：

アフリカ・ウガンダ共和国を知る、触れる、そして、こどもの権利を主なテーマに、基調講演、アフリカンファッションショー、ワークショップ、パネルディスカッション、キッズ＆アフリカンダンスなど、バラエティに富んだ内容を会場内及びステージで展開した。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 (地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

【幼稚園および学校訪問】

- ウガンダ共和国からの訪問者に、幼稚園や学校を見学する機会を提供し、日本での学校施設や衛生環境を母国の取組みの参考として持ち帰ってもらうことができた。
- 初めて外国の方と触れ合う子どもたちも多く、ウガンダの訪問者を大歓迎し、折り紙や遊びを通じて交流を行うことで、貴重な体験を提供できた。

【こどもスタッフ】

- 町内の26名の子どもたちがスタッフとして参加し、サミットを盛り上げた。
- 意欲的な子どもたちの掘り起こしと芽生えのきっかけを提供することができ、今後の活動拡

大に期待が持てる結果を得られた。

- 一人ひとりが普段体験できない役割を担うことで、貴重な経験の場を提供できた。
- 子どもたちが「自分たちに何ができるか」を考える機会となり、「大磯こどもサミット行動宣言」としてまとめ、発表した。
- 町全体で同じ方向を向き、今後の町のあり方を考える一歩となった。

【大磯こどもサミット】

- ウガンダ共和国大使の参加により、町民のウガンダへの関心や共感が高まり、町全体でウガンダとの親近感を持つきっかけとなった。
- 来場者アンケートでは、「満足した」、「一日飽きずに楽しめた」、「ウガンダを見て、聞いて、味わうすべてが体験できて楽しかった」などの声が届き、ウガンダの現状について学び、持続可能なまちづくりの機運を高めることができた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

- 8月に「令和6年度内閣官房事業」に選定され、9月から着手、12月に「大磯こどもサミット」の開催となり、着手から開催までの調整・準備時間の確保に苦慮した。
- 町にとって初めての大規模国際交流イベントであり、初見の町外団体等と手探りでの調整を含め、戸惑うことも多かったが、既にウガンダ共和国の方と関係を築いていた町民団体や町民の方などの全面的な協力をはじめ、**人と人との繋がりによる多くの関係者からの手厚いサポート**が得られたことで、事故等なく盛況のなかで事業を終えることができた。
- R6年度事業を通じて、多くの方と繋がれたことは、次年度以降の事業展開にも大いに寄与するものであると期待する。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

- ・新たな国際交流の芽生え

- ・青少年の国際交流と教育機会の拡大
- ・次世代の架け橋となる人的ネットワークの形成

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

R 6 年度事業に協力してもらった 26 名のこどもたちをはじめ、新たにこどもたちも募った中で、当初の計画のとおり、大阪・関西万博会場訪問を予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

- R 6 年度事業を通じて繋がった多くの方たちとの継続した交流
- 大磯町は明治・近現代期に多くの政財界人が居を構え、日本、世界をリードした地であることから、町や関係団体をはじめ小学校・中学校・高等学校などと連携し、こどもたちが国際感覚に触れ、刺激を得る機会や場をさらに生み出すとともに、ウガンダ共和国との人的交流へとつながるような取組みを継続する。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

本事業を通じて、町に届いた様々な声から、「こどもも大人も心が弾み“わくわく”する国際交流」をいかに提供するかが「継続」に向けた大きなポイントになると考えている。

そのためにも以下の点を意識して、次年度以降も国際交流を促進していきたい。

- ☐ こどもたちが相手国を知れること
- ☐ こどもたちが楽しめ、触れて、学べる場があること
- ☐ こどもたちが相手国の物づくりなど、体験できる場があること
- ☐ こどもたちが相手国の文化等の体験だけではなく、日本の伝統文化（和遊びや着物など）にも触れる場があること

（１３）滋賀県近江八幡市

実施概要

交流相手国：モザンビーク共和国

事業名：大阪・関西万博国際交流推進事業

目的・目標：各種交流事業を通じて、関係団体間でのネットワークの構築や、住民レベルでの交流を図ることで、本市とモザンビーク共和国との相互理解の促進と、連携を深めることを目的とする。

実施内容①： あづち信長まつり

実施日：令和６年１１月１６日～１７日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：文芸の郷、近江八幡市立安土小学校

交流の種類：①②

上記の相手：モザンビーク共和国臨時代理大使及び大使館関係者

参加人数：３

うち地域住民：３０００

うち学生・生徒・児童：４

うち相手国参加者：３

交流概要：

令和６年１１月１７日に開催されたあづち信長まつりに、駐日モザンビーク共和国ニャルンゴ臨時代理大使、ご家族と大使館関係者を招待し武者行列への参加や地元中学生との交流を行った。当日は、臨時代理大使ご子息ニコラス氏が武者姿となり武者行列に参加されたほか、大使一行も武者行列に参列し地元住民との交流が見られた。



その後、地元の安土中学校の茶道クラブの生徒と講師によるお茶会が開かれ、臨時代理大使一行が日本文化によるもてなしを受けた。

実施内容②：モザンビーク視察訪問

実施日：令和 7 年 2 月 15 日～23 日

交流種別：海外渡航

実施場所：経済省、農林環境漁業省、モザンビーク商工会等

交流の種類：①②

上記の相手：モザンビーク共和国政府関係者、ナンブラ州政府等

参加人数：119

うち地域住民：8

うち学生・生徒・児童：10

うち相手国参加者：98

交流概要：



本市では初となる民間団体によるモザンビーク視察団が結成され、近江八幡市職員を含めて 7 名の参加者が下記の目的によりモザンビークを訪問した。

- ・ 農業や商業分野等での交流によりモザンビークと近江八幡の発展の可能性を模索する。
- ・ 大阪関西万博を P R し、モザンビークと近江八幡・安土地域に関する展示を提案するとともに、万博での来日に合わせて、近江八幡市への来訪を促進する。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

【あづち信長まつり】

モザンビーク共和国臨時代理大使及びご家族・関係者を招き、大使ご子息が武者姿となり武者行列に参加されるなど、会場では多数の来場者と写真撮影を行い交流が見られた。ステージイベン

トにおける臨時大使の紹介では、「弥助」及びモザンビーク共和国と本市との関わりについてスピーチされ、多数の来場者の関心を高めることができた。また、国登録有形文化財である東邸でのお茶会を開催し、安土中学校茶道クラブの生徒がお運び役や通訳者として参加するなど、地元中学生との文化交流を実施することができた。

このイベントを通じて、地元商工団体や関係団体においては、モザンビーク共和国とのさらなる交流発展の必要性を強く持たれ、モザンビーク渡航に向けた機運が大きく醸成された。

【モザンビーク視察】

本市において初の民間団体でのモザンビークへの視察となった。同国は、海洋国家として、また豊富な資源ポテンシャルを保有するものの、加工技術や物流等が不十分であるため輸入に頼らざるを得ず、結果的に物価高騰となっている。同国の課題やニーズに合わせ、持続可能な農業ができる仕組みづくりが必要であると認識した。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

国際交流には、何よりも「人」や交流が重要と考える。今回は特に、あづち信長まつりにおけるお茶会での中学生による大使一行の接待や、モザンビーク視察におけるモザンビーク島中学校と安土中学校とのオンライン交流は、今後につながる一番のレガシーとなった。

モザンビークでは「弥助」の事などは誰も知らなかったことから、「弥助」が織田信長の家臣になったと視察団長がスピーチした際には、奴隷ではなく家臣にしたと言う事に他国では考えられない事だと大変驚かれた。万博を通じてモザンビークには勿論、日本人や世界中の人々にもこの歴史を知らせていきたい。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

本市とモザンビーク共和国との関係は、本市にゆかりの深い織田信長公が、モザンビーク出身と言われている「弥助」を登用したとされていることをきっかけとして、市内の民間団体による交流活動がはじめられ今回の取組に至った。万博国際交流の企画当初は、過去から現在・未来に両国をつ

なげるコンテンツとしての「弥助」を前面に打ち出し、モザンビークパビリオンでの展示等を検討したが、令和6年夏頃のゲームをめぐる騒動に端を達したインターネット上での歴史認識をめぐる極端な反応のため、コンテンツとして扱うことが困難になった。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

今回お出会いした方々と大阪・関西万博を通じて日本で再会を果たし、交流を深めていける大きな可能性を感じた。

・万博では、モザンビークが直面している課題についてモザンビーク館でアピールをして、来場者にモザンビークの現状を知っていただくことが必要である。今回の訪問でお会いした皆様と交流を持ち、万博期間中に近江八幡を訪れて頂き、課題解決に繋がる提案をしたい。

・万博会場内においてオンライン学生交流を実施し、学生同士が自国の文化や伝統文化の視点を共有し、国際的交流の精神を育てるイベントとする。

・本市の地域住民に加えて、本市を訪れる方々に対して、「弥助やモザンビーク紹介や、織田田信長との接点（世界観）等を伝えることから始めたい。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

モザンビーク視察訪問では、多数の団体様と様々な意見交換をすることができた。今後、新たな交流につながるように関係団体と連携・協力し取り組んでいきたい。モザンビークの課題解決への取組は容易ではないが、取組を通じて私たちの地域の魅力を再発見するよい機会となり、近江八幡地域の発展にもつながるものと考えます。

現状の課題や解決策、必要な支援などの情報を積極的に提供することによって、問題に対する理解を深めるために、例えば、あづち信長まつり等のイベントを利用し、モザンビークが抱える問題への理解を深め伝える。問題に対して共感してくれる人が増え、支援の輪が広がっていくことを期待したい。また、中学生のオンライン交流は、費用対効果が高く有効であることから、学校では積極的に展開してもらいたい。

そして、万博終了後が本気度を問われる。**あくまで万博はひとつの手段であり、経過点として捉える必要があり、事業着手以前から複数年の計画や夢を描くことが大切である。**具体的には、

JICA での伴走支援等を活用し、市場規模の把握やビジネスプラン計画等を検討することからスタートになると考える。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

こちら側（日本）の思いだけでなく、相手国・地域にとってのメリットがないと、交流は継続できないことから、具体的な交流やビジネスプランを策定し、進捗確認を行いながら PDCA を回す必要がある。事業実施では、既存の方法やマニュアルがないことから、実施過程で反省すべきことがあれば大胆に見直す。

オンラインも交流の方法であるが、やはり直接対面には劣る。特に、関係が構築できていない初期段階や複雑な交渉では、定期的にモザンビークと日本を行き来する交流が不可欠である。

また、**多文化共生の地域づくりとして、日本人も外国人も対等な暮らしやすいまちづくりを目指し、地域社会に対する多文化共生の意識啓発や、外国人住民の自立と地域社会への参画をサポートする。**

アイデアの一例として、「弥助」のアニメや物語をモザンビーク向けに作成し、学校等で放映することで、日本＝ドラえもんの様に、日本＝弥助モザンビークとなれば、国民も自然と日本に関心を持ってもらえると思うが、上記 4「今後の課題」で記載した「弥助」をめぐる課題があるため慎重な検討と、世論の「大人な」理解が不可欠であると考ええる。

(14) 大阪府大阪市①

実施概要

交流相手国：ガーナ共和国

事業名：大阪市立天満中学校の生徒を対象とした国際交流事業

目的・目標：子どもたちを主役に国際交流を実施することで、持続可能な社会を担う人材を育成を目指す。

実施内容①：在日ガーナ人アーティストによる音楽交流

実施日：令和6年11月22日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：天満中学校 体育館

交流の種類：②

上記の相手：在日ガーナ共和国アーティスト

参加人数：120

うち学生・生徒・児童：120

うち相手国参加者：4

交流概要：在日ガーナ共和国アーティストによる音楽交流

実施内容②：学校関係者の大使館訪問

実施日：令和6年11月25日

交流種別：大使館訪問

実施場所：ガーナ共和国大使館訪問

交流の種類：①

上記の相手：ガーナ共和国大使館

参加人数：6

うち相手国参加者：3

実施内容③： ガーナ共和国大使館関係者のオンラインによる講演と文化交流

実施日： 令和 7 年 2 月 21 日

交流種別： イベント・催し(国内)

実施場所： オンライン

交流の種類： ①②

上記の相手： ガーナ共和国大使館関係者

参加人数： 120

うち地域住民： 120

うち学生・生徒・児童： 120

うち相手国参加者： 4

交流概要： ガーナ共和国大使館関係者のオンラインによる講演と文化交流

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

(地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

本校の生徒が、ガーナの国の内容を知ることにより、視野が広がった。知らないことを知ることにより、興味関心を持つことができたことが、今回の取り組みの大きな成果だと考えている。

また、**6月に学校全体で万博に参加する**にあたって、貴重な事前学習ができた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

万博国際交流をきっかけに今までまったく交流がなかったガーナ共和国と交流を始めることができた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

オンラインでの講演会の際、電子機器のトラブル等で、聞き取りづらい部分や、伝わりにくい部分が数多くみられた。その反面、オンラインではなく、実際に学校に来ていただき、目の前でライブパフォー

マンスを行っていただいた会は、子どもたちの心にも、大きな印象を与えたと思っている。記録よりも記憶に残る取り組みをするためには、オンライン交流ではなく対面交流を中心とした臨場感がある交流が大切であるとする。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

当該学年の生徒がガーナのブース訪問を検討中。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博の取り組み全般を通して感じ取れたことを、学校生活につなげて指導していく。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

今回新たに始まった交流を継続的に、記録よりも記憶に残る取り組みにするためには、オンライン交流ではなく対面交流を中心とした臨場感がある交流が大切であるとする。

(15) 大阪府大阪市②

実施概要

交流相手国：ケニア共和国

事業名：大阪市立湯里小学校の児童生徒を対象とした国際交流事業

目的・目標：本校はアフリカ・ケニアとの交流を深め、子どもたちに多様な文化や自然環境への理解を深める機会を提供し、グローバルな視野を育むことを目指す。

実施内容①： 学校関係者の駐日ケニア共和国大使館訪問

実施日：令和6年11月6日

交流種別：大使館訪問

実施場所：ケニア共和国大使館

交流の種類：①②

上記の相手：ケニア共和国大使館関係者

参加人数：4

うち相手国参加者：4

交流概要：駐日ケニア共和国大使館への学校関係者の訪問

実施内容②：大使館関係者の学校招聘(講演)と駐日ケニア人アーティストによる音楽交流

実施日：令和7年2月4日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：湯里小学校及び大阪城南女子短期大学

交流の種類：①②

上記の相手：ケニア大使館関係者・在日ケニア人アーティスト・東住吉区長

参加人数：255

うち地域住民：224

うち学生・生徒・児童：175

うち相手国参加者：10

交流概要：

- ・大使館関係者を学校に招聘し、ケニアの文化・教育・PV 等にかかる講演を実施
- ・在日のケニア人アーティストを学校へ招聘し音楽やダンスを通じた子どもたちとの交流
- ・湯里小学校の児童が歌等による歓迎

実施内容③： 駐日ケニアの方とともに国立民族学博物館を訪問

実施日： 令和 6 年 12 月 9 日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：国立民族博物館

交流の種類：②

上記の相手：ADNJ 紹介のケニア人講師（ケビン氏）

参加人数：65

うち地域住民：63

うち学生・生徒・児童：59

うち相手国参加者：1

交流概要：

在日ケニア人であるケビン氏とともに国立民族学博物館を訪問し、民族衣装・生活等を鑑賞するとともに講演を同氏から受講し相手国の理解を深める

実施内容④： JICA 現地隊員を通じた現地子どもたちとのオンライン交流

実施日： 令和 7 年 1 月～ ※プラットフォームを活用して定期的に情報交換

交流種別：その他

実施場所：湯里小学校各教室、JICA 隊員現地派遣先

交流の種類：②

上記の相手：JICA 現地隊員・派遣先の子どもたち

参加人数：100

うち地域住民：75

うち学生・生徒・児童：75

うち相手国参加者：20

交流概要：JICA 現地隊員を通じたケニア現地の子どもたちとのオンライン交流

実施内容⑤：東アフリカのアートを学ぶ

実施日：令和6年11月15日、20日、21日、22日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：湯里小学校講堂他

参加人数：36

うち地域住民：33

うち学生・生徒・児童：33

交流概要：東アフリカの文化・芸術に精通した中島文子氏

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

【地域内の波及効果等】②③⑤

- ・各プログラムを通じて、**子どもたちの国際的な視野を広げることができた**
- ・交流イベントについては、保護者や区関係者も参加し、万博への理解を深めるとともに多文化共生社会の実現に向けた啓発につながった。

【相手国の波及効果】①②④

- ・万博開催期の会場内での交流へつながる事前交流を実施
- ・現地小学校と直接オンラインでつながり、将来に向けた国際交流の基盤を構築

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

本校では、大阪・関西万博のテーマに基づき、子どもたちが多様な文化や自然を理解し、グローバルな視野を育むことを目指す。特に**アフリカ文化に触れる活動を通じて、人類の歴史や環境との共生の重要性を学び、アフリカンアートの制作や音楽グループとの交流を通じて、創造力や異文化理解を深める機会を提供し、持続可能な未来への意識を高めていくことを目指す**。今後もこの取り組みを継続し、子どもたちの国際感覚の涵養を育む。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

学校規模や文化・制度の違いにより調整が難しかったので、日本文化に親しみやすい環境からスタートし、徐々に交流範囲を広げていく方略が有効であると感じた。その他、**ビデオレターを活用し、多くの人が視聴できる形での時間と場所にとらわれない交流から始めていくことも手段である**と考えた。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

6月24日に行われるケニア・ナショナルデーへの参加。1年生から3年生までが6月12日に、4年生から6年生が6月18日に万博・ケニアパビリオンを訪問予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

今回のケニア・ナショナルデーへの参加を通じて得た経験を基に、子どもたちが取り組んだ作品や音楽、交流プログラムは、より一層充実した内容になるよう心を込めて取り組みたい。また、この学習を通じてケニアについて理解を深められたため、その知識を生かし、今後の現地校との交流をさらに進めていきたい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

本校は、**地域の力を活かした学びを進め、子どもたちに実践的な体験を提供することを目指している**。大阪城南女子短期大学との連携を強化し、調理実習を通じて食文化や環境意識を学ぶ機会を増やす。また、ケニアの「もったいない」精神や再生可能エネルギーの取り組みを授業に取り入

れ、環境意識の向上を図る。さらに、スポーツ交流を通じて努力の大切さや異文化理解を深め、ケニアの自然や野生動物の学習を通じて環境保護の意識を育む。これらの取り組みを通じて、子どもたちが楽しく学びながら、持続可能な社会の実現について考える力を養うことを目的とする。

(16) 大阪府大阪市③

実施概要

交流相手国：ルワンダ

事業名：大阪市立大江小学校の児童生徒を対象とした国際交流事業

目的・目標：子どもたちを主役に国際交流を実施することで、持続可能な社会を担う人材を育成を目指す。

実施内容①：学校関係者の大使館訪問

実施日：令和6年11月11日

交流種別：大使館訪問

実施場所：ルワンダ共和国大使館

交流の種類：①

上記の相手：ルワンダ共和国大使館関係者

参加人数：4

交流概要：ルワンダ共和国大使館への学校関係者の訪問

実施内容②：ルワンダゆかりの有識者等の招聘

実施日：令和6年10月18日 / 令和6年11月19日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：大江小学校音楽室・多目的室等

交流の種類：②

上記の相手：ルワンダ学生会議・ルワンダの教育を考える会

参加人数：90

うち地域住民：75

うち学生・生徒・児童：75

うち相手国参加者：5

交流概要：

ルワンダゆかりの有識者を学校に招聘し、出前講座や講演等を通じて相手国の理解を深める

- ・ルワンダ学生会議メンバーの招聘（出前講座）
- ・ルワンダの教育を考える会マリー・ルイズ氏の招聘（講演）

実施内容③： バツィンダ小学校とのオンライン交流

実施日： 令和 6 年 12 月 13 日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：大江小学校各教室、バツィンダ小学校各教室

交流の種類：②

上記の相手：バツィンダ小学校・イミゴンゴアーティスト加藤雅子氏

参加人数：170

うち地域住民：75

うち学生・生徒・児童：75

うち相手国参加者：80

交流概要：ルワンダ現地のバツィンダ小学校とのオンライン交流

実施内容④： 手紙による交流

実施日： 令和 7 年 2 月 14 日

交流種別：その他

実施場所：大江小学校講堂

上記の相手：バツィンダ小学校・(一財)大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪

参加人数：130

うち学生・生徒・児童：75

交流概要：

- ・国際郵便の出し方を知り、バツィンダ小学校の児童宛に書いたハガキを完成させる。
- ・使用済み切手を活用した切手アートを 2 枚完成させ、それらを梱包し、箱に装飾を施す。

実施内容⑤：大使館関係者の学校招聘(講演)と在日ルワンダ人アーティストによる音楽交流

実施日：令和7年2月26日

交流種別：イベント・催し（国内）

実施場所：大江小学校講堂

交流の種類：①②

上記の相手：ルワンダ大使館関係者・在日ルワンダ人アーティスト・天王寺区長

参加人数：205

うち地域住民：160

うち学生・生徒・児童：160

うち相手国参加者：30

交流概要：

- ・大使館関係者を学校に招聘し、ルワンダの文化・教育・PV 等にかかる講演を実施
- ・日本在住のルワンダ人アーティストを学校へ招聘し、音楽を通じた子どもたちとの交流
- ・大江小学校の児童が歌等による歓迎

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

【地域内の波及効果等】②⑤

- ・各プログラムを通じて、子どもたちの国際的な視野を広げることができた。
- ・交流イベントについては、保護者や区関係者も参加し、万博への理解を深めるとともに多文化共生社会の実現に向けた啓発につながった

【相手国の波及効果】①④⑤

- ・万博開催期の会場内での交流へつながる事前交流を実施
- ・現地小学校と直接オンラインでつながり、将来に向けた国際交流の基盤を構築

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

万博のテーマに基づいた具体的な企画が、**子どもたちの未来に対する可能性を広げた**。ストーリー性のある交流を通じて、小学 5 年生同士の交流が実現し、児童は驚きと感動を経験し、新たな学びへの意欲を持つようになった。少人数の交流であったが、ルワンダと日本の子どもたちはお互いに行きたい国として関心を持ち、今後もつながりを続けたいという意欲を示した。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

＜当初の課題＞

- ①当初、JICA の派遣教員を頼りに交流を模索したが、派遣教員が高校教諭だったことから高校生との交流を提案されたことは課題。
 - ②ルワンダに送る郵便はストップしている。
 - ③学校の企画力だけでは折角の交流の機会を生かしきれないのではないか。
- 本年度事業を通じて、積極的に伴走してくれる方々と関係を持つことができ、事業が円滑に進むこともあったため、関係者との信頼関係構築が重要だと考えた。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

ルワンダ共和国の駐日大使から 7 月 4 日万博におけるルワンダ共和国のナショナルデーへの参加。ルワンダのナショナルデーでの文化交流ができないか模索している。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

・今回、国際交流の礎を築くことができたと考えている。これが、一過性のものとならないよう、今年度、来年度の交流を自校とバツィンダ小学校とでできるよう、模索したい。そして、この交流が当面続けられるようにし、体験した子どもたちが将来、平和社会構築の使命をもって国際交流に寄与する人材へと成長していくことを夢見たい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

①年間計画の策定

②共通のテーマを設け、双方が主体的にかかわれる活動の企画立案

③現地コーディネーターと密に連携し、スムーズなコミュニケーションを確保すること。

これらを基本に、長期的視点を持ち、相互理解と友情を深める関係を築いていきたい。

また、年間計画に基づいて、教材化にもチャレンジしたい。

（１７）大阪府富田林市、大阪狭山市、藤井寺市、羽曳野市

実施概要

交流相手国：エジプト

事業名：エジプトと藤井寺市・羽曳野市・富田林市・大阪狭山市の観光交流事業業務

目的・目標：古来からの歴史や文化に恵まれた土地で**古墳群を有する藤井寺市・羽曳野市・大阪狭山市・富田林市の４市で連携して、認知度が高く、視覚的にもインパクトのあるピラミッドという巨大墳墓を持つエジプト**との交流を開始することで、エジプト文化への理解を深めると同時に、日本文化や南河内の風土等を発信することで、創造的な未来を若い世代につないでいくことを目指す。

実施内容①： 藤井寺市の観光交流

実施日： 2024 年 11 月 17 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：津堂城山古墳・道明寺

交流の種類：②

参加人数：25

うち学生・生徒・児童：15

うち相手国参加者：25



交流概要：エジプト人による藤井寺の古墳 X ピラミッド観光開発プロジェクト

実施内容②：羽曳野市の観光交流

実施日：2024 年 11 月 17 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：応神天皇陵・大蔵屋

交流の種類：②

参加人数：55

うち地域住民：25

うち学生・生徒・児童：15

うち相手国参加者：25



交流概要：エジプト人による羽曳野の古墳 X ピラミッド観光開発プロジェクト

実施内容③：南河内4市 X エジプトフォーラム

実施日：2025年1月18日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：すばるホール

交流の種類：②



上記の相手：富田林市、大阪狭山市、藤井寺市、羽曳野市、他の市民

参加人数：511

うち地域住民：447

うち学生・生徒・児童：100

うち相手国参加者：4

交流概要：

エジプトと南河内四市の共通点などから、日本人がエジプトについて理解、関心を深めるフォーラム

実施内容④：富田林市の観光交流

実施日：2025年1月18日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：寺田町旧田中家住宅、旧杉山家住宅、寺内町

交流の種類：②

参加人数：39

うち地域住民：20

うち学生・生徒・児童：7

うち相手国参加者：14



交流概要：エジプト人による富田林市の古墳 X ピラミッド観光開発プロジェクト

実施内容⑤：大阪狭山市の観光交流

実施日：2025 年 1 月 18 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：大阪府立狭山池、狭山池博物館

交流の種類：②

参加人数：49

うち地域住民：30

うち学生・生徒・児童：17

うち相手国参加者：14



交流概要：エジプト人による大阪狭山市の古墳 X ピラミッド観光開発プロジェクト

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

南河内 4 市は歴史と文化に恵まれた地域であるが、これまで観光振興に注力してこなかった。万博を契機に外国人観光客を誘致することは重要な課題であり、実現を目指してきた。

今回、内閣官房万博国際交流に参加し、**古墳群を有する南河内と、世界的観光地であるピラミッドを有するエジプトとの交流が実現した。**これにより、自治体職員にとって貴重な機会となっただけでなく、四天王寺大学や初芝富田林高校の学生も積極的に参加し、地域への波及効果が期待さ

れる。さらに、500 名以上の市民が参加したシンポジウムの開催により、万博国際交流の認知が向上し、万博の機運醸成にも大きな影響を与えたと考えられる。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

・万博国際交流プログラムを契機とした南河内 4 市が持つ古墳群とエジプトが有するピラミッドを核とした新たな国際交流が芽生えた。

・知名度の高いエジプトのピラミッドをきっかけに、より深く自身の地域の古墳群についても知る機会を提供し**地域アイデンティティを強化**することができた。

・ゆくゆくはエジプトのピラミッドの知名度も借りながら、地域の認知度を向上させ、観光や地域産業の振興に貢献していくことを目指す。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

今回、南河内の 4 自治体で参加させていただき取組みであったため、4 自治体の考えの調整が必要であったが、万博を機にという共通の思いでコミュニケーションが進行し、克服できた。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

万博会場に近いという地の利を生かして、エジプト関係者で万博に来る方々にたくさん南河内へ招待。7 月 2 3 日のエジプトのナショナルデーを目指して、多くの市民の万博会場訪問。

本年関係性を築くことができたサコ先生の協力も仰ぎながら、万博会場内での交流を模索。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

世界でエジプトのピラミッドと百舌鳥古市古墳群が同格で語られることを目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

4 自治体で足並みをそろえて交流を開始することは大変でしたが、**万博を契機に 4 市連携して事業実施できた**ことは大きな成果であるとする。

(18) 大阪府河内長野市

実施概要

交流相手国：ブルキナファソ

事業名：2025 大阪・関西万博を契機としたブルキナファソとの国際交流事業

目的・目標：本事業を通じ、ブルキナファソと交流を図り、その取り組みを発信することで、本市の魅力を市内外へ発信する。また、**多世代の河内長野市民が異文化交流を体感しながら、まちづくりに関わるコミュニティを広げ、万博後の新しいまちづくりにつなげる。**

実施内容①： 駐日ブルキナファソ大使館等との交流事業

実施日： 令和6年7月27日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：天野山金剛寺・河内長野市立日野コミュニティセンター

交流の種類：①②③

上記の相手：駐日ブルキナファソ大使館、博覧会協会副会長ウスビ・サコ氏、ブルキナファソ伝統音楽家ミロゴ・ベノワ氏、音楽家サキタハチメ氏

参加人数：80

うち地域住民：62

うち学生・生徒・児童：20

うち相手国参加者：8

交流概要：



地球オルガン・プロジェクトを率いるサキタハチメ氏や日本在住のブルキナファソ音楽家による音楽交流を基軸に、駐日ブルキナファソ大使館や万博関係者の方々が、河内長野市民や団体と交流できるイベントを実施した。

実施内容②：ブルキナファソの魅力発信事業

実施日：令和 6 年 11 月 17 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：河内長野市立市民交流センター キックス

交流の種類：②

上記の相手：ブルキナファソ伝統音楽家ミロゴ・ベノワ氏、音楽家サキタハチメ氏

参加人数：300

うち地域住民：290

うち学生・生徒・児童：100

うち相手国参加者：2

交流概要：



河内長野市内で開催する多文化交流イベント「世界ごった煮フェス」において、サキタハチメ氏や日本在住のブルキナファソ音楽家などが、演奏やワークショップを通じて、伝統音楽や楽器、文化などブルキナファソの魅力を、こどもを中心とした河内長野市民に紹介した。

実施内容③：プレ万博イベントでの交流事業

実施日：令和 7 年 2 月 16 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：河内長野市立市民交流センターキックス、河内長野市立文化会館ラブリーホール

交流の種類：①②③

上記の相手：駐日ブルキナファソ大使館、博覧会協会副会長ウスビ・サコ氏、ブルキナファソ伝統音楽家ミロゴ・ベノワ氏、音楽家サキタハチメ氏

参加人数：1000

うち地域住民：900

うち学生・生徒・児童：500

うち相手国参加者：5

交流概要：



大阪・関西万博の開幕前の河内長野市内でのプレ万博イベントとなる「つながる河内長野 EXPO」において、駐日ブルキナファソ大使館や万博関係者の方々に、トークディスカッション形式でブルキナファソや万博についてお話しいただいた。また、ブルキナファソの音楽や楽器などと河内長野市の地域資源を融合させた舞台作品を製作・披露した。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

河内長野市在住の音楽家のサキタハチメ氏を中心に本市の魅力を音楽や舞台演出で表現する「地球オルガン・プロジェクト」を通じて、ブルキナファソとの交流事業を実施することで、大阪・関西万博のテーマである「命輝く未来社会のデザイン」の実現に向け、ひと・もの・ことの有機的なつながりに加え、河内長野市民が多様な文化や価値観を理解・尊重することができた。

また、本市が「つながる河内長野」と題して取り組んでいる、市民・団体・事業者・行政によるコミュニティづくりに、ブルキナファソが加わることで、つながりが大きく広がり、地域の活性化やシビックプライドの醸成が図られた。

さらに、本事業の取り組みについて、市の HP や公式 SNS、Yahoo!ニュースなどで情報発信し、本市の魅力を市内外へ広く発信することができた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

本市のこれまでの国際交流事業では、アフリカ地域との交流がほとんど無かったことから、今回、万博を契機に新たにブルキナファソとの交流によるアフリカ地域とのつながりが加わったことにより、**次の世代を担うこどもを中心に幅広い世代の市民の方々が、アフリカ地域の文化や芸術に触れ、互いの理解を深めることができた**と考える。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

ブルキナファソの国家情勢から、渡航による現地での交流が困難な状況であることがわかったが、事業実施者を介して、駐日ブルキナファソ大使館への接触することにより、年度内に2回も、駐日大使や臨時代理大使、書記官等に河内長野市を訪問いただくことができ、相手国と密な交流を図ることができた。

今後も現地での交流が難しい場合は、オンラインで現地と日本を結ぶなどして、現地の方々と河内長野市民の交流を図りたいと考えている。

また、駐日ブルキナファソ大使館等との交流事業では、開催2週間前の急な依頼であったが、事業実施者を介して、博覧会協会副会長のウスビ・サコ氏に参加いただけることとなったため、相手国との交流と万博関係者との交流が同時に実施することができ、非常に有意義な交流の機会となった。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

万博会期中にはブルキナファソのパビリオン関係者等が多数来日されると見込まれるため、河内長野市内で、ブルキナファソのパビリオン関係者と、こどもを中心とした河内長野市民との交流事業を実施する。

また、万博会場でブルキナファソ関係者と河内長野市民との交流の機会を設け、お互いの地域の魅力を万博会場で発信する。

さらに、今年度の事業で生まれた駐日ブルキナファソ大使館等とのつながりを活かし、河内長野市内で開催する万博の機運醸成イベントに、駐日ブルキナファソ大使館や博覧会協会の方々を招き、万博後のまちづくりについて考える機会となる講演会などを実施する。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博閉会後も継続して、駐日ブルキナファソ大使館や日本在住のブルキナファソの方々との交流を図り、相互理解を深めるとともに、地域社会を担うグローバルな視点を持った次世代を育成し、地域の活性化を図る。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

持続的な展開に向け、連携強化の観点から、河内長野市国際交流協会との間で交流事業への支援・協力体制を構築した。

（１９）大阪府松原市

実施概要

交流相手国：タンザニア

事業名：ティンガティンガ まつばら×タンザニア

目的・目標：

松原市の地域住民との交流を通して、駐日タンザニア大使をはじめ、タンザニアの子どもたちや SC 公認認証審査員に本市の魅力を体感してもらうことにより、海外における本市のファンを増やすことを目指す。来年、万博に訪れるタンザニアの国民や万博関係者に本市を訪れてもらうなど、来訪人数の増加といった効果も期待。

実施内容①： 駐日タンザニア大使とティンガティンガ展示による交流、及び中島さち子プロデューサーと音楽交流

実施日： 令和 6 年 7 月 26 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：道明寺天満宮

交流の種類：①③

参加人数：46

うち地域住民：24

うち学生・生徒・児童：1

うち相手国参加者：2



交流概要：

中島さち子プロデューサーを交流イベントに招き、万博への意識を高め、タンザニアとの相互文化交流事業を実施する。

実施内容②： 駐日タンザニア大使との地域交流

実施日：令和 6 年 7 月 27 日

交流種別：大使館訪問・市内

実施場所：市役所・図書館など

交流の種類：①

参加人数：31

うち地域住民：30

うち学生・生徒・児童：10

うち相手国参加者：2

交流概要：

市内施設や観光名所を巡り地域住民との交流を行う。



実施内容③：アーティストと子どもたちによるティンガティンガ教室と作品展示会（5日間）

実施日：令和6年8月7日～11日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：松原中学校、ハンズマン松原店

交流の種類：②

参加人数：150

うち地域住民：150

うち学生・生徒・児童：150

うち相手国参加者：11

交流概要：

ティンガティンガアーティストと現地の子どもを

招へいし、ティンガティンガ教室を実施。また、作品を展示した。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

大使との交流を実施することにより、関係性を構築することができた。

また、松原市内の子ども達とタンザニアの子ども達が交流することにより、異なる文化を肌で感じることで、子ども達の多文化理解とともに海外に興味を持つきっかけになった。また、事業後もまつばらマルシェという食のイベントにタンザニア料理店に出店してもらうなど良好な関係を築けている。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

今まで全く関係を持っていなかったタンザニアと関係を持つことができ、万博を前に絵画や子どもたち同士の交流を通し子どもたちの国際理解にも寄与することができた。参加者には万博に行った際にタンザニアのパビリオンも見に行くと言っている参加者もあり、万博を機に子どもたちが興味を持つことにつながった。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

連携業者との事業終了後のやり取りのなかで、提出書類などの負担が事前情報より大きいことを理由に関係性が悪化し、今後ティンガティンガ教室を実施することが困難となった。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

パビリオンの訪問及びナショナルデーへの参加を予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博閉会後も市役所にティンガティンガの掲示を行うなど、交流を続けていく。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

タンザニアと今後も良い関係性を保ちながら市庁舎にティンガティンガの展示などを行っていくことで、市民にとって身近に感じることができ、関心を持ってもらう。

（２０）大阪府和泉市

実施概要

交流相手国：セネガル共和国

事業名：セネガル共和国との文化（スポーツ、音楽）を通じた交流事業

目的・目標：セネガル共和国との交流による関係強化と交流を通じた市民への感動提供。

実施内容①： 中島さち子氏及びアブライ・ンジャイ・ローズ氏によるセネガル共和国訪問

実施日： 令和 6 年 9 月 1 日（日）～同月 6 日（金）

交流種別：海外渡航

実施場所：セネガル共和国

交流の類型：②③（②ンジャイローズファミリー③中島さち子氏）

参加人数：16

うち地域住民：8

うち学生・生徒・児童：4

うち相手国参加者：8

交流概要：



2024 年 9 月、万博テーマ事業プロデューサーである中島さち子氏（シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」）は、和泉市×セネガル国際交流の調整役を務めるアブライ ンジャイ ローズ氏とともにセネガルを訪問した。今回の訪問には、クラゲ館の 360 度映像撮影を行う YTV の関係者や、クラゲプロジェクトを通じて国際文化交流を推進するチエジェ Chol 氏、和太鼓演奏者の佐伯 篤宣氏も同行。和泉市との国際交流の深化や、2025 年の万博会場での和泉市×セネガル国際交流事業の実施に向けた調整を行った。

実施内容②：セネガル共和国音楽交流&ウォーキングイベント開催

実施日：令和 6 年 12 月 8 日（日）

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：エコールいずみ アムゼ広場・和泉市シティプラザ 弥生の風ホール

交流の種類：②③（②KURAGE BAND セネガル人メンバー③中島さち子氏、山口マユウ氏）

参加人数：744

うち地域住民：720

うち学生・生徒・児童：100

うち相手国参加者：4

交流概要：

中島さち子氏率いる KURAGE BAND

feat.SENEGAL による単独での音楽ライブやいずみ太鼓「鼓聖泉」とのコラボステージ、（一社）JDWA 代表理事であるウォーキングインストラクター山口マユウ氏によるウォーキングセミナー大阪・関西万博ヘルスケアパビリオンでも採用されている AI 歩行解析の無料体験イベントを実施。



実施内容③：市内小学校における万博・セネガル共和国にかかるワークショップ

実施日：令和6年12月9日（月）、同月10日（火）

交流種別：講演・出前授業

実施場所：和泉市立池上小学校、和泉市立幸小学校

交流の種類：②③

上記の相手：②KURAGE BAND セネガル人メンバー③中島さち子氏

参加人数：200

うち地域住民：186

うち学生・生徒・児童：166

うち相手国参加者：4

交流概要：



12月9日、10日の2日間にかけて、和泉市内の2つの小学校をセネガルメンバー含む KURAGE Band が訪問し、音楽や文化についての交流を実施した。

それぞれの学校では、以下のようなタイムスケジュールで交流会を実施した。

①冒頭、KURAGE BAND Senegal ver による演奏スタート

- ②学校から中島さち子氏・株式会社 steAm の紹介
- ③2025 大阪・関西万博及び万博国際交流事業についての紹介（中島氏より）
- ④株式会社 steAm 及びメンバーの自己紹介
- ⑤KURAGE Band Senegal ve

実施内容④： 市内小学生・中学生・義務教育学校生を対象とした万博・セネガル共和国の解説動画配信

実施日： 令和 7 年 1 月 15 日（水）～同年 2 月 14 日（金）

交流種別：その他

実施場所：各学校授業、児童・生徒自宅等

交流の種類：② ③（②アブラインジャイローズ氏③中島さち子氏）

参加人数：約 3000

うち地域住民：約 3000

うち学生・生徒・児童：約 3000

うち相手国参加者：2

交流概要：

市内の小中学生を対象に、大阪・関西万博来場や今後のセネガル共和国との交流について興味を持つきっかけとすることを目的とし、万博やセネガル共和国をテーマにした動画を、大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏が監修し作成。市内小・中・義務教育学校に協力を依頼し、小学 4 年生～中学 2 年生（義務教育学校 4 年生～8 年生）を対象（動画の内容を基に対象学年を決定）に動画を配信。視聴後は別途内容に関するアンケートへの回答も依頼。

実施内容⑤：市長公式訪問団によるセネガル共和国訪問

実施日：令和 7 年 1 月 27 日（月）～同年 2 月 2 日（日）

交流種別：海外渡航

実施場所：セネガル共和国

交流の種類：①②

上記の相手：①セリーヌ・ゲイ・ジョブ 産業・商業大臣、モデュウ・ンベネ・ゲイ セネガル輸出促進
公社総裁等②ハディ・ディエン・ガイ 青少年・スポーツ・文化大臣、オーギュスタン・サンゴール ゴレ
島市長兼セネガルサッカー協会会長、ジャーニャ・ンジャイ オリンピック委員長

参加人数：38

うち相手国参加者：25

交流概要：

令和7年1月27日（月）～同年2月2日（日）の期間で**和泉市長を含む公式訪問団**4
名（プラス通訳1名）がセネガル共和国を訪問（セネガル共和国 ダカル市滞在は1月29
日（水）～1月31日（金）の3日間）。主にスポーツ関係や万博関係の省庁や団体の要職
と会談し、今後の交流方法等につき協議を行った。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

・2020 東京オリンピック・パラリンピックにセネガル共和国のホストタウンとして登録以来、コロナ
ウイルス感染症拡大により交流ができていなかったが、本プログラムの実施により、こども達を中
心にセネガル共和国を身近に感じてもらうことができた。

・特に、市内2校の小学校で実施したワークショップでは、計150名近くの児童が実際にセネガル
共和国出身者と音楽を通じて交流し、文化を体感することができた。

・また、市内小・中・義務教育学校（小学4～6年生、中学1～2年生、義務教育学校4～8
年生）への動画配信では、3,000名に迫る児童・生徒が動画を視聴（2月19日時点のアンケ
ート回答数が2,930件であるため、無回答の数を考慮すると3,000名超と推測される）し、セネ
ガル共和国の文化、音楽、生活及び万博について学んだ。

・市長公式訪問団によるセネガル共和国への訪問では、文化・スポーツ大臣や産業・商業大臣を
はじめとした計5名の要職と会談を行い、特に産業・商業大臣との会談では、交流促進に関する

協力覚書を結び、今後 2025 大阪・関西万博での相互交流や関係性の強化を進めることを確認した。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

・セネガル共和国訪問は、本市として初めての試みであり、各要職との会談にて相互交流にかかる意識の共有ができたことは、今後セネガル共和国との交流を行うにあたり、大きな土台となった。

・本プログラムにより、セネガル共和国を身近に感じた子どもたちが大阪・関西万博パビリオンに会場して、セネガル共和国の文化等を深く理解することで、子どもの視野が広がり、将来の夢を考える糧となる。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

課題 1：セネガル共和国への訪問について、在セネガル日本国大使館を通じて各要職へのアポイントを取ったものの、直前まで予定が固まらないことや、調整していた内容が当日に覆されてしまうことがあった。

→在セネガル日本国大使館より、セネガル共和国の国民性やこれまでの大使館と各省庁とのやり取りの経験上より、基本的にレスポンスは良くなく、期間を設けて打診したとしても、直前でのリマインドを求められ、それまでは返答をもらうことができない旨を教授された。

課題 2：在日セネガル人の本市来訪者増加につなげることが出来なかった。

→令和 7 年度に在日セネガル人と市民のサッカー交流イベントを企画しているため、まずは和泉市に実際来訪してもらい、和泉市の魅力を伝える。その後、コミュニティ等で和泉市について拡散してもらうことができるよう企画し、継続的な来訪につなげる。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

① 令和 6 年度事業にてワークショップや動画配信を通して万博及びセネガル共和国について学ん

だ市内小・中・義務教育学校の児童・生徒（20～40 名想定）が万博会場を訪れることができるようにする。

→会場では、中島さち子テーマ事業プロデューサーが手掛けるシグネチャーパビリオン「クラゲ館」の訪問や、いのちパークでの音楽交流イベント「World Life Band（仮）」に参加。

② **本市所有施設の弥生の風ホールにて、市民対象の万博関連イベントを開催**する。内容としては、本市が企画している、万博会場内で披露する演目やイベントを市民が体験できるもの。

→中島さち子プロデューサーが率いる KURAGE BAND セネガル共和国 Ver（セネガル共和国から音楽家を招待）といずみ太鼓「鼓聖泉」（和泉市いずみの国 PR 大使）とのコラボを予定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

① 本市所有のスポーツ施設「総合スポーツセンター」にて、在日セネガル人を招待し、市民とのサッカー交流イベントを行う。

→和泉市サッカー連盟（体育協会所属）や和泉テクノ FC（和泉市をホームタウンとする女子サッカーチーム）とも連携し、試合や交流イベントを実施する。

→当該イベントにて交流した市民と在日セネガル人が来年度以降も継続的に交流できることを目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

・今回のセネガル共和国訪問により得た繋がりを活用し、様々な角度から交流の可能性を模索していく。

・まずは在日セネガル人との交流を継続的に実施できることをめざし、在日セネガル大使館と連携し、効果的に周知する方法の検討やコミュニティの紹介等を依頼する。

・セネガル共和国との交流については、基本的にはオンラインでの交流をベースに、在セネガル日本国大使館と連携し、スポーツ交流を軸にスポーツ省やオリンピック委員会、セネガルサッカー協会と協議する体制を維持する。

(2 1) 大阪府高石市

実施概要

交流相手国：マダガスカル

事業名：高石市×マダガスカル マダガスカルフェア 2 0 2 4

目的・目標：先進国では人口減少傾向が進む中、発展し人口が増加しているアフリカ、特に日本と同じ島国であるマダガスカルの人々との交流を通じて、子供たちに高石市の将来について考えてもらえるきっかけを提供。

実施内容①： 海に囲まれたマダガスカルとの交流のため帆船みらいへのイベント

実施日：令和6年10月5日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：大阪湾岸壁

交流の種類：①②③

上記の相手：博覧会副会長ウスビ・サコ氏、在日マダガスカル人

参加人数：250

うち地域住民：250

うち学生・生徒・児童：100

うち相手国参加者：13

交流概要：

ゼリジャパンが運営する万博スペシャルサポーターである帆船みらいへを高石市の港湾に着岸し、マダガスカルの方々13名に参加いただき、船上での音楽、ダンス、歌などでの交流を実施。



実施内容②：大阪・関西万博副会長であるサコ先生を招聘し、高石市内中学生に向けた講演会を開催

実施日：令和6年10月18日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：高石駅前 アプラ高石大ホール

交流の種類：①②③

上記の相手：在日マダガスカル臨時大使、ウスビ・サコ氏、在日マダガスカル人

参加人数：336

うち地域住民：33

うち学生・生徒・児童：277

うち相手国参加者：4

交流概要：



高石市の中学 2 年生 277 名を招いてのサコ先生の講演会を開催。

実施内容③：高石駅前広場においてマダガスカルフェアを開催

実施日：令和 6 年 10 月 18 日 19 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：高石駅前広場

交流の種類：①②③

上記の相手：2025 年日本国際博覧会副会長ウスビ・サコ氏、在日マダガスカル人

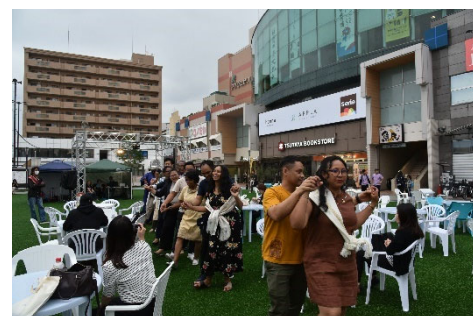
参加人数：545

うち地域住民：500

うち学生・生徒・児童：150

うち相手国参加者：15

交流概要：



高石市のメインの駅である南海本線高石市駅の駅前広場にてマダガスカルステージを設置し、マダガスカルフェスを開催。

実施内容④：マダガスカルとの料理交流を開催

実施日：令和 6 年 10 月 19 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：アブラ高石 シェアキッチン

交流の種類：①②③

上記の相手：2025 年日本国際博覧会副会長ウスビ・サコ先生

参加人数：56

うち地域住民：50

うち学生・生徒・児童：20

うち相手国参加者：5

交流概要：

マダガスカルの名産品であるバニラビーンズを活用したプリン作りのワークショップを開催した。

実施内容⑤：高石商工フェスティバルにてマダガスカルの出展とステージイベントとフットサル交流

実施日：令和6年10月20日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：高石市 鴨公園グラウンド

交流の種類：①②③

上記の相手：ウスビ・サコ氏、在日マダガスカル人

参加人数：9530

うち地域住民：9500

うち相手国参加者：20

交流概要：

高石商工フェスティバルに参加し、ステージ登壇と物販コーナーの設置と子どもたちとのフットサル交流を開催



実施内容⑥：マダガスカル展示会の開催

実施日：令和6年10月15日～20日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：アブラ高石 ギャラリー

交流の種類：①②③

上記の相手：2025 年日本国際博覧会副会長ウスビ・サコ氏、在日マダガスカル人

参加人数：432

うち地域住民：380

うち学生・生徒・児童：30

うち相手国参加者：20

交流概要：

マダガスカルの文化や風習などを理解いただくためにマダガスカル展示会を開催。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

大阪・関西万博副会長のウスビ・サコ先生を通じて、**海に育てられたという共通点や、本市の市民の方が JICA の海外青年協力隊としてマダガスカルで活躍されていることもあり、マダガスカルを相手国として、万博国際交流プログラムに参加することを決定いたしました。**

今回の取組みで、**市職員内でもマダガスカルとの交流は定着し、市民にも認知も獲得**できた。

マダガスカルの方々にも大使館をはじめ今回の高石市との交流スタートは喜ばれており、マダガスカルの方々万博国際交流に積極的に協力いただけることを実感できた。

大阪・関西万博がなければこのような相手国からの積極的な交流というものは無かったと感じ、今回交流をスタートさせることができたことは、大変有意義であった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

海に育てられたという共通点を核に万博を契機に新たな国際交流が芽生えた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

庁舎内では日々の業務も忙しくマンパワー不足であるため、新しい業務に年度内で取り組むことは非常に難しく、舎内での意思決定を行い取り組んでいくまでに非常に時間がかかったが、事業を進めていく過程で、教育委員会などの協力を得たことで、今後も全市を挙げての取組みにできればと考えている。よりいっそう一般の市民全員により興味を持っていただき、市全体の盛り上がりにしていくことも重要であるとする。

・来年度の取組みや万博会場内での交流への展望

今回の取組みを機に、高石市のふるさと納税の返礼品としてマダガスカルのパニラビーンズを活用した地元事業者による新しいスイーツの開発を開始。このような取組みを一つずつ、実現することを目指す。

万博会場に近い地の利をいかして、マダガスカル関係者の方々にとって、日本の故郷のように感じていただけるように、一般市民とも交流できることを目指す。市民との交流を深化させることで、高石市のこどもたちが万博を契機とした国際感覚の醸成を目指す。

・来年度以降の取組み・交流への展望

今回の万博を契機に海外との交流を進めることで、社会課題の解決を目指す。

高石市を子育て世代にとって住みやすい、魅力あふれる街にしていくために、市民が多様性の重要性やこどもたちが新しい社会への気づきを感じられるような交流の継続を目指す。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取組み

日々の業務多忙の中、国際交流への取組みを新たに始めること、継続することは自治体にとってはハードルが高いと考えるが、新しい地方創生を進めていくためにも、多様な国々と交流を深めていくことこそ、今必要な事であるとする。そのため少しでも自治体職員の負担を減らすために、万博終了後もこのような取組みを国が支援していただけることを希望する。

（２２）大阪府東大阪市

交流相手国：ベナン共和国、タンザニア連合共和国、コートジボワール共和国、ボツワナ共和国

事業名：東大阪市万博国際交流プログラム

目的・目標：**多種多様な中小企業が集積する「モノづくりのまち」東大阪市内中小企業の将来的な事業展開や新しい販路開拓**を目指して、市内企業等のアフリカへの理解が促進されるようなビジネスマッチングや販路開拓につながる情報発信を行う。さらに在日在外アフリカ関係者と市民との直接的な交流の場を提供し、アフリカを身近に体感・体験し、相互の文化理解を図ることを目指し、国際交流の推進を本市の課題である観光振興につなげ、その目的である**交流人口の増加と地域経済の活性化**を図ります。

実施内容①：大阪アフリカビジネスフォーラム 2024(TICAD 閣僚会合へ参加を含む)

実施日：令和 6 年 10 月 25 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：東大阪市文化創造館

交流の種類：①②

上記の相手：①ウスビ・サコ氏 ②ベナン共和国大使館

参加人数：309

交流概要：

アフリカ地域との相互理解や国際交流を通じた地域の活性化、持続可能な共生社会の実現をめざす。アフリカビジネスの現状や文化を紹介することで、東大阪市内企業を含む関西企業のアフリカに対する理解を促進し、ビジネス展開の可能性を提示するもの。



実施内容②：Africa Expo（アフリカをもっと知ろう！）

実施日：令和 6 年 10 月 26 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：花園中央公園 噴水前広場

交流の種類：②

参加人数：約 1 万人

※イベント当日、花園ラグビー場で行われた関西学生アメリカンフットボールのリーグ戦観戦者の公式発表

表数は 8,200 名、その参加者たちが通る場所で開催したため、上記の人数で記載。

交流概要：

在日在外アフリカ関係者と市民、日本企業との直接的な交流の場を提供することで、相互の理解を図ることに加え、市内事業者との連携や子ども向けのワークショップなどを通し、国際交流の推進において本市の課題である観光振興につなげること、さらにその目的である交流人口の増加と地域経済の活性化を図るために実施したもの。



実施内容③：アフリカ渡航（ベナン共和国）

実施日：令和 6 年 11 月 5 日～15 日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

参加人数：3

交流概要：

大阪アフリカビジネスフォーラム 2024 をさらに掘り下げ、ビジネスマッチングのプラットフォーム化を見据えた手厚いサポート体制の構築やビジネスセミナーの定期開催に向けた調整等を行った。また、東大阪市教育委員を務める田中宏一氏が同行し、教育分野などにおける協働の可能性を検討した。

実施内容④： アフリカ企業来日視察

実施日： 令和 6 年 10 月 17 日～28 日

交流の種類：②

参加人数：8 か国 15 社

交流概要：



これまで大阪アフリカビジネスフォーラムへの参加者や関係機関から寄せられた「より具体的なパートナーシップに繋がるコンテンツを」「日本のビジネス文化について学ぶ機会や、日本企業と直接繋がる機会を」という声に応えるべく、アフリカ企業を招聘、日本企業との直接の繋がりを構築していくためのツアーを実施。（滞在約 10 日間）

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

各事業を通して、**アフリカの現状やビジネス文化について知る機会を創出、相互理解の促進、経済連携を図った。**

ビジネスフォーラムにおいては、昨年よりも踏み込んだ内容のパネルディスカッションを展開し、また、ブース出展した企業からは、「昨年よりもアフリカへのビジネス展開に熱量のある企業が増えたと感じる」という声も聞かれるなど、回を重ねることによる成果も見られた。

アフリカ渡航においては、フォーラムの内容をさらに掘り下げ、踏み込んだ内容の検討を行い、今回初めて実施したアフリカ企業来日視察においては、ビジネス文化を実際に体験・体感しながら学び、具体的なマッチングの機会創出に繋がったことで、参加企業からも高い満足を得られた。加えて、**国際交流の推進を、本市の課題である観光振興につなげる目的であったことから、来日企業の本市内ホテルへの宿泊につながったことも効果として挙げられる。**

Africa Expo においては、本市が掲げる「子どもファースト」の理念に基づき、市内外を問わずファミリーが参加しやすいステージ内容、ブース展開を行い、参加者アンケートからも、心から楽しみ、互いに関心を持ち、さらには 2025 大阪・関西万博の機運を高めるイベントとなったことが伺えた。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

日本とアフリカのプラットフォームである ADNJ の存在をクローズアップできた。

加えて、下記の要素が複合的に作用して、**万博を契機とした継続的な交流人口の増加や経済発展の基盤が育まれていくことが期待できる。**

・ビジネスにおける異文化交流やマッチングの機会創出、技術の P R などを通し、様々なネットワークが構築されつつあり、**将来的な産業構造の基盤、新たなビジネスの創出の可能性に繋がった。**

・Africa Expo などイベントを通し、市や事業者、地元の食べ物・商品・技術などアフリカと日本それぞれの魅力 P R の機会を創出した。

・子どもたちを含む来場者が音楽やダンスなどの異文化を体験し楽しむことで、これまで以上に世界（相手国）に対する関心を高め、今後長期的に良好な関係を残す取り組みとなった。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

【昨年度事業からの課題】

2022 年から年に一度開催してきた大阪アフリカビジネスフォーラムにおいて、参加者や関係機関などからは「より具体的なパートナーシップに繋がるコンテンツ」を求める声が上がっていた。それに応えるべく、アフリカ各国の現地企業との出会いと関係構築について模索してきた。一方で、昨年のフォーラム後に事業の一環で訪れたアフリカ各国の企業からは「日本のビジネス文化について学ぶ機会や、日本企業と直接繋がる機会」が欲しい、という声があった。

【既存の課題に対する対応策】上記要望に応えるべく、初めての取り組みとして今年はアフリカ 8 カ国から 13 社（15 名）が来日し、東大阪市を拠点として、2025 年日本国際博覧会が開催される大阪・関西エリアを巡り日本のビジネス文化を学ぶセミナーや BtoB ミーティング、企業視察などを行った。また本事業は、同じく 2025 年に行われる TICAD9 パートナー認定事業であることから、TICAD 開催地である横浜市を訪れ国際コンベンションにも参加した。（滞在 10 日間）

このように、アフリカ企業が来日し、日本のビジネス文化や生活スタイルを体感すること、日本企業との直接の繋がりを構築していくことは、これまで行ってきた本事業や、来日期間中の大阪アフリカビジ

ネスフォーラム/AFRICA EXPO での交流、さらに今後の展開において大きな意味をもつ内容となった。

【新たに見えてきた課題】

上記企業視察は当初 40 社の応募に対し、100 社を超える応募があり、企業実態などを精査の上 40 社に絞り手続きを進めたが、来日対象者のビザ取得手続きなどが難航し、実際に参加できた企業は 13 社（15 名）に留まった。

併せて、これまでビジネス文化等の相互理解を促進してきたが、当視察を通してアフリカ企業側の日本文化の理解促進、さらにその逆も含め、互いのギャップを埋め、理解し合うさらなる方策の必要性を改めて認識した。

【今後の対応策】

ビザの手続きについては、日程的余裕をもった調整により対応していきたい。相互理解の促進については、日本企業のアフリカ視察などプログラムの充実・磨き上げを検討していく。

【対応策に対する懸念】

各事業は、アフリカと日本の経済連携・文化理解、大阪関西万博の機運醸成という点で大きな意味をもつ内容となったが、今後の展開を検討する上で予算面は喫緊の課題である。経済的状況も含め、各所との連携強化、事業発展に向け具体的施策を慎重に検討していきたい。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

令和 7 年度（2025 大阪・関西万博開催中）における「大阪アフリカビジネスフォーラム」の開催を検討中。

ただし、万博開催期間中において日程の調整や準備期間の確保が可能かも含め慎重に検討する必要があると考えている。

また、万博開催期間中、万博会場にて大阪府・大阪市万博推進局が『祭』をテーマに開催する「大阪ウィーク」に自治体として参画予定。

「大阪ウィーク」のうち「大阪の祭！～EXPO 2025 秋の陣～」(メインステージ)において、Africa Expo で好評であったアフリカ音楽 LIVE や、アフリカンダンスと樟蔭高等学校(東大阪市)ダンス部とのコラボステージを検討している。

さらに、東大阪市教育委員会事業である「カラフルコミュニケーション」においては、東大阪市の小学生が楽しんで体を動かしながらアフリカの文化を体験できる楽器やダンスを取り入れたブース内容を検討している。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

大阪アフリカビジネスフォーラムの継続的・定期的な開催を通し、今後大きな市場へと発展することや人的資源が連携されていくことなどの可能性を秘めているグローバルサウス、アフリカ大陸との連携、交流、相互発展に対する関心の高まりが見られた。

ADNJ では、万博終了後にはさらに高まった機運を逃すことなく、適格なサポート体制の構築や機会の創出を通し、アフリカと日本の懸け橋、プラットフォームとしての役割を担えるよう事業を推進していきたいとの思いから、自治体としてもさらに連携し協力していきたい。

同時に、ビジネスマッチングや販路開拓におけるサポートを継続することで、「モノづくりのまち東大阪」の事業所が直面する課題のみならず、本市の課題である観光振興にもつなげ、その目的である交流人口の増加と地域経済の活性化を図っていきたい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

・住民や企業同士の交流に留まらず、地元の教育機関と連携するなど、国際理解や多文化理解を楽しみながら教育できる場を創出する。

・日本とアフリカ間の販路拡大や産業連携を目指す企業の「プラットフォーム」となるべく、これまで以上に具体的ニーズに寄り添える事業内容にブラッシュアップしていく。

・良い効果を生み出した事業内容を共有し、交流の重要性に関する認識を高める

これらの取り組みを通じて、持続的な国際交流、さらには多様な価値観を尊重し合える社会の創出に繋がる取り組みとしていく。

(23) 大阪府交野市

実施概要

交流相手国：エチオピア連邦民主共和国

事業名：交野エチオピア国際交流プログラム

-アフターコロナ 100 年後に受け継がれる交野の郷土芸能を目指して-

目的・目標：交野市の未来を担う子ども達にとって、2025 年に開催される大阪・関西万博は世界中の人々と様々な文化と出会う貴重な機会となる。万博会期前、会期中、会期後において、**交野市とエチオピアアーティストグループの文化芸能交流、学生交流を積極的に図る事で、地域の子供達がグローバル社会に目を向けるきっかけを創ると同時に、地元交野の特色を学び、その特色をしっかりと表現する契機を創る事**を目的とする。

実施内容①：エチオピア訪問

実施日：2024 年 8 月 28 日～8 月 31 日

交流種別：海外渡航

実施場所：エチオピア 首都アジス・アベバ

交流の種類：②

上記の相手：Fendika Cultural Center (ファンディカ)

参加人数：13

うち相手国参加者：13

交流概要：

Fendika の本拠地であるエチオピアの首都アジス・アベバを視察。アフリカ最大の露天市のあるメルカート、現地での和太鼓とアフリカンジャズの音楽交流などを体験し、交流計画の構想を練ると共に、アーティストや現地関係者との調整を行った。

実施内容②：国際文化交流 学校訪問

実施日：2024 年 10 月 11 日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：交野市立私市小学校(AM) 藤が尾小学校(PM) 各体育館

交流の種類：②③

上記の相手：Fendika

参加人数：約 735

うち学生・生徒・児童：685

うち相手国参加者：9

交流概要：



Fendika が市内小学校を訪問し、文化交流を実施。小学生による和太鼓演奏や Fendika のパフォーマンス、質疑応答を通じて交流を深めた。また、給食時には Fendika のメンバーが子どもたちに交じてエチオピア料理を食べながらコミュニケーションを取り濃密な時間を過ごした。

実施内容③：国際交流コンサート

実施日：2024 年 10 月 12 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター（星の里いわふね）

交流の種類：①②③

上記の相手：Fendika・サエキ囃子・KURAGE BAND・交野市民

参加人数：327

うち地域住民：250

うち学生・生徒・児童：38

うち相手国参加者：9

交流概要：



交野市内ホールにおいて参加費無料で実施した国際交流コンサート。Fendika のアズマリやマシンコの演奏に始まり、大阪関西万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏と国立民族学博物館・

総合研究大学院大学教授の川瀬慈氏、Fendika 代表メラク氏の 3 名のトークセッション、Fendika・KURAGE Band・サエキ囃子のコラボレーション演奏等を実施した。

実施内容④： 交流会ワークショップ

実施日： 2024 年 10 月 13 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：交野市立いわふね自然の森スポーツ・文化センター（星の里いわふね）

交流の種類：②③

上記の相手：サエキ囃子・Fendika・交野市民

参加人数：35

うち地域住民：9

うち学生・生徒・児童：8

うち相手国参加者：9

交流概要：

交野市の良質な汚泥を再利用したベンガラ染めとエチオピアの布を使用したワークショップイベント。

加えて Fendika のサポートの中実施した楽器演奏体験の実施。

実施内容⑤： 駐日エチオピア大使館訪問

実施日：2024 年 11 月 26 日

交流種別：大使館訪問

実施場所：駐日エチオピア大使館

交流の種類：①②

上記の相手：エチオピア大使

参加人数：8

交流概要：

エチオピア大使館に表敬訪問し、令和 6 年度の交野エチオピア国際交流プログラムの報告を行った。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

エチオピア芸能集団 Fendika(ファンディカ) は、エチオピアの伝統文化を守りながらもさまざまなものを融合させ、新たな芸能へと昇華する、世界的にも高く評価された音楽団体である。本交流事業において、**多くの子どもたちが世界的な音楽に触れ、エチオピアという国を身近に感じ、その文化や音楽に触れる経験を得ることができた**ことは非常に大きな成果であると考えられる。

Fendika の交野市訪問では、子どもたちはアムハラ語という言葉で Fendika メンバーに質問をし、マシニコという一弦楽器やクラールという独特な弦楽器の音に触れるなどの交流体験をした。また、給食センターの協力のもと、クックルというエチオピア料理が市内全小中学校の給食でふるまわれた。こうした取り組みを通じ、地域の子ども達グローバル社会に目を向けるきっかけが創出され、また、地元である交野市の魅力の再確認の機会にもなった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

交野市の子どもから大人まで、世界的に活躍する、本物の芸能を肌で感じる貴重な機会となった。印象的だったのは、学校交流において Fendika のリーダーであるメラク氏が子ども達を踊りに誘うとみんなが一斉に踊りだした事である。“文化も言語も肌の色も違えど、音楽で一つになる”という今回の交野市×エチオピア国際交流プログラムの一つ答えのような時間であった。**中島氏からの約 160 の国・地域が集まる大阪・関西万博についての紹介と相成り、万博という機会の希少さ、世界が身近にあるということ**を子どもたちが肌で感じる機会となった。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

◎ 言語の壁

国際交流における言葉の壁は少なからずあると感じた。同時に言葉が伝わらない時にジェスチャー等でコミュニケーションを取ろうとするアクションは、ネガティブなものではなくむしろ国際交流における根幹のように感じた。学校交流では、すぐに子ども達が Fendika の音楽に合わせて踊りだし、また、

初日の夜に行った、交野市のサエキ囃子主導のちゃんこ鍋交流会では、共にお互いの国の唄を歌い合ったり、踊り合ったりし、改めて音楽の可能性を示せたように感じる。

◎スタッフの確保

実際の交流においてどのセクションにどれだけのスタッフが必要か、またどのような対応が求められるか、事前にできるシュミレーションはしていたが、実際の交流では手が届かない部分もあった。今回の経験を活かし、来年度の国際交流に活かしていきたい。

◎子供たち同士の交流

渡航を伴うリアル交流の難しさや、オンラインで交流を行う場合は、時差の問題があり、子供たち同士の交流を行うことが難しい。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

大阪・関西万博にて、いのちの遊び場クラゲ館でサエキ囃子の練り歩きや Fendika とのコラボレーション演奏、サエキ囃子の子ども達の訪問や、いのちパークにおけるライブイベント等を実施する。交野市及びエチオピアの子どもたちのオンライン、リアルの交流や、メディア発信や広報を通じた交野市民全般のイベント参加促進に取り組む。また、周辺地域や大阪以外からの交野市へのイベント集客、宿泊者増加を期待したい。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

大阪・関西万博において、テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏は 100 年後の子ども達の為に今何ができるかを日々考えられており、万博は通過点に過ぎないと考えている。今回の交流で感じた事が交野市民の万博への関心を高め、機運醸成に繋げていくと共に、**会期後もエチオピアという国のことを身近に感じられるように、心に残る体験**としたい。

また、今回の交野市×エチオピアの国際交流プログラムを体験した子ども達が、万博を通して、よりグローバルな視点を獲得し、国際的な交流を深めたいと自発的に感じるようになることを期待したい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

今回の国際交流プログラムにより、両国の食や文化などのリアルな交流を図ることができたため、これを契機として、**今後はオンラインとリアルを含めた交流を持続的に図っていきたい**と考えている。

特に、両国の子どもたち同士の交流を望んでいることから、音楽や踊りなど子どもたちが親しみやすい取り組みを中心に、オンライン交流を主体とした取り組みを行っていきたい。

(24) 兵庫県南あわじ市

実施概要

交流相手国：南アフリカ共和国

事業名：子供たちが創る未来のチーズ文化～南アフリカ×南あわじ市）～ワインとチーズと牛乳で大人も子供も乾杯！

目的・目標：教育プログラムの充実による交流、多文化共生社会の創出、ワインやチーズなどの輸入活性化と市民生活への浸透

実施内容①： 在南アフリカ共和国日本大使館やアフリカ連合開発庁等関係者訪問

実施日：2024年11月25日～12月4日

交流種別：大使館訪問

実施場所：各訪問先

交流の種類：②

上記の相手：在南アフリカ共和国日本国大使館

参加人数：50

うち地域住民：40

うち学生・生徒・児童：30

うち相手国参加者：50

交流概要：



在南アフリカ共和国日本国大使館、在日本アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）、JICA（国際協力機構）を訪問し、事業概要の共有や南あわじ市の観光・食資源のPRを行った。また両国の小学校の国際交流についても相談し、現地の学校を紹介いただき訪問。

実施内容②：南アフリカ共和国の食文化視察

実施日：2024年11月25日～12月4日

交流種別：海外渡航

実施場所：南アフリカ共和国プレトリア、リンポポ、ケープタウン

交流の種類：②

上記の相手：AUDA-NEPAD、JICA 等の現地コーディネーター

参加人数：130

うち地域住民：40

うち学生・生徒・児童：30

うち相手国参加者：50

交流概要：

ワインとチーズと牛乳を主役とした食文化交流実施のため、南アフリカ共和国にて食材にまつわる視察（背景を知れる場所や販売店舗、観光施設等）や現地住人との食文化交流を実施した。ワインについてはワイナリーでどのような提供が行われているかも視察した。

実施内容③：アフタースクールでの文化講習

（Enge 氏による小学生向け授業、チーズ作り体験）

実施日：2024 年 11 月 6 日～2025 年 2 月 12 日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：南あわじ市 榎列アフタースクール 淡路島牛乳

交流の種類：②

上記の相手：南あわじ市 榎列アフタースクール、Enge Dzebu 氏

参加人数：140

うち地域住民：50

うち学生・生徒・児童：30

うち相手国参加者：50

交流概要：



南あわじ市教育委員会が行う「アフタースクール事業」と連携し、南アフリカの食文化や歴史を学んだり、南アフリカの小学校とオンラインで交流を行った。自分たちの住む淡路島での"地チーズ"作りを体験するため、淡路島牛乳をつかったチーズ作りを体験した。

実施内容④： 南あわじ市の食関係事業者を招き、視察報告会・南アフリカ共和国出身者・関係者と食文化交流会

実施日： 2025 年 2 月 11 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：南あわじ市福良 296-5

交流の種類：②

上記の相手： 南あわじ市の食・観光産業従事者、南アフリカ共和国出身在住外国人

参加人数：54

うち地域住民：40

うち相手国参加者：4

交流概要：

2025 年大阪・関西万博開催、アフリカ開発会議（TICAD）に向けた国際文化交流の促進を見据え、南あわじ市の食・観光産業従事者、南アフリカ共和国出身在住外国人を招き両国の食文化・伝統文化を通じた相互理解のための食文化交流会を実施。

実施内容⑤： 在日外国人と連携した地域ガイド体制強化、南あわじ市の観光コーディネーターの育成

実施日：2024 年 9 月 10 日～2025 年 2 月 12 日

交流種別：その他

実施場所：株式会社次世代共創企画オフィス、南あわじ市各所

交流の種類：②

上記の相手：淡路島に住む在住外国人、観光コーディネーターを目指すガイド

参加人数：68

うち地域住民：50

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：3

交流概要：

在住外国人と連携し、南あわじ市に外国人が来訪した際のコーディネート力を強化。地域の価値観と働き方に触れ、旅行者、地域、コーディネーターが共に人生を変えるような自身の変容のきっかけを提供するトランスフォーマティブツアーについて実践と学びを行う。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

本事業を通じて、当初の目標としていた、**南あわじ市と南アフリカ共和国の子供たちを主役とした食文化交流**を通じての成果が次の通りあげられた

①アフタースクールでの文化講習では、南アフリカ出身の Enge 氏による南アフリカの文化や暮らしの紹介などの授業や淡路島牛乳でのチーズ作り体験を通じて、延べ 30 名の児童が参加し、自身の住む**南あわじ市や南アフリカの文化や食について深く学ぶ機会を創出した。**

②南アフリカ訪問では、在南アフリカ共和国日本大使館やアフリカ連合開発庁との関係構築に成功し、今後の継続的な交流の基盤を確立した。→その紹介で**現地の小学校とも交流が可能となり、オンラインで南あわじ市と南アフリカの小学校を繋ぎ学びの場を作ることができた。**

③食文化交流では、南あわじ市の食関係事業者 20 名以上が参加し、南アフリカのワインやチーズ文化について学び、新たなビジネス機会の創出につながった。

④特筆すべきは、在日外国人と連携した地域ガイド体制の強化により、20 名以上の勉強会への参加者を得て、持続可能な観光推進の体制が整備された。

全体として、当初想定していた交流回数や参加者数を上回り、南アフリカと南あわじ市の間で、食文化を軸とした持続的な関係構築に成功した。特に、子どもたちの異文化理解促進や、地域事業者の国際展開支援において、具体的な成果につながった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

①南アフリカ共和国と南あわじ市の間で、**食文化を軸とした持続的な交流基盤を確立**した。特に、在南アフリカ共和国日本大使館やアフリカ連合開発庁との関係構築により、2025 年の TICAD に向けたホストタウンとしての受け入れ体制を整備。これは万博後も継続する両国間の文化交流の礎となるものである。

②アフタースクールでの食文化講習を通じて、**次世代を担う子どもたちの国際理解を促進**。これは万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った、持続可能な多文化共生社会の実現に向けた重要な一歩となった。

③**地域の食関係事業者との連携により、南アフリカのワインやチーズ文化の理解促進と、新たなビジネス機会の創出にも成功**。これらの取り組みは、万博後も継続する国際文化交流と地域経済活性化の基盤として機能すると考えられる。

④在日外国人と連携した地域ガイド体制の強化を通じて、トランスフォーマティブトラベルを提供できる観光人材を育成した。この取り組みは、**万博後のインバウンド観光促進に向けた南あわじ市の受け入れ体制強化に寄与している**。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

①オンライン交流の技術的課題への対応：

南アフリカの小学校とのオンライン交流において、WiFi 環境の整備状況による接続の不安定さが課題となった→がこちらは子供たちに電波があることが当たり前ではないことを学び、繋がることのできる事への感謝としてメッセージを伝えた。

②文化交流の拡大と深化

現在は食文化を中心とした交流が主であるが、今後は芸術、音楽、スポーツなど、より幅広い分野での交流機会の創出が可能性として考えられる。意見交換会からの意見として、今後の展開として、特に、若年層の参加を促進するためのプログラム開発が重要であるという課題が見えてきた。

③地域内での認知度向上

食文化交流イベントなどへの参加者は一定数確保できたものの、南あわじ市全体における南アフリカとの交流事業の認知度は限定的である。より広範な市民参加を促すための広報戦略の確立が必要である。

④持続可能な運営体制の構築

今後は民間事業者や市民団体との連携を強化し、より自立的な運営体制を確立する必要がある。特に、観光コーディネーターの育成やガイド体制の強化には、継続的な研修と支援体制の整備が求められる。交流事業から生まれる経済的価値の創出など、自立的な運営を可能とする財源確保の仕組みづくりが課題となる。

<今後に生きる知見>

①食文化を入り口とした交流は、言語の壁を超えて相互理解を深める効果的な方法であるということが本事業を通じて確認できた。特に、チーズ作りやワインの試飲など、体験型のプログラムは参加者の興味関心を高め、深い学びにつながる。

②持続可能な観光モデルの構築手法

南アフリカのサステナブルツーリズムの事例から、自然保護と観光振興の両立、地域コミュニティとの協働の重要性を学んだ。特にトランスフォーマティブトラベルの概念は、南あわじ市の観光モデル構築に活用できる重要な知見となった。

・来年度以降の取り組み

①教育プログラムの発展：アフタースクールでの文化講習を発展させ、年間を通じた国際理解教育プログラムとして確立できることを目指す。オンライン交流と実地交流を組み合わせた、より充実した教育コンテンツを提供する。

②食文化を通じた地域活性化：南アフリカのワインと南あわじ市の乳製品を組み合わせた新商品開発や、両国の食文化を融合させたレストランの展開など、食を通じた地域経済の活性化を推進。また、定期的な食文化イベントの開催により、継続的な交流機会を創出する。

③インバウンド観光の本格展開：育成した観光コーディネーターを中心に、南アフリカからの観光客受け入れを強化。トランスフォーマティブトラベルの考え方を取り入れた高付加価値な観光プログラムを提供し、持続可能な観光振興を実現する。

・持続的国際交流の展開に向けた工夫や取組

④多文化共生社会の実現

在日外国人と連携した地域ガイド体制をさらに発展させ、南あわじ市における多文化共生社会のモデルケースとして確立。この経験を他の国際交流事業にも応用し、**グローバルな地域づくりを推進**する。

～多文化共生社会の実現に向けたアプローチ～

本事業で構築した在住外国人と連携した地域ガイド体制を基盤として、より包括的な多文化共生社会の実現を目指す。具体的には、在住外国人の専門性や文化的背景を活かした観光プログラムの開発、地域の伝統行事への外国人の参加促進、多言語による情報発信の強化を推進する。また、国際交流を強化し、多言語対応のツアーや暮らし体験の展開や、コミュニティーの運営を通じて、在住外国人と地域住民が日常的に交流できる場を創出する。さらに、学校教育における交流プログラムの実施や、若手観光ガイドの育成を通じて、次世代の国際理解を促進する。

これらの取り組みを、行政、民間企業、市民団体の協働により持続的に運営することで、南あわじ市を「多文化共生のモデル都市」として確立し、その経験と知見を他の地域にも展開していく。

(25) 奈良県橿原市

実施概要

交流相手国：ブルキナファソ

事業名：令和6年度内閣官房事業

目的・目標：万博での音楽公演参加を通じて、文化交流を図り、児童が国際的な感覚を身につけ、コミュニケーション能力を高める。

実施内容①：2025年大阪・関西万博にてブルキナファソを代表してオペラを上演する関係者のモイス・コンボルボさん、藤家溪子さんを講師として招き、講演や授業参観、給食を通じた交流を行った。

実施日：2025年1月25日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：橿原市立金橋小学校 体育館

交流の類型：①②

上記の相手：モイス・コンボルボさん 藤家溪子さん

参加人数：468

うち学生・生徒・児童：468

うち相手国参加者：2

交流概要：

2025年大阪・関西万博にてブルキナファソを代表してオペラを上演する関係者のモイス・コンボルボさん、藤家溪子さんを講師として招き、講演や授業参観、給食を通じた交流を行った。



実施内容②：2025年8月4日のブルキナファソナショナルデーで上演されるオペラに出演希望の児童が集まり、藤家溪子さん、パフォーマーの大橋武司さんを講師として招いて、オペラの練習を行った。

実施日：2025年2月15日講演・出前授業

交流種別：講演・出前授業

実施場所：橿原市立金橋小学校 木の部屋

交流の種類：①②

上記の相手：藤家湊子さん・大橋武司さん

参加人数：59

うち学生・生徒・児童：54



交流概要：

2025年8月4日のブルキナファソナショナルデーで上演されるオペラに出演希望の児童が集まり、藤家湊子さん、パフォーマーの大橋武司さんを講師として招いて、オペラの練習を行いました。

実施内容③：2025年8月4日のブルキナファソナショナルデーで上演されるオペラに出演希望の児童が集まり、藤家湊子さん、パフォーマーの大橋武司さんを講師として招いて、オペラの練習を行った。

実施日：2025年2月22日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：金橋小学校 木の部屋

交流の種類：①

上記の相手：藤家湊子さん・大橋武司さん

参加人数：52

うち地域住民：48

うち学生・生徒・児童：48

うち相手国参加者：1



交流概要：

2025年8月4日のブルキナファソナショナルデーで上演されるオペラに出演希望の児童が集まり、藤家湊子さん、パフォーマーの大橋武司さんを講師として招いて、オペラの練習を行なった。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

本事業を通じて、交流校の児童はアフリカ・ブルキナファソの方々と直接交流し、異文化理解を深める貴重な機会を得た。特に、ブルキナファソの歌を通じた舞台づくりの経験や、オペラ関係者との交流を通じて、教科書やメディアでは得られない実体験を重ね、国際的な視野を広げることができた。また、地域社会における多文化共生への意識も高まるなど、事業の波及効果が見られた。

今年度は、当初の目標であった在日ブルキナファソ住民（10名以上）の参加には至らなかったものの、地元小学生（25名以上）の参加は大幅に達成され、次年度の交流プログラムへの発展に繋がる基盤が築かれた。今後は、より多くの在日ブルキナファソ住民との接点を増やすための働きかけを強化するとともに、オンライン指導の活用などを検討し、オペラへの参加を含めた継続的かつ円滑な国際交流の機会を提供できるよう改善を図る。

今回の取り組みは、児童の国際感覚を養うだけでなく、地域全体の国際理解を深める第一歩となった。今後もこの成果を発展させ、より多くの人々が国際交流に関わる機会を創出していきたい。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

本事業は、万博を契機に国際交流を促進し、次世代の国際感覚を育む貴重な機会となった。特に、ブルキナファソの方々との共同制作やオペラへの参加を通じて、一時的な交流にとどまらず、継続的な国際理解の基盤を築く重要なステップとなった。

また、交流校の児童が異文化に触れ、多様な価値観を受け入れる経験を重ねたことで、地域社会全体の国際共生意識の向上にも寄与した。今後は、オンライン指導を含む継続的な交流の仕組みを整え、万博を契機とした国際交流のレガシーを地域に根付かせていくことが期待される。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

今年度の事業実施にあたり、いくつかの課題に直面した。その一つが、在日ブルキナファソ住民の参加者が目標に達しなかった点である。想定以上の時間的制約があり、プログラムの実施時間を確保することが難しく、調整にも課題が生じた。

今後のプロジェクト展開においては、継続的な国際交流の仕組みを整えることが重要な課題となる。特に、海外の協力者との関係を強化し、オンライン指導の導入など、持続可能な交流のための具体的な方法を検討する必要がある。

今年度の取り組みを通じて得られた知見として、異文化交流には十分な事前準備と柔軟な対応が不可欠であることが明らかになった。特に、知識の習得にとどまらず、実体験を通じた学びが重要であることが再確認された。今後は、事前学習の充実や継続的な関係構築に注力し、より実りある国際交流の機会を提供していくことが求められる。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

来年度以降は、オンライン交流の導入や事前学習の充実を図り、児童がより深く異文化を理解できる機会を継続的に提供していく。特に、ブルキナファソの文化や歴史について学ぶ機会を増やすことで、交流時の理解を深め、より意義のある対話を生み出すことを目指す。また、オンラインを活用することで、地理的な制約を超えた定期的な交流を可能にし、一過性の体験ではなく、長期的なつながりを築く仕組みを整えていく。

万博期間中は、会場内での文化交流イベントや共同ワークショップを実施し、ブルキナファソの方々と直接交流できる場を設ける。伝統音楽やダンスなどの体験型プログラムを通じて、児童が異文化をより身近に感じられる機会を創出することで、相互理解を深めるだけでなく、国際的な視野を広げる契機となることを期待している。

さらに、これらの取り組みを単発のものにせず、地域社会全体で継続的な国際交流の仕組みとして定着させることを目指す。学校や保護者と連携し、多文化共生への意識を高める活動を推進することで、持続可能な国際交流の基盤を築いていきたい。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博閉会後は、万博で培った国際交流のネットワークを活かし、持続可能な交流を展開する。オンラインプラットフォームを活用した定期的な交流を行い、地理的な制約を超えて異文化交流を継続することにより、交流の機会をより広範囲に提供できると同時に、互いの文化を深く理解し合うための相互作用を促進する。また、現地文化を紹介するイベントを定期的に行い、地域住民や学校の生徒が実際に異文化を体験することで、直接的な理解を深めることを目指す。

さらに、ブルキナファソとの交流を教育カリキュラムに組み込み、次世代の国際感覚を育成する取り組みを進める。例えば、ブルキナファソとの実際の交流を通じて学んだ内容を授業で反映させることで、児童が異文化に対する理解をより深く持つことができるようになる。これにより、国際感覚を養い、将来のグローバル社会で活躍できる人材の育成につながるとともに、地域全体で多文化共生の意識を高めることが期待される。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

持続的な国際交流を推進するためには、オンライン交流の活用と事前学習の充実が効果的である。オンライン交流は地理的制約を超えた異文化理解の手段となり、学校や保護者が積極的に異文化に触れる機会を提供することで、地域全体の国際感覚を育むことができる。これにより、地域社会全体が国際的な視野を広げ、異なる価値観を尊重する姿勢を養うことが可能となる。

また、万博後も持続可能な交流の仕組みを確立することが重要であり、双方向の交流を促進し、学びの機会を提供することで、多文化共生への理解が深まる。これが次世代へ引き継がれる貴重なレガシーとなる。今後、地域社会全体で国際理解を広げるためのプラットフォームを構築し、継続的な交流の場を提供することで、国際的なネットワークのさらなる拡大が期待される。

(26) 広島県広島市

実施概要

交流相手国：カメルーン共和国

事業名：広島発 バウムクーヘンが紡ぐ 世界に広がる笑顔の輪

～広島市とカメルーン共和国都市をつなぐ交流事業～

目的・目標：「平和首長会議加盟都市」の拡大につなげるため、バウムクーヘン（広島市が我が国で発祥の地）関連のイベントに相手国関係者を招待し、市民向けの相手国文化・歴史紹介や交流を実施する。

実施内容①：第1回バウムクーヘンアレンジレシピコンテスト

実施日：令和6年11月30日～12月1日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：紙屋町シャレオ西通り「紙屋町スウィング」

交流の種類：②

上記の相手：星野ルネ、武内剛

参加人数：870

うち学生・生徒・児童：150

うち相手国参加者：2

交流概要：



バウムクーヘンのアレンジレシピを公募し、応募者がレシピに基づき製造した商品を会場限定で販売。売上実績と審査員審査を勘案し受賞作品を決定、会場にて表彰する。会場では、カメルーン出身の漫画家・星野ルネ氏とカメルーン人を父に持つお笑い芸人の武内剛氏をゲストとして招へいし、トークショーを実施。

実施内容②：バウムクーヘンを通じたカメルーン関係者と似島小・中学生との交流会

実施日：令和7年2月21日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：似島小学校体育館、ユーハイム似島歓迎交流センター

交流の種類：②

上記の相手：星野ルネ、ネビバンガ・エビナ、エルビス・エセメ

参加人数：186

うち地域住民：111

うち学生・生徒・児童：60

うち相手国参加者：3

交流概要：



日本におけるバウムクーヘン発祥の地である似島の小・中学校で学ぶ児童・生徒が、カメルーン・万博の関係者との交流を通じて地域の歴史と異文化交流の大切さを体感する取組として実施。

実施内容③：「バウムクーヘンの日」啓発イベント

実施日：令和7年2月22日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：アルパーク西棟 無印良品アルパーク

交流の種類：②

参加人数：92

うち地域住民：72

うち学生・生徒・児童：30

うち相手国参加者：4

交流概要：



3月4日の「バウムクーヘンの日」を大切な人にバウムクーヘンを贈る日と位置付け、日本におけるバウムクーヘンの発祥の地である広島から世界への贈り物として、大切な人と分かち合う平和な時間を過ごす文化を世界中に広めていくための取組として実施する。イベントでは、小学生及び保護者30組を公募し、小学生は保護者にプレゼントするバウムクーヘンとメッセージカードをつくるワークショップにカメルーン人とともに参加。その間、保護者は、カメルーンゲストのトークショーを聴講。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

本交流事業の実施により、広島市、特に似島が日本におけるバウムクーヘン発祥の地として認知され、今後の来島者増加が期待されるとともに、**地域の活性化や観光振興につながるもの**と受け止めている。また、ピエール・ゼング駐日カメルーン大使が松井広島市長を表敬訪問した際、大使からカメルーン訪問の提案があり、これが**カメルーンとの様々な交流の端緒となる**役割を果たしている。さらに、カメルーンの国民食「ンドレ」を活用した新しいバウムクーヘン作りに関して、市内の菓子事業者とゼング大使が意見交換を行い、試作品の開発に着手する予定であり、その進展により両国間の経済面での効果が期待できる。目標に掲げた数値目標については、イベントごとの参加者数を合計した延べ数ベースで達成された。

今後は、大阪万博での交流イベント開催に向けて、大阪万博の会場運営スタッフと顔の見える関係を構築し、カメルーン大使館の協力を得られることを確認している。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したことを記載してください。

カメルーンは、平和首長会議の加盟都市がアフリカで最も多く、アフリカ唯一の役員都市を輩出した国である。本事業を通じてカメルーンとの絆を深めることで、万博を契機としたレガシーとして、カメルーンとの交流が継続し、**広島市が目指すアフリカにおける平和首長会議の加盟都市拡大**が期待される。

また、カメルーン大使から広島市長に対して、首都ヤウンデと広島市との交流についての提案があり、今後、広島市の菓子事業者がカメルーンの国民食「ンドレ」を使ったバウムクーヘンを開発することを踏まえると、これらの動きが**両国の都市間のつながりを強化し、万博を契機とした経済的な交流へと発展することが期待される。**

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

今年度の事業実施に際して直面した課題として、日本人とカメルーン人のスピード感に明確な違いがある点が挙げられる。日本人相手の組織で期待されるレスポンスをカメルーン人組織に求めることは難しく、交流を進める中で、カメルーンとのやり取りにおいては、いつまでにどのような動きが必要かを明確にし、相手方から反応がない場合には、待つだけでなく、他のルートでの接触を試みる方法が有効であることを学んだ。

来年度は、9月16日の「カメルーンの日」に万博会場でカメルーンとの交流イベントを実施する予定であり、実現に向けて、本市がやりたいことと相手方の考えを早めにすり合わせ、合意点を明確にした上で、密に連携を取れるよう、今年度の交流事業を通じて培った信頼関係を維持・発展させていきたいと考えている。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

万博期間中、カメルーンとの交流における重点イベントとして、9月16日の「カメルーンの日」に、日本におけるバウムクーヘン発祥の地である似島の中学校の生徒が万博会場を訪問し、カメルーンの国民食「ンドレ」を使ったオリジナルバウムクーヘンを披露する予定である。このイベントは、「ンドレ」という名称のインパクトや、中学生の取組という点も加わり、多くのマスコミからの取材が予想されるため、広島のパウムクーヘン発祥地としてのPRの絶好の機会となると考えている。そのため、ブランディングの専門家の意見を取り入れながら、宣伝ツールなどの充実を図る方針である。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

・来年度以降は、万博国際交流プログラム内閣官房事業は終了するものの、本市として可能な範囲でカメルーン共和国との交流を継続していきたいと考えている。

・具体的には、平和首長会議加盟都市拡大に向けて、カメルーン国内での更なる加盟都市増を目指す中での交流は可能である。

・また、本交流事業の特徴として、民間団体である「広島バウムクーヘン振興協議会」が交流を主導したことが挙げられる。現在、同協議会の会員企業が「ンドレ」を使ったバウムクーヘンの試作に取り組んでおり、これが商品化された場合には、経済的な面での交流に発展することが期待できる。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

・ゼンゲ大使が広島市長を表敬訪問した際に強調していたのは、被爆 80 周年を迎える被爆都市としての広島の重要性と、二国間交流に際して人と人がつながる重要性、とりわけ、広島市のトップである市長がカメルーンを訪問することの意義であった。

・実際問題として広島市長がカメルーンを訪問するのは相当ハードルが高いと思われるが、平和首長会議を所管する広島平和文化センターの香川理事長は在エジプト大使を務めたこともあり、こうした人脈を活用しながらカメルーンとの持続的な交流の可能性を模索していきたいと考えている。

(27) 徳島県上勝町

実施概要

交流相手国：ナイジェリア連邦共和国

事業名：町の次世代を担う子ども達につなぐ産業や人の行き来を見据えたナイジェリア連邦共和国との交流事業

目的・目標：町民全員でナイジェリア連邦共和国を理解し、将来的に強いパートナーシップを築くきっかけとする。

実施内容①： 出前授業（SAF について）

実施日： 令和6年12月12日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：上勝町立上勝中学校 理科室及び多目的室

交流の種類：②

上記の相手：上勝町立上勝中学校

参加人数：43

うち地域住民：24

うち学生・生徒・児童：20

交流概要：



徳島空港を発着する日本航空の航空機は SAF(持続可能な航空燃料)利用を推進している。

グローバル社会において、航空機は必要不可欠であり、SAF について学ぶことで、ナイジェリアとの持続可能な国際交流の第一歩の取り組みとして啓発する。

実施内容②：出前授業（アフリカについて）

実施日：令和 7 年 1 月 24 日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：上勝町立上勝中学校 多目的室

交流の種類：②

上記の相手：上勝町立上勝中学校

参加人数：42

うち地域住民：26

うち学生・生徒・児童：23

交流概要：

上勝町の子どもたちに国際的視野を広げさせてグローバル人材へ育成する第一歩として、アフリカの概論を学び、上勝町が国際貢献できることを議論する。



実施内容③：ナイジェリア連邦共和国との交流イベント

実施日：令和 7 年 2 月 7 日～2 月 9 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：上勝町内

交流の種類：②

参加人数：39

うち地域住民：14

うち学生・生徒・児童：1

うち相手国参加者：11

交流概要：

上勝町とナイジェリアがそれぞれ抱える諸問題に対し、互いのリソースで補い合う課題解決交流を目指す。その始めとして将来のナイジェリアに貢献できる又はその意思のある人に上勝町の取り組みを体験していただく。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

万博を契機としたナイジェリア連邦共和国との新規の国際交流を開始するにあたり、
本町の未来を担う中学生へ2回の出前授業を通じて、**アフリカ地域及びナイジェリアに対する理解を深め、まずは次年度に万博会場で行う予定の交流イベントに向けた機運醸成**に寄与した。
交流イベント本番は、在日ナイジェリア関係者11名を招聘、町住民14名が参加し、本町の社会課題解決に向けた取り組みと一緒に視察・体験し、意見交換を行った。
ナイジェリア側には上勝町を認知し、本国が抱える環境・食・ゴミ問題等の諸課題に対して、上勝町が持つリソースをどのように活かすことができるかを考える経験となった。また、**上勝町としてはナイジェリア関係者からのフィードバックを基に、いかにして国際貢献できるかを考える経験**となった。今年度は将来的な課題解決のパートナーシップを育む第一歩であり、これらの取り組みを毎年重ねていく中で、ナイジェリアからの関係人口を徐々に構築していく。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

上勝町では、**海外から毎年多くの視察団の受入対応をしているが、ナイジェリア連邦共和国をはじめアフリカ地域からの訪問団を迎え入れるのは初めて**取り組みで、本町の社会課題の解決に向けた取り組みをナイジェリアの方々に視察・体験していただき、町住民と意見交換をすることで、相互的な知識の交流を行った。

本町は決して世界的な知名度が高いと言えない状況であるが、万博が開催される大阪・関西と近接しているため、万博をこれまで交流がなかった国（ナイジェリア）と互いの課題を解決するための国際交流を本格化する契機としたい。

そのため、子どもたちにアフリカ（ナイジェリア）について啓発できたことと、実際にナイジェリアの訪問団を受入したことが、今後の相互交流の足がかりとなるものとする。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

当初はナイジェリア大使館の関係者の招聘を想定していたが、交流日程等をコミットする回答を得ることが困難で折り合いがつかなかったため、最終的に「将来のナイジェリアに貢献できる又はその意思のある人」という条件で、在日ナイジェリア人を募集し、集まったのは留学生（博士課程中心）やその卒業生だった。

彼らの興味関心や学習意欲は高く、上勝町の取り組みを良く理解し、ナイジェリアの将来に役立ててくれるものと考えているが、公的機関の保証がないため、あくまで個人間やその周囲との交流に止まるのではないかと懸念している。

継続的な交流を行うためには、やはり国や自治体などとの接触が不可欠と考え、本町や民間に限らず、さらに上位組織（国や徳島県）の交渉ルートを頼る必要がある。

そのため、上勝町の国際交流に対する取り組みを徳島県等にも理解していただき、協力関係を構築していく。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

6月25日に予定されている EXPO ナショナルデー（ナイジェリア）に合わせ、ナイジェリアパビリオン関係者や今年度の招聘者を上勝町に招き、上勝中学校との交流を実施する。

この交流では、中学校の生徒に対し、ナイジェリアパビリオンの展示内容やその背景にある想いを伝えるとともに、ナイジェリアパビリオン関係者に対して、上勝町の文化や SDGs の取り組みを紹介する。さらに、**中学校の生徒たちは万博期間中にナイジェリアパビリオンを訪問し、実際に展示を体感する機会を得る。**

これらの取り組みを踏まえ、大阪・関西万博最終日の10月13日には、徳島県が確保している関西パビリオン多目的エリアにおいて、中学校の生徒とナイジェリアパビリオン関係者が、これまでの交流実績やお互いの魅力を万博来場者に発信する交流活動を実施する。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

本町内で SDGs 活動等に取り組む団体等がナイジェリアを訪問し、ゼロ・ウェイストや KINOF などの取り組みをナイジェリア国内へ広く紹介することで、**上勝町の取り組みに対して興味・関心を持**

つ方々を創出し、大阪・関西万博以降のナイジェリアから上勝町への継続的な視察実現へと繋げる。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

ビジネスや人的交流が始まるには時間がかかると予想されるため、**上勝町を担う次世代には、子どもの頃からナイジェリアとの交流が当たり前の状態を作り出す**必要がある。そのための第一歩として、**上勝町の子どもたちと現地ナイジェリアの子どもたちとのオンライン交流**を開始する。

さらに、**持続的な国際交流には在日ナイジェリア人との交流も重要**であると考え、**今回の招聘メンバーをはじめ、在日ナイジェリア人コミュニティとの継続的な交流を進める**。相互理解を深めるためのイベントを創出し、その交流を続けることによって、将来的には相互の渡航交流につなげていくことを目指す。

（２８）徳島県松茂町

実施概要

交流相手国：ガーナ共和国

事業名：未来をつなぐ：松茂町とガーナの STEAM 教育とゴミアート交流プロジェクト

目的・目標：ごみアートを用いた環境教育、文化交流と相互理解の促進、STEAM 教育の推進

実施内容①： マツシゲート学園祭「万博国際交流プロジェクトガーナと交流」

実施日： 2024 年 11 月 2 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：マツシゲート

交流の種類：②

上記の相手：ガーナ共和国

参加人数：1080

うち地域住民：878

うち学生・生徒・児童：500

うち相手国参加者：2

交流概要：

アートのみならず音楽や踊り、食や衣装などを含めた文化交流のイベントを通じて、松茂町とガーナの文化、伝統、価値観の共有を促進する。ガーナ出身者及び松茂町民が、互いの文化を紹介しあう。

そのために松茂町ではマツシゲート学園祭を企画し、その中でガーナ文化の紹介を行う。

駐日ガーナ大使館から開会式でご挨拶いただき、今後の交流への意識を高める。



実施内容②：ガーナと交流しよう！

実施日：2024 年 9 月 21 日

2024 年 10 月 13 日

2024 年 10 月 20 日

2024 年 10 月 27 日

2024 年 12 月 1 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：マツシゲート

交流の種類：①②

参加人数：20

うち学生・生徒・児童：12

交流概要：

第 1 回～第 4 回でアイデアを出し合い、11 月 2 日（土）にマツシゲート学園祭でその成果を発表・商品販売・ワークショップなどを実施する。



実施内容③：ガーナ渡航

実施日：2025 年 1 月 14 日～2025 年 1 月 19 日

交流種別：海外渡航

実施場所：株式会社 steAm から STEAM 教育専門家を含め 4 名がガーナ首都アクラを訪問し、駐日ガーナ大使館、在ガーナ日本大使館、JICA ガーナの協力のもと、ガーナ政府、現地の学校訪問やスラム街等の視察、松茂町住民とのオンライン交流を行った。

交流の種類：①②

参加人数：179

うち地域住民：5

うち学生・生徒・児童：50

うち相手国参加者：100

交流概要：

株式会社 steAm から STEAM 教育専門家を含め 4 名がガーナ首都アクラを訪問し、駐日ガーナ大使館、在ガーナ日本大使館、JICA ガーナの協力のもと、ガーナ政府、現地の学校訪問やスラム街等の視察、松茂町住民とのオンライン交流を行った。



実施内容④： ガーナ首都アクラ在住者来日

実施日： 2025 年 1 月 22 日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：マツシゲート

交流の種類：①②

参加人数：90

うち地域住民：80

うち学生・生徒・児童：60

うち相手国参加者：3

交流概要：

ガーナ共和国アクラのスラム街、アグボグブロシーから男性 2 名、男児 1 名（10 歳程度）が来日し、中島さち子プロデューサー率いる KURAGE Band とともに、町内の小学校を訪問し児童らとの交流を行った。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

本事業により、松茂町にガーナについて活動するグループが創設され、大阪・関西万博に向けた住民の関心を高めることができた。オンラインで駐日ガーナ大使館と協議を行い、ガーナ渡航を契機に現地の学校と連携を築くことができた。マツシゲート学園祭では、住民が異文化に触れ、多文化共生への理解が深まった。ガーナ大使館や日本のガーナ親子が参加し、ガーナを身近に感じる機会が提供された。ガーナ渡航では、ICT 教育の課題確認や日本文化を体験するワークショップが行われ、今後の国際交流活動の基盤が築かれた。ガーナ人 3 名の来町時には、小学校でジャンベ演奏やガーナの雇用創出活動が紹介され、万博への期待が高まった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

・青少年の国際交流と教育の機会の拡大

マツシゲート学園祭でその成果を発表・商品販売・ワークショップなどを実施する等、町民を巻き込んだグループワークを実施したことで、将来的なリーダーの育成に貢献する一歩となった。

・持続可能な開発への貢献

廃棄物の再利用を促進し、ごみの問題に対する意識を高めるために、ごみアート制作ワークショップを開催することで、町内の環境保護の意識をさらに高めた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

駐日ガーナ大使館とのオンライン連絡を早期に開始したが、政権交代により体制変更があり、現地の状況把握に時間がかかった。JICA ガーナや在ガーナ日本大使館も同様の状況で、ガーナ政府本国との連携には時間が必要だった。現地訪問を通じて、ガーナ政府本国とのつながりを築き、担当者との連絡先も確保できた。駐日ガーナ大使の協力により、今後学校間交流を迅速に進める見通しが立った。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

下記に向けた学校間、地域交流：

大阪・関西万博ガーナ・ナショナルデー（9/11）でのコラボレーション

大阪・関西万博「遊びと学び」テーマウィークでのコラボレーション

大阪・関西万博シグネチャーイベント「世界遊び・学びサミット」でのコラボレーション

大阪・関西万博最終日徳島館でのコラボレーション

・来年度以降の取り組み・交流への展望

継続的な、STEAM、SDGs を軸とした学校（児童・生徒間、教員）交流

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

・現地訪問を行い、現地の政府機関とつながりを持つことの重要性

駐日ガーナ大使館と連携を取りながら、事業を推進している担当者が現地に訪問したことで、今後の継続的な交流が可能になった。

・現地と繋がり深い連携事業者の重要性

日本とガーナの関係性の象徴として、MAGO CREATIONS の活動がガーナ本国で認められており、事業としての信頼性の確保につながった、

(29) 愛媛県

実施概要

交流相手国：モザンビーク共和国

事業名：愛媛・モザンビーク万博国際交流事業

目的・目標：愛媛県として、労働人口の減少に伴い、外国人材が地域経済の担い手として期待されている。外国人在の受入環境整備に向けて、県民一人ひとりが広い視点と地球市民としての自覚を持ち、国際理解の増進に努める必要があるほか、教育現場では、グローバルな問題に関心を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成することが求められる。世界中から多様な文化背景を持つ人々が日本に集まる万博を契機に、次代の国際人としての教養を身に付け、国際社会において活躍する国際人材の輩出を目指す。

実施内容①：万博国際交流フォーラム（基調講演、パネルディスカッション、団体活動発表、音楽アトラクション）

実施日：令和7年1月26日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：コムズ（松山市男女共同参画推進センター）

交流の種類：①②③

上記の相手：モザンビーク共和国陳列区域代表、県内在住モザンビーク人、万博協会

参加人数：80

うち学生・生徒・児童：40

うち相手国参加者：4

交流概要：

モザンビーク側万博関係者や日本側万博関係者を本県に招き、万博の機運醸成やモザンビークへの理解促進を目的とした講演やパネルディスカッション



ションのほか、同国との交流団体等による活動発表や活動紹介パネルの展示、現地楽器ティンビラによる音楽アトラクションを行った。

実施内容②：サイドイベント（文化・食体験）カプラナ布試着、料理教室

実施日：令和7年1月26日

交流種別：イベント・催し(国内)

実施場所：コムズ（松山市男女共同参画推進センター）

交流の種類：①②③

上記の相手：モザンビーク共和国陳列地区代表、国内在住モザンビーク人

参加人数：25

うち地域住民：21

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：4

交流概要：

カプラナ布の試着等文化体験及び、県内在住モザンビーク人のペロニカ A.A.フェルナンド氏による料理教室を実施した。



実施内容③：

サイドイベント（展示）武器アート等展示 ①新居浜市、伊予市 ②宇和島市 ③松山市

実施日：①令和7年1/21～1/30

②令和7年2/14～2/20

③令和7年2/17～2/20

交流種別：その他

実施場所：新居浜市、伊予市、宇和島市、松山市

交流概要：

モザンビークや万博への関心を高めるとともに国際理解及び国際交流の促進を図ることを目的に、武器アートや国際交流団体の活動内容等に関するパネルの展示を実施した。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

モザンビーク共和国との交流活動を行った中高校生に、モザンビーク共和国関係者や国際交流に関心を持つ県民を前にして、その活動内容の発表や活動パネルを展示する機会を提供したことは大きな成果であると評価される。**次代を担う若い世代がこうした経験を通じて、国際社会が抱える課題や多文化共生社会への関心を高め、将来、愛媛の国際化を後押しする原動力となることが期待されている。**

アンケート結果では、モザンビークへの理解が進んだと答えた人が96%、国際理解の向上に役立ったと答えた人が93%、2025 大阪関西万博に行ってみたいと答えた人が98%に達しており、期待していた成果が現れたと考えられる。

イベント内容としては、モザンビーク共和国陳列区域代表等による来賓挨拶やパビリオン紹介、基調講演、パネルディスカッション、中高生や関係団体の活動発表、現地楽器ティンビラによるミニコンサート、会場全体での合唱などがあり、貴重かつ多彩で終盤には盛り上がる催しとなり、会場全体に一体感を生み出し、高いイベント満足度に繋がったと考えられる。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

・青少年の国際交流と教育の機会の拡大

→外国人材の受け入れ環境整備においては、県民一人ひとりが広い視点と地球市民としての自覚を持ち、国際理解の増進に努める必要がある。国際理解の促進のために、若いうちから多様な文化と触れ合う機会を提供することで、次世代の架け橋となるような人材輩出に寄与する。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

県民参加型でのイベント実施の場合、早めの事前広報が重要であるが、文化的な違いや相手国の事情もあり、参加者やイベント内容を早めに確定することが出来ず、広報が遅れる結果となった。変更の可能性を見越した内容での広報や、イベント内容についても代替しやすいプログラムを

予定するなど、あらかじめ対策を講じておくことがスムーズなイベント実施において重要であると感じた。

・来年度以降の取り組みや万博会場内での交流への展望

モザンビーク共和国のパビリオンに関する具体的なイベントスケジュールが未定であり、同国側が対応可能な交流内容についても具体的な打合せができていない状況ではあるが、R 6 年度事業を通じて、モザンビーク側の万博関係者 3 名（リドウアン・イスマエル・アダモ氏、ソジーニョ・アルナルド・ボアネ氏、ラーセン氏）や、四国グローバルネットワーク代表の仲立ちにより、来日中のティンビラ演奏者マチュメ・ザンゴ氏とのコネクションを確立した。R 6 年度事業で確立したコネクションを利用して、万博会場内で何かしらの交流を実施したいと考える。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

来年度の万博閉会後の事業では、多様なコネクションを活用し、モザンビーク共和国からスポーツ選手や芸術家を招請して、県内の学校を訪問しての交流を予定している。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

今後も NGO 等を主体とする民間交流をベースに、前回のオリパラや今回の万博などのような機会を捉えて、両地域の民間交流の拡大・深化に向けた新たな展開を、行政が支援する取り組みを続けて行きたいと考えている。

（３０）高知県本山町・土佐町

実施概要

＊北海道大空町と連携して実施

交流相手国：セーシェル共和国

事業名：大空町×本山町・土佐町「セーシェル共和国」教育交流事業

目的・目標：教育や人材育成をベースとした海外との交流を積極的に行うことで、地域の若年層にグローバル人材を育み、外国人が訪問しやすい地域体制の整備を進めるための教育交流を行うこと。セーシェル共和国と北海道・大空町と高知県本山町・土佐町はともに観光産業が盛んであり、訪問により観光業を中心とする現地の産業構造に関する調査等を目的とした交流を行い共通理解を深めるための交流を行うこと。

実施内容①：現地視察・交流(学校訪問等)

実施日：令和７年１月２１日～１月２６日

交流種別：海外渡航

交流の種類：②

（現地教育省、Anse Royale Secondary school、English River Secondary School）

参加人数：約 70 人

交流概要：現地教育省による紹介を通じ、公立中等教育学校 2 校（English River Secondary School / Anse Royale Secondary School ）を訪問した。また日本大使館協力の下、Inter National School を訪問、日本語教育を行う個人と面会し継続的な交流を見据えた意見交換を行った。



実施内容②：現地視察・交流（官庁訪問）

実施日：令和7年1月24日

交流種別：海外渡航

実施場所：各省庁オフィス

交流の類型：①（セーシェル共和国教育省並びに同観光庁）

参加人数：約 25 人

交流概要：

上記団体を訪問し、大阪万博のPRを行った他、教育省においては日本の教育政策、大空高校・嶺北高校のPRを、観光庁においては北海道と高知県の持続可能な観光施策についての発表を行うとともに、同庁より同国の観光政策についての基本的なレクチャーを受け、意見交換を行った。



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 （地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

【官庁での意見交換】

－ **教育省** 教育次官以下、同国の教育政策担当者に対し、万博のコンセプトや注目展示について日本の高校生がプレゼンテーションを行い、大きな関心を得ることができた。**会期中の生徒および関係者の訪日についても、教育省を通じて募集や手配を行う用意があることが確認され、今後の更なる交流の実現が期待される。**また、将来的な留学生の受け入れに向けて、日本の教育政策や高知県嶺北高校の紹介も行われた。

－ **観光庁** 観光地計画・開発局長以下、観光政策担当者に向け、万博のコンセプトや注目展

示について日本の高校生がプレゼンテーションを行い、関心を引き起こした。会期中には同国ナショナルデーおよびパビリオンへの同国生徒の招待や、運営協力の提案についても好意的に受け止められた。また、持続可能なツーリズムの考え方に関する同庁の基本政策についてレクチャーを受け、その後の意見交換を通じて派遣した高校生たちが万博に対してより体系的な理解を深めることができた。

【中高生の交流機会創出による効用】

実施概要に基づき、計 3 校および国立文化芸術協会（NCAA）で同国の中高生約 100 名との交流が行われた。交流を通じて同国の文化や芸術について深い学びを得るとともに、日本の文化への現地中高生の高い関心を実感し、多くの生徒が日本への渡航希望を表明するなど、今後の関係構築に向けて期待が高まる結果となった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

青少年の国際交流と教育の機会の拡大

持続可能な開発への貢献

訪問国の教育省および観光庁で PR プレゼンテーションを実施するにあたり、使節である高校生を対象に、万博への理解を深めるための事前学習を複数回実施した。大空高校の紹介を受け、経済産業省北海道経済産業局より説明の機会を得たほか、JICA 高知デスクと連携し、持続可能な開発をテーマとした同国の紹介を行った。これにより、万博そのものだけでなく、万博のコンセプトに関連した学びを深めることができた。

こうした取り組みを端緒とし、現地訪問では「持続可能なツーリズム」の視点から同国の観光施策を概観した。さらに、観光庁やその他訪問先での意見交換を通じ、本町の観光施策にも活かせる知見を得ることができた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

教育省並びに学校の訪問においては、次官への表敬訪問（大臣表敬を予定も急用により次官が対応）その他の実現になんとかつながったものの、当初昨年 10 月ごろ打診していた本件について、12 月末時点で同省より明確な返答を得られず、**現地での行程の調整に苦慮した。在セーシェル日本大使館の協力により、年明け以降も継続的なやり取りと交渉を重ね、旅程の確定につながった。**

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

万博会期中に同国より中高生と関係者計 10 名程度を招聘し、万博会場の来訪はもとより、本山町・土佐町並びに、今回協働して事業を実施した大空町含め両自治体、両高校をめぐる交流企画を検討している。

先方教育省を通じ参加生徒の募集を図り、また観光庁の協力も得ながら万博での同国パビリオンでの何らかのプロジェクト実施も検討していく。

また、並行して R.7 年度中または、R.8 年度の短期留学受入についても、在セーシェル日本大使館、同国教育省、現地在住日本語指導者等との連携を図り模索していく。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

セーシールの高校生を短期留学生 1 名を受け入れたいと考えている。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

R.8 年度以降にセーシェル共和国からの留学生受け入れを検討しており、現地滞在中には、文化交流と並行して、各訪問先で留学構想の説明と実現に向けた可能性について協議を行ってきた。R.7 年度の事業においても、万博を契機とした国際交流の推進に加え、将来の留学実現に向け、日本への留学を希望する生徒や同国の教育関係者に、日本や地域で学ぶ意義と目的を十分に伝える機会を設計する予定である。

具体的には、嶺北や大空地域の学校および寄宿舍等の文教施設の紹介や、両校生徒とともに取り組む地域での探究的な学びのトライアルなど、充実した内容を提供する予定である。同国との持続的な関係性を構築し、産学を含む他分野での継続的な交流を実現するために、R.6 年度事業

終了後も、在セーシェル日本大使館や現地教育省、その他関係各所と連携しながら、留学事業のスキームを構築していく。

（３１）大分県杵築市

実施概要

交流相手国：ジンバブエ・ブルンジ

事業名：万博国際交流プログラムにおける杵築市での調査事業/ジンバブエ・ブルンジと杵築市の万博国際交流事業

目的・目標：大阪・関西万博を契機として、世界に貢献してきた坪井さんの活躍を知ってもらうこと。杵築市の子どもたちに未来を感じてもらい、新しい農業人交流を促す。

実施内容①：坪井さんとウスビ・サコ先生による杵築市内３中学校訪問

実施日：2024年12月12日、13日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：杵築市内３中学校

交流の種類：①③

参加人数：200

うち学生・生徒・児童：200

交流概要：

杵築市内のすべての中学校（３校）を訪問し、ウスビ・サコ先生の講演と坪井さんによる講演及び交流会を実施。



実施内容②：坪井さんとADNJによる杵築市内８小学校訪問

実施日：2025年1月15日、23日、24日、30日、31日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：杵築市内８小学校

交流の種類：②

上記の相手：杵築市内８小学校

参加人数：500

うち地域住民：500

うち学生・生徒・児童：500

うち相手国参加者：80

交流概要：

杵築市内のすべての小学校（8校）を訪問し、

坪井さんによる講演及び在日ブルンジ・ジンバブエの方との交流会を実施。



実施内容③：ジンバブエ大使による杵築市・小学校、市役所、議会、農業施設、坪井さん宅訪問

実施日：2025年2月9日、10日、11日

交流種別：大使館訪問

実施場所：杵築市内

交流の種類：①②

参加人数：200

うち地域住民：120

うち学生・生徒・児童：80

うち相手国参加者：3

交流概要：

ジンバブエ大使、経済参事官、観光参事官が参加し、杵築市長との懇談や、市役所幹部との話、議会、坪井さん宅訪問、小学校訪問、農業施設訪問など積極的に交流した。



実施内容④：ウスビ・サコ先生による政経懇談会参加

実施日：2025年2月12日

交流種別：講演・出前授業

実施場所：若栄屋

交流の種類：①③

上記の相手： 杵築市政経懇談会

参加人数：60

うち地域住民：50

交流概要：杵築市の政財界の皆様の集まりにてウスビ・サコ先生にご講演いただいた。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 (地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

次代を担う杵築市の小中学生全員に万博国際交流を感じてもらうことができた。

各校からも感謝の声が届いており、一番の課題である子どもたちの国際感覚の育成に大いにつながった。杵築市出身の坪井さんが、アフリカに貢献し、立派な活動をしてこられたことを杵築の子どもたちが知ったことで、**子供たちの杵築市に対するシビックプライドを育むきっかけになった**と考える。

ウスビ・サコ先生による出前事業は、万博の機運醸成について大いに貢献し、小学校でのダンスを通じた文化交流は、子どもたちが世界に対する興味を持ってもらえるいい機会になった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

持続可能な開発への貢献

ジンバブエ大使に杵築市に訪問していただく等、関係者同士のコネクションができたため、今後も農業交流等、持続可能な未来を共に築く取り組みが進み、世界が抱える食糧問題への共同アプローチが可能になることが期待される。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

ジンバブエ大使が杵築市に訪問した際に、協定を結ぶ等の話もあがったので、来年の TICAD で大統領が来日された際に面談を検討中。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

万博開催期間中のブルンジとジンバブエのナショナルデーに杵築市も参加できるように調整中。

ジンバブエの万博会場内のパビリオンにてネリカ米を植えて半年かけて栽培することが決定。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

ジンバブエ大使の杵築市訪問の際に協定を結ぶなどの話もあり、TICAD で大統領が来日されるときに面談を検討中。

今回の取り組みは坪井さんというキーパーソンを軸に、継続した取り組みとして、市民レベルの交流を引っ張るリーダーも育成し、持続できる取り組みにしていくことを検討中。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

本年築くことができた関係性を深めていき、杵築市の持続可能な取り組みを起こしたい。

市役所主導から次年度に市民の活動として万博を契機に盛り上げ、継続的な活動ができるように支援。立命館アジア太平洋大学が近くにあるというメリットも生かしまして、持続可能な交流を目指す。

(32) 宮崎県えびの市

実施概要

＊山形県遊佐町と連携して実施

交流相手国：マダガスカル共和国

事業名：世界越境プログラム・みらいハイスクール構想

目的・目標：えびの市とマダガスカル共和国の定期交流につなげ、短期的に地域の高校生のグローバル人材としての育成、現地の日本語教育レベルの把握、日本への関心度調査を行う。中長期的にはえびの市への来訪者増加、関係人口増加、留学生受け入れによる人材確保等を期待する。

実施内容①： 現地キーパーソンであるラクトマナナ先生と顔合わせ兼現地の高校生との交流についてオンライン打合せ

実施日：令和6年 11月12日（火）

交流概要：

えびの市・遊佐町の派遣チームがマダガスカル共和国に渡航するにあたり、プログラム概要の説明や現地の中等教育施設で訪問可能な場所はあるかを聞き取り。

また、ラクトマナナ先生のこの事業に対するマダガスカル側の所見をいただく。

実施内容②：現地高校生との交流会議

実施日：令和6年 12月7日（土）

交流種別：その他

実施場所：オンライン

交流の種類：②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ナニサナ高校・ジュールフェリー高校

参加人数：50

交流概要：

マダガスカル参加者：現地で交流する大学生、高校 2 校の生徒、担当教員

日本側参加者：飯野高校生 2 名、遊佐高校生 3 名、大人 5 名

交流前の顔合わせと交流内容の確認及び日本についての興味関心の聞き取りを行った。

実施内容③： 遊佐高校生と飯野高校生の現地交流会準備

実施日： 令和 6 年 12 月 9 日（月）－12 月 20 日（金）

交流種別：その他

上記の相手：宮崎県立飯野高等学校・山形県立遊佐高等学校

交流概要：

マダガスカル渡航に向けて、派遣チームの顔合わせ及び交流会で何をするかを確認する。

内容確定後、それぞれが担当する準備を分担。今後は高校生が中心となって活動していくことのマインドセットを行った。

実施内容④： えびの市長訪問

実施日： 令和 6 年 12 月 19 日（木）

交流種別：その他

実施場所：えびの市役所

参加人数：11

交流概要：

今回の事業申請を行ったえびの市と実際に渡航する高校生がえびの市長、えびの市教育長、企画課長に対して出国前の挨拶を行った。

実施内容⑤：マダガスカル渡航

実施日：令和6年12月24日－12月31日

交流種別：海外渡航

実施場所：アンタナナリボ大学・ジュールフェリー高校

・ナニサナ高校・生徒自宅・ラクトマナナ先生自宅

交流の種類：①②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ジュールフェリー高校・ナニサナ高校

参加人数：40

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：30

交流概要：マダガスカル現地で現地の高校生や大学生との交流を行った。



実施内容⑥：マダガスカル交流の振り返り

実施日：1月22日

交流種別：その他

実施場所：オンライン

交流の種類：②

上記の相手：アンタナナリボ大学・ナニサナ高校・ジュールフェリー高校

参加人数：45

うち地域住民：10

うち学生・生徒・児童：5

うち相手国参加者：35

交流概要：

マダガスカル交流の振り返りと万博への招待。万博会場で何をするかの議題投げかけなど



実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 (地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

今回の交流を通して、**生徒たちの価値観やキャリアの選択肢が広がった**と感じている。特にアフリカ諸国やマダガスカルならではの貴重な経験を得たと思う。彼らは異なる地域や文化での生活を実際に体感し、日本国内の都市との違いや、ショッキングでありながらもポジティブな発見をした。

さらに、マダガスカルの方々に受け入れられたことを通じて、「次は自分たちがマダガスカルの方々を歓迎する時、喜ばれる迎え方」を学んだ。この経験は、**海外のゲストに限らず、地域に訪れるゲストを迎える際にも役立つ「ファンになってもらう感覚」を掴むことができた**と感じている。

えびの市では、市長の SNS 告知により話題になり、マダガスカルという国名への認知が高まり、万博の認知度も同時に向上した。グローバルな祭典が国際交流を加速させることを再認識できた瞬間であった。飯野高校では、マダガスカルという遠い国との交流が身近なものとして受け入れられ、生徒や教職員の価値観にも変化が見られた。国際交流＝越境自体も生徒、教職員にとって身近なものになり、高校全体に外からの学びを取り入れようとする姿勢を後押しするきっかけになった。

マダガスカルの日本語を学ぶ生徒や教員にとっても、日本の高校生との交流は刺激的であり、彼らは初めて若い日本人と出会う機会に喜びを感じていた。特に、「日本に行きたいですか？」という質

問に対し、現地の高校生全員が「Yes」と答えるほど、日本との交流が大きな影響を与えたことがわかった。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

青少年の国際交流と教育の機会の拡大

万博をきっかけに日本を知ってもらい、えびの市・遊佐町へ将来的な留学誘致に繋げていくことを目指した。高校生目線で日本を知ってほしいという思いを体現化できた。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

「本プログラムで交流を行なった公立高校に通う生徒の中には経済的な支援がなく日本へ渡航したり、遊佐町やえびの市で留学ができる生徒は居ない。」という返答をラク先生からいただいた。

2025 年の万博に中高生を呼び、その生徒の中から日本の地域に越境するマダガスカル人を募りたかったですが、経済環境を整えることが課題。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

【マダガスカルの中高生等を大阪万博へ招待】

2025 年 7 月 24 日～27 日のいずれかの日程で、大阪万博へマダガスカルから日本語を学び且つ日本に留学したいと考えている中学生・高校生・大学生・20 代教員・ラク先生・私立中学校校長を招待する予定です。

【マダガスカルの中高生等を遊佐町・えびの市へ招待】

上記の大阪万博の開催の前後どちらかで、マダガスカルの渡航メンバーを 2 つに分け遊佐町とえびの市で留学体験をしていただきます。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

①マダガスカルの中高校生の短期留学プログラムの実現

- ②マダガスカル私立中学校での日本語学習強化と派遣に関する各種手続きを進める
- ③大学生や日本語教員の3～5年のグローバルコーディネーターとして採用するための準備

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

日本のサブカルチャーや音楽が若者に広く浸透しているため、オンラインを中心にそのテーマで交流を続けることが可能であると考えている。オンライン交流を継続し、アンタナナリボ大学の学生との交流を通じて、日本での仕事や生活を選択肢として提案していく予定である。

将来的に、えびの市や遊佐町への短期・長期留学を実現するためには、高校の授業についていける語学力、留学資金（日本からの奨学金など）、留学後のキャリアイメージが重要だと考えている。学生間の交流を続け、現地のキーパーソンであるラクトマナナ先生や日本語レベルの高いアンタナリボ大学のAnnyと連携し、日本への留学や就職について意見交換を行っていく。最初は、えびの市や遊佐町で「こんなことができる」と憧れるような事例を作ることを目指している。

(3 3) 鹿児島県三島村

実施概要

交流相手国：ギニア共和国

事業名：大阪・関西万博を契機としたギニアとのジャンベ交流促進事業

目的・目標：

ジャンベ交流を核とした関係人口の増加、村内のジャンベ振興、特徴的な取り組みによる認知度向上および離島留学や移住における魅力向上。

実施内容①：万博担当者との面談

実施日：令和6年6月27-28日

交流種別：その他

実施場所：ホテル日航奈良

交流の種類：①②

上記の相手：Mme.Yolande Chaloub COLLE ほか

交流概要：

万博 IPM の為に来日していたギニアの万博チームと面談し、万博期間中のギニアナショナルデーにおける交流計画の打ち合わせを行った。



実施内容②：ギニアナショナルデー交流の準備

実施日：令和6年6月27日-28日

交流種別：大使館訪問

実施場所：ギニア大使館

交流の種類：①②

上記の相手：在日ギニア大使 Moussa Fanta CAMARA

交流概要：大使赴任後初めて本村から大使を表敬訪問した。



実施内容③： ジャンベワークショップ開催

実施日： 令和 6 年 11 月 16 日－17 日

交流種別： イベント・催し(国内)

実施場所： みしまジャンバスクール

交流の種類： ②

上記の相手： バー・ヨナン

参加人数： 10

うち地域住民： 8

うち相手国参加者： 2



交流概要： ジャンベ講師であるバー・ヨナン氏を招いてジャンベワークショップを開催した。

実施内容④： ギニアナショナルデー交流の準備（児童生徒のジャンベ指導）

実施日： 令和 6 年 9 月 1 日－1 月 30 日

交流種別： その他

実施場所： 村内各学園

交流の種類： ②

上記の相手： 講師ケイタセク

参加人数： 70

うち地域住民： 70

うち学生・生徒・児童： 70

うち相手国参加者： 1

交流概要： 万博本番ギニアナショナルデーに向けて、当日プログラムである演奏の練習を行った。

実施内容⑤： 両大使の視察・交流及びジャンベワークショップ

実施日： 令和 7 年 2 月 11 日

交流種別： イベント・催し(国内)

実施場所： 三島村役場、ホテル福丸、みしまジャンバスクール

交流の種類：①②

上記の相手：在日ギニア大使、在日ギニア大使

参加人数：46

うち地域住民：37

うち学生・生徒・児童：12

うち相手国参加者：2

交流概要：

在日ギニア大使及び在ギニア日本大使による現地視察を計画したが、悪天候により、役場所在地である鹿児島市にて説明及びオンラインでの交流見学を行った。また同時に、在日ギニア人によるジャンベワークショップを開催した。

実施内容⑥：ギニアナショナルデー交流の準備（ギニア視察）

実施日：令和7年2月16日－27日

交流種別：海外渡航

実施場所：ギニア・コナクリ市内

交流の種類：①②

上記の相手：ギニア文化工芸観光庁 AGUIPEX ジョリバ国立バレエ団ほか

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果

（地域内への波及効果や相手国への波及効果含む）

ジャンベワークショップ開催においては、実際にギニア人から直接習える機会が島でできたことで多くの島民が参加し（120名の人口において37名が参加）、**村内でのジャンベ振興は大幅に推進**された。交流人口という意味では、地理的な条件から村外からの参加者は限定的であったが、本村ではジャンベ留学という半年間の研修制度やしおかぜ留学という里親制度を実施しており、こちらへの反響という形で村外への波及は一定程度確認されている。短期のイベントでは欠航リスクなどが大

きくなり、短期的な交流人口は創出されにくい、長期の滞在という形で受け入れを進めることで長期的なジャンベ振興の効果を享受できている。

万博に向けた準備という意味では、奈良での打ち合わせ、コナクリでへの訪問などによって着実に関係を築くことができた。特にコナクリ訪問では担当大臣に挨拶もでき、大使館のレセプションでも三島村とギニアの交流年表を掲示していただくなど、ギニアにおける三島村の認知を拡大し、将来的なギニアとの交流へのしっかりとした足がかりを作ることができた。

また、児童生徒は万博本番に向けて長期にわたり練習を行ったことで万博への意欲が十分に高まっている。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

ギニア大使、在ギニア日本大使は前任者は2代に渡って本村を訪問して頂いているが、コロナ禍以降に着任した両名にはお会いできていなかった。今回万博交流を機に両大使館と交流を再開できたことは今後の交流の発展のために大きく寄与したと考える。

国内においてはやはり認知拡大からの村への人の流入が大きな目標となる。流入の為の施策についてはまだ課題が残るが、まずは特色ある地域づくりとして認知拡大へ一定程度寄与したと思われる。以前のホストタウン交流のレガシーとして、ジャンベの取り組みが三島村立硫黄島学園のみから村内の4校すべてに広がった。そして今回は、来年の万博交流へ向けて引き続き4校において、小学4年生から中学3年生までが練習を行った。以前は中学生以上であった取り組みを小学生まで広げたことで、今後はより継続的・発展的なジャンベの取り組みができるようになる。

ギニア国内においては、実際に訪問して関係を構築できたことで今後の交流の発展に大いに寄与すると考える。今回大使館のご協力で三島村とギニアの交流年表が仏語化され展示されたことも、ギニアでの認知拡大に大いに役に立ったし、今後も活用できる。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった）

今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

本年度の活動はそれなりにメディアへの取り上げもあったが、鹿児島県で唯一の登録自治体であるというほどのインパクトはなかった。すでに認知や興味のある方々以外に広く認知してもらう

ための**広報活動の改善**が必要だと考える。来年度の万博本番では 53 人という大勢の子どもによる演奏でインパクトある活動となるのでこれを活かしたい。

イベントに関しては、島民のイベント参加が多かったことから村の魅力が高まっていることがわかるが、**村外からの参加には依然としてハードルが高い**。離島であることから船便の少なさや天候によって日程の確保や実施の判断が難しいため、両大使の訪問もかなわず鹿児島市開催となった。今後イベント等を行う場合には、現在受け入れ態勢ができていないジャンベ留学制度やしおかぜ留学制度での長期的な受け入れにうまくつながるような工夫を行いたい。

ホストタウンの時もであったが、ギニアの事務局は**プログラムなどの決定がとても遅く**、今回も訪問によって関係構築はできたものの、プログラムに関する回答はすべて「まだ決まっていない」だった。過去の例からみれば良くてイベント 1 週間前に決まることが多い。急かして決まるようなものでもないのに、**余白のある計画で児童生徒を動かせるよう、引率の先生方に協力依頼と連携を密にする必要がある**。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

来年度のメインは**ギニアナショナルデー**における交流で、**本村の児童生徒（5 年生～9 年生）の 53 名が演奏を行う**。ギニアからはジャンベの他、歌やダンスといった伝統芸能を披露する集団も来るので、参加する子供達にとっては、**ジャンベ以外の文化に直接触れる良い機会**となる。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

村がギニアとの交流を進める目的の大部分は、特色ある地域づくりによる認知度向上とそれによって村への人の流れを作ることである。その手段として、ジャンベ留学及びしおかぜ留学での受け入れを想定し、ギニア大使から期待を述べられた通り、これらの事業によってジャンベを核としたギニア文化の発信基地としての役割を果たしていく。

今回のギニア調査の目的の一つは、将来的にギニアへの交流団派遣を想定した調査であった。交流は相手があつての事であり、相手方からの要望もそれなりに頂いている。実際に実現できそうな交流形態についていくつか想定ができたので、これから事業化を図る。実際に現地に交流団を派遣す

る際にはジャンベだけにとどまらない新たな交流のコンテンツやテーマを設けて双方にメリットのあるよう配慮したい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

ギニア国内は依然として厳しい状況ではあるが、発展しており、今回同行した外部講師含め、古くからギニアを知っている方ほど古いイメージのままアップデートされていないことが分かった。その前提で事業を進めても、現在のギニアに住む方々との交流の発展を考えた場合には阻害要因となりうるので、まずは住民・職員が現在のギニアを正しく知ることをサポートが必要である。上記に述べた通り、広報誌を活用して、出張で得た知見は住民に還元する。今年度のようにギニア人によって直接伝えられる事業ができればなお良いが、村の財政規模を考えると難しいのが現状である。

・その他

三島村×ギニアが 30 年の交流をなぜ続けてこられた要因

一点は**取り組みテーマが絞られていたこと**。今回のギニア訪問で「ギニアの文化はジャンベだけではない」とよく言われましたが、これまでその代表であるジャンベに絞って**取り組みを行うことで、住民には取り組みが理解しやすかった**と考えられる。特にジャンベという楽器は、日本にも太鼓があり親和性が高く、こうした共通点を切り口に交流を継続したことで、住民の参画が進んだと考える。

もう一点は、これは国及び事務局、委員会等からの財政的な支援が前提とはなりますが、**万博やオリンピックなどの機会を逃さず参画してきたこと**。国際交流事業、とくに青少年が対象となる交流事業はその成果が見えにくいですが、振り返ってみれば、**万博やオリンピックを機に取り組んだ内容で交流内容や対象者は広がってきた**。本村の事務体制を考えるとあえて取り組む事業ではないという向きもありますが、万博を終えてみればやはり交流が一步前進したなと思える事業になるよう、次年度も取り組む所存である。

（３４）沖縄県宜野座村

実施概要

交流相手国：カメルーン共和国

事業名：宜野座村とカメルーン・バカ族の異文化国際交流

目的・目標：バカ族との国際交流を図ることで、異文化理解を深め、地域の伝統芸能や文化を国内外に発信すること、住民が多様性を学び、国際感覚を養うこと、自然への敬意や地域資源への意識を高め、豊かな社会基盤を形成することを目標とする。

実施内容①：カメルーンの紹介活動

実施場所：

宜野座村ふれあい交流センターがらまん会議室

上記の相手：宜野座村内小学生（３校４クラス）

交流概要：

宜野座村教育委員会と連携し村内３小学校（４年生１クラス、５年生３クラス）を対象に、バカ族の暮らしや文化を体験するワークショップを開催。



実施内容②：宜野座村×カメルーン国際音楽交流コンサート

実施場所：宜野座村文化センターがらまんホール

交流概要：

宜野座村の伝統芸能団体とカメルーン音楽大使、中島さち子万博テーマ事業プロデューサー率いるクラゲバンドとの国際音楽交流コンサートを開催。開催に伴い駐日カメルーン大使も招聘。



実施内容③： 宜野座からのビデオレターを音楽人類学者の矢野原氏がバカ族の森へと届け、

2025 年の取組準備を行う

交流概要：

松田小学校 5 年生と創作エイサー団体(2 団体)とクラゲバンドがビデオレターをつくり、音楽人類学者の矢野原氏がそれらを携えてカメルーンの森を訪れ、互いのビデオレターを介した国際交流を行う。また、2025 年に宜野座村及び万博に来てもらえるよう交渉する。

実施総括

・交流事業実施前の目的・目標に対する成果 (地域内への波及効果や相手国への波及効果含む)

宜野座村の子ども達が、豊かな自然と共に生き、生活に根付く歌や踊り、祖先を敬う文化といった共通点をもつバカ族の暮らしや文化を疑似体験するワークショップを通じて、**異国の文化を学び相互理解を深め、自らの地域文化や伝統芸能・伝統音楽を顧みる良い機会となった。**参加した子ども達からは、「獲った獲物をみんなで分け合うことが印象的だった」「もっとバカ族について知りたい」「三線（サンシン）や自分たちの伝統音楽とバカ族の音楽を一緒にやってみたい」などの感想があがった。

国際音楽交流コンサートでは、子どもたちのエイサーや獅子舞の演舞、様々な国の人や楽器で一つのステージを作り上げた。異なる国や地域の人々が共通の体験を共有できるのが音楽であると実感した。

音楽を通じた国際交流で、多様性を学び、自然への敬意や地域のアイデンティティを再認識するという当初の目標を達成できたと考える。

・万博を契機としたレガシー創造へ寄与したこと

今年度のカメルーンとの国際交流を通じて、特にワークショップやコンサートを体験した子どもたちの中で、アフリカ・カメルーンという他地域／異国の文化や社会に関する興味・関心・さらなる探究心が芽生えている。それは、バカ族について「もっと知りたい」「体験したい」という思いから、カメルーン研究者

である矢野原氏とのオンライン授業を子どもたちが強く望んでいることにも如実に表れている。本国際交流を契機として、**子どもたちや保護者の中で、我々が暮らす社会と諸外国・諸地域とのつながりについて考える視野が確実に広がっている**ことが実感される。

来年度、バカ族が実際に宜野座村を訪れ、さらなる具体的なアフリカ・カメルーンとのつながりが、宜野座村・芸能団体・村民個々人の中で、精神的に豊かなものをもたらすことが期待される。

・今年度直面した課題とどのように克服したか（克服できなかった） 今後の事業展開をする上で想定される課題や解決策等

本年度の実施では、企画立案から予算編成、事業実施までの期間が短く、十分な広報や参加者の確保が難しかった。ワークショップについても、十分な準備期間があれば一般参加向けの企画も可能であったと考えられる。今後は、平日と週末を活用した日程調整などを含め、より余裕を持ったスケジュールを組むことで、周知期間を確保し、参加者の増加につなげたいと考える。

・来年度の取り組みや万博会場内での交流への展望

来年度、7月末～8月中旬にバカ族が来日・来沖予定である。

宜野座村では、村内にある3つの小学校すべてにおいてバカ族とのワークショップを行い、カメルーンやバカ族の文化を学び、また沖縄・宜野座の文化についてもともに学び合う。

そして、村内にある3つのエイサー団体とは、互いの音楽文化を基軸に文化交流し、特に祖先崇拜や自然への畏敬の念などの精神文化と音楽の関わりについて話し合う。

時間のゆるすかぎり交流を深めた後、そのアウトプットとして、新作の創作エーサーをともに作り、宜野座がらまんホールでの初演、万博会場でのワークショップ／上演へとつなげたい。

・来年度以降の取り組み・交流への展望

万博閉会后、宜野座村からカメルーン派遣メンバーを検討し、首都ヤウンデまたは東部州州都ベルトアにて、バカ族や他のカメルーンの人々との音楽・芸能を基軸とした国際文化交流を行いたい。

また、矢野原氏がすでに有する現地ネットワークを生かし、小学校・特別支援学校・孤児院などを訪問し、文化教育に関する意見交換などの国際交流も行いたい。

そして、現地における国際交流の具体的なアウトプットとして、来年度宜野座村にて創作予定のバカ族との新作エーサーを首都ヤウンデにおいて現地上演する可能性についても検討したい。

・国際交流の持続的展開のための今後実施予定の工夫や取り組み

前項までの取り組みが結実すれば、宜野座村とカメルーン・バカ族との持続的交流が可能になると考えられる。

それらを効果的に継続させる仕組みとして、例えば、小学校における探究学習の一環として、文字文化を持たないバカ族へのビデオレター・オーディオレターの作成とそのための事前学習を行い、子どもたちの国際的視野を広げる機会として機能させるなどの取り組みが考えられる。